

浪江町 住民意向調査 報 告 書

平成27年3月

復興庁
福島県
浪江町

浪江町 住民意向調査

報 告 書

目 次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	19
3-1-4 震災発生当時の住宅の状況	22
3-1-5 現在の住居形態	24
3-1-6 現在の自動車の保有状況	28
3-1-7 現在のペットの飼育状況	29
3-2 復興公営住宅の入居意向	30
3-2-1 復興公営住宅への入居意向	30
3-2-2 復興公営住宅への入居を希望する自治体と世帯構成	34
3-2-3 復興公営住宅に入居する場合に必要なと考えるサービス	38
3-2-4 復興公営住宅への入居を判断できない理由	40
3-2-5 復興公営住宅に入居しない場合に希望する住居形態	42
3-2-6 復興公営住宅への入居を希望しない場合に居住したい自治体	44
3-3 将来の意向	46
3-3-1 浪江町への帰還意向	46

3-3-2	浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報	52
3-3-3	浪江町への帰還時期	57
3-3-4	浪江町へ戻る時期を判断する条件	59
3-3-5	浪江町へ戻る場合の家族	61
3-3-6	浪江町へ戻る場合の世帯構成・人数	63
3-3-7	震災発生当時の行政区への帰還意向	64
3-3-8	震災発生当時とは別の行政区に戻ってもよい理由	68
3-3-9	震災発生当時とは別の行政区へ帰還する場合に希望する住居形態	70
3-3-10	希望する公営住宅の住居形態	73
3-3-11	現時点で戻らないと決めている理由	75
3-3-12	帰還を判断するまでの間、または帰還しない場合に居住したい主な自治体	78
3-3-13	帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	80
3-3-14	浪江町へ戻らない場合の今後の生活において必要な支援	81
3-4	情報の入手とコミュニケーション	83
3-4-1	浪江町に関する情報の入手経路	83
3-4-2	浪江町役場からの情報提供への満足度	85
3-4-3	浪江町役場から提供してほしい情報	87
3-4-4	連絡を取り合う頻度	89
3-4-5	現在の気持ち	98
3-5	意見・要望	100
IV	参考資料	113
4-1	使用調査票	115

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、浪江町住民の復興公営住宅の入居意向など避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	浪江町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 9,749 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成 26 年 8 月 8 日（金）～平成 26 年 8 月 22 日（金）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、浪江町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 5,796 世帯（有効回収率 59.5%）

1-5 報告書の見方

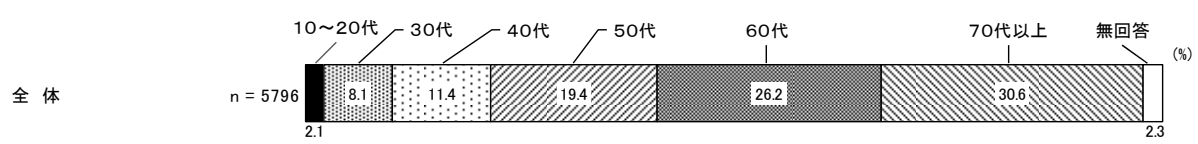
- ・調査数（ n = Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の行政区別の分析は n 値が 30 を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

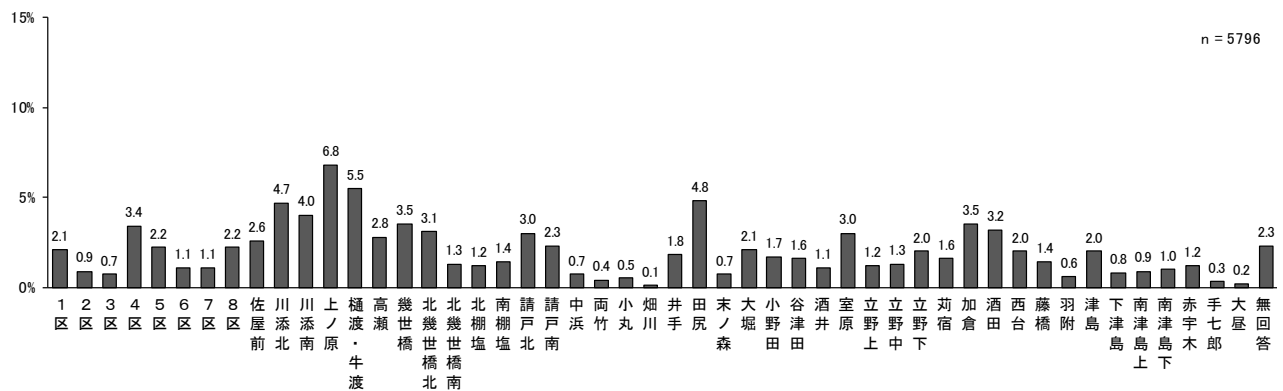
(1) 年齢

＜図表2-1-1＞



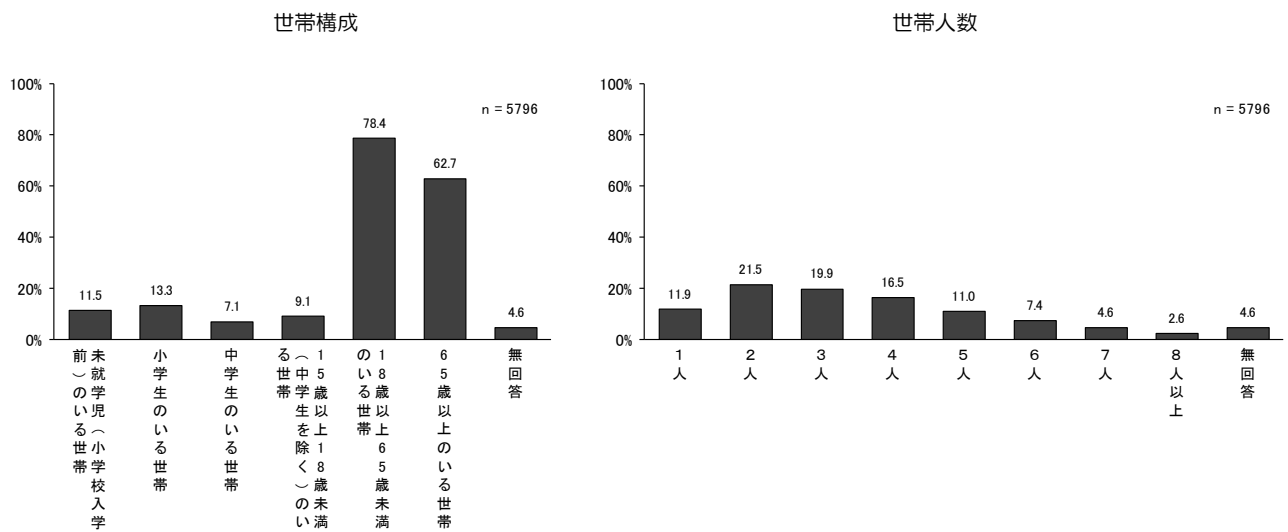
(2) 震災発生当時居住していた行政区

＜図表2-1-2＞

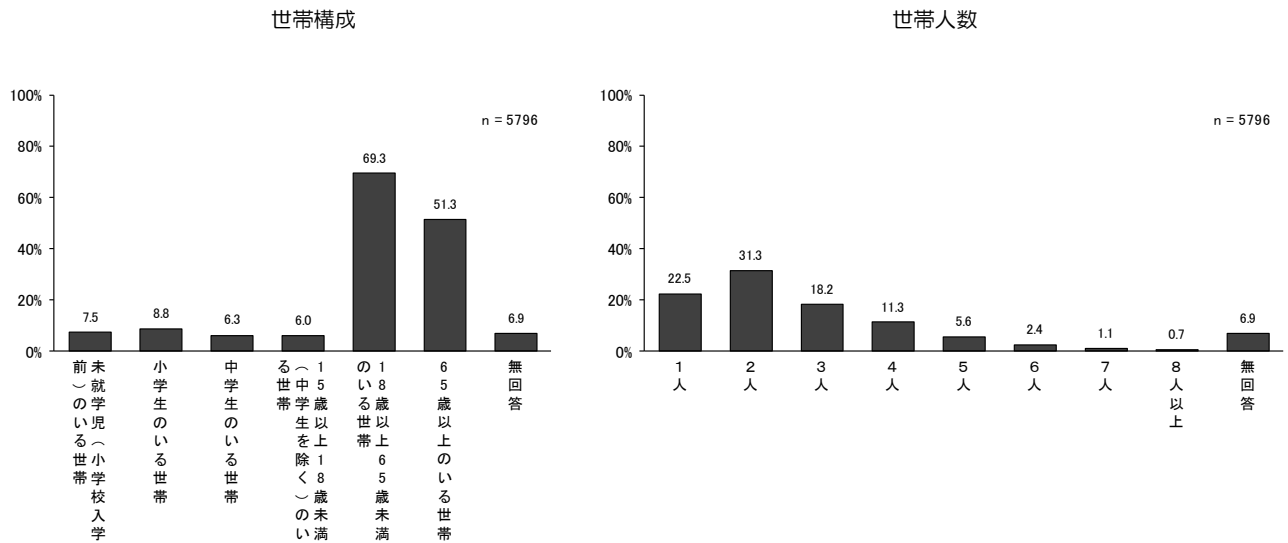


(3) 世帯構成・人数

＜図表2-1-3 震災発生当時の世帯構成・人数＞

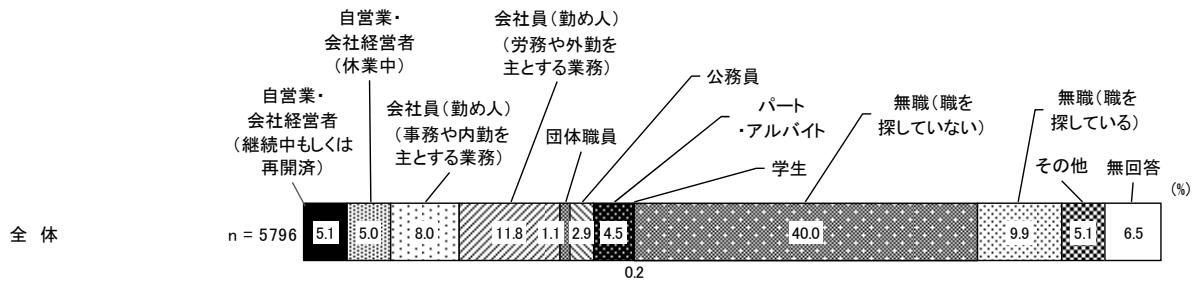


＜図表2-1-4 現在の世帯構成・人数＞

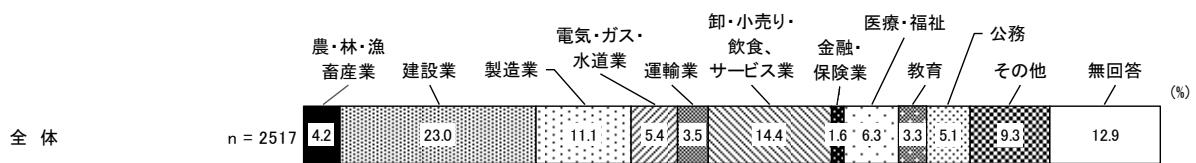


(4) 職業

<図表2-1-5 現在の職業(就業形態)>

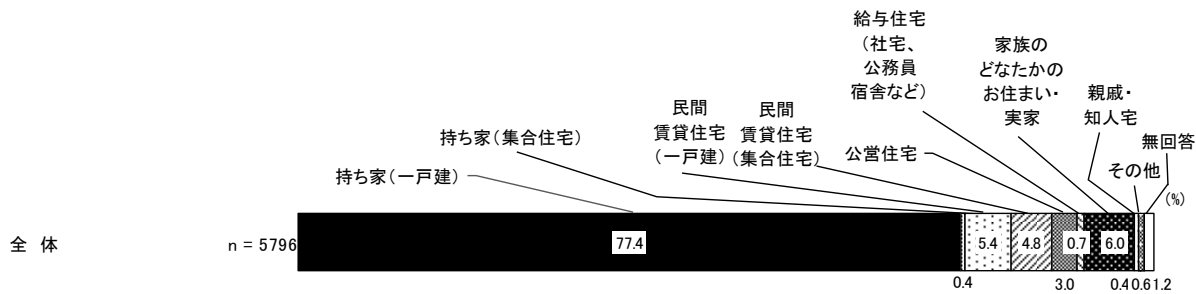


<図表2-1-6 現在の業種>

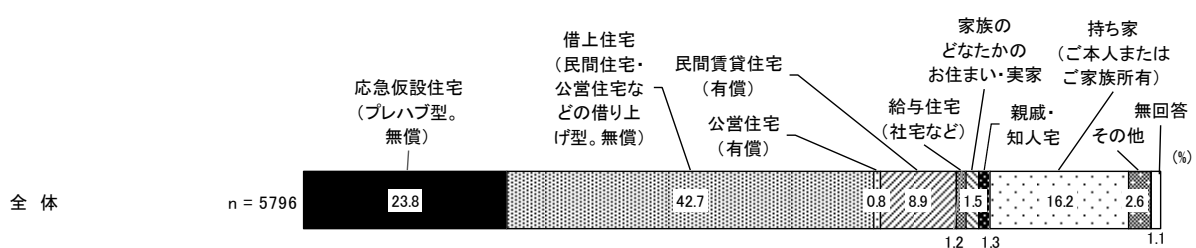


(5) 住居形態

<図表2-1-7 震災発生当時の住居形態>



<図表2-1-8 現在の住居形態>



Ⅲ 調査結果

3-1 現在の状況

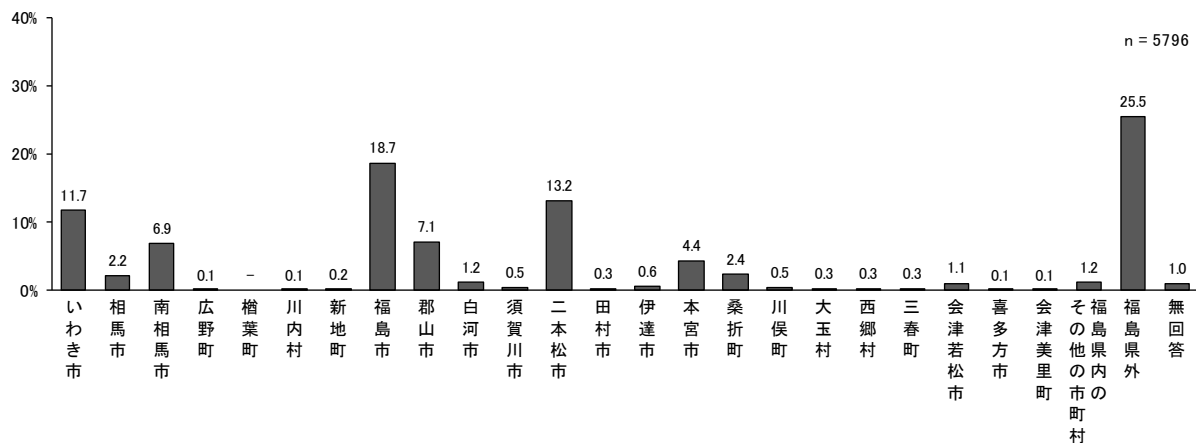
3-1-1 現在の避難先自治体

問5 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(〇は1つ)

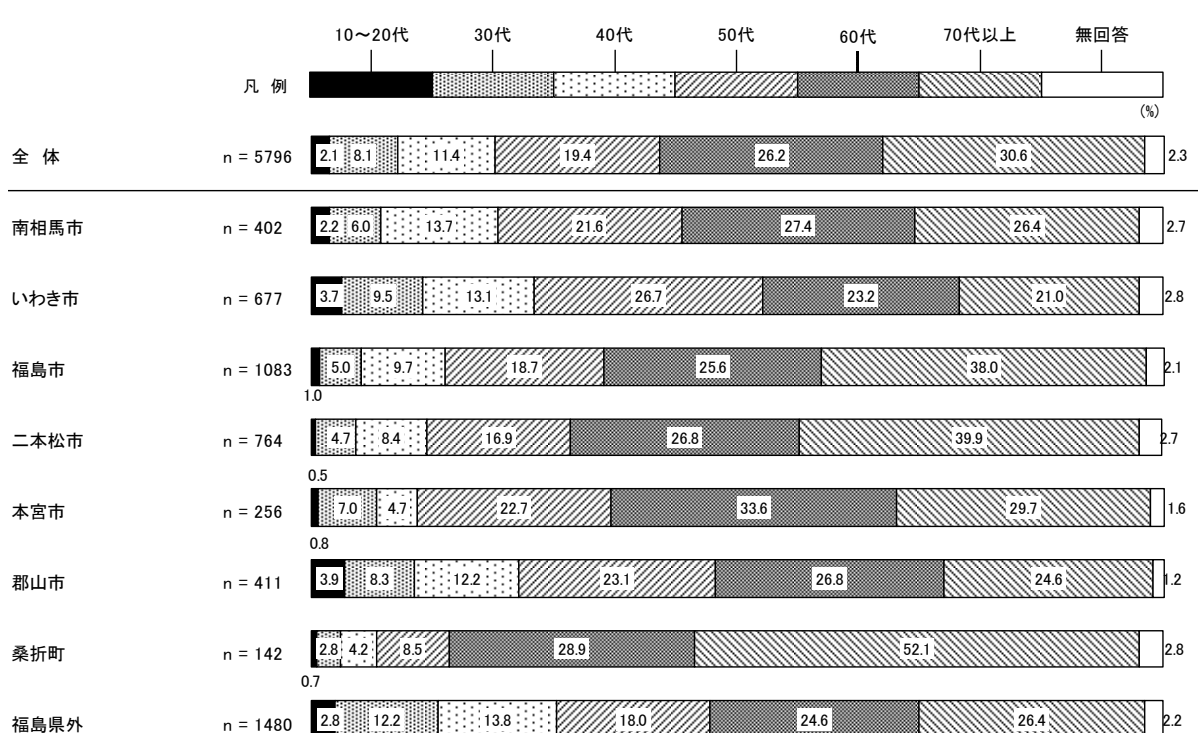
現在の避難先自治体については、「福島県外」が25.5%と最も高く、次いで「福島市」が18.7%、「二本松市」が13.2%となっている。

避難先の主な自治体について回答者の年齢別にみると、「桑折町」は60代以上が81.0%と8割以上を占め、高齢層が高い。一方、「いわき市、郡山市、福島県外」では30代以下が1割を超えており、若年層の割合が比較的高くなっている。

＜図表3-1-1-1 避難先自治体＞



＜図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成＞



震災発生当時の行政区別にみると、南棚塩、1区、では「福島市」が3割以上となっている。また、羽附、畑川、手七郎、小丸では「二本松市」が3割以上、畑川では「本宮市」が3割以上となっている。

＜図表3-1-1-3 主な避難先自治体（行政区別）＞

									(%)
	n	南相馬市	いわき市	福島市	二本松市	本宮市	郡山市	桑折町	福島県外
全 体	5796	6.9	11.7	18.7	13.2	4.4	7.1	2.4	25.5
1区	119	4.2	9.2	31.9	9.2	0.8	7.6	2.5	25.2
2区	52	9.6	13.5	9.6	9.6	5.8	5.8	3.8	38.5
3区	40	12.5	15.0	27.5	5.0	-	5.0	2.5	25.0
4区	199	7.5	13.1	21.6	13.6	4.0	6.0	2.5	24.1
5区	129	7.0	8.5	24.0	10.1	1.6	8.5	4.7	29.5
6区	65	9.2	15.4	26.2	9.2	1.5	-	6.2	23.1
7区	63	4.8	11.1	19.0	12.7	1.6	6.3	1.6	33.3
8区	130	3.1	13.1	26.2	13.1	2.3	3.8	2.3	28.5
佐屋前	151	4.0	9.3	19.9	11.3	2.0	6.6	2.6	32.5
川添北	275	6.2	13.1	17.8	11.6	1.8	11.6	2.2	26.9
川添南	231	7.8	13.9	15.6	11.3	3.5	6.1	3.0	31.6
上ノ原	394	6.6	12.7	14.7	14.7	3.8	7.4	4.6	27.7
樋渡・牛渡	320	6.3	10.0	19.7	13.4	4.1	5.6	0.9	29.1
高瀬	163	9.8	12.9	14.7	11.0	2.5	14.1	3.1	19.6
幾世橋	203	5.9	10.8	16.3	10.3	3.4	9.4	2.0	34.5
北幾世橋北	177	11.3	11.9	19.8	11.3	6.8	7.9	2.8	19.2
北幾世橋南	74	9.5	10.8	16.2	6.8	9.5	8.1	1.4	28.4
北棚塩	67	7.5	11.9	28.4	6.0	7.5	6.0	1.5	28.4
南棚塩	82	15.9	11.0	35.4	3.7	2.4	3.7	-	17.1
請戸北	171	9.4	12.3	21.6	10.5	-	4.1	1.2	31.6
請戸南	136	5.1	14.7	23.5	14.0	2.2	2.9	2.2	30.1
中浜	38	5.3	23.7	23.7	13.2	-	10.5	-	15.8
両竹	25	4.0	24.0	20.0	4.0	4.0	4.0	-	32.0
小丸	29	6.9	13.8	17.2	34.5	6.9	-	-	13.8
畑川	8	-	12.5	-	37.5	37.5	-	-	12.5

									(%)
	n	南相馬市	いわき市	福島市	二本松市	本宮市	郡山市	桑折町	福島県外
井手	105	5.7	14.3	20.0	22.9	5.7	4.8	1.0	19.0
田尻	279	8.2	12.2	10.0	12.5	4.3	10.4	2.9	30.8
末ノ森	43	14.0	16.3	14.0	20.9	-	4.7	2.3	11.6
大堀	119	6.7	16.0	14.3	6.7	9.2	9.2	0.8	24.4
小野田	97	5.2	18.6	9.3	15.5	3.1	6.2	-	26.8
谷津田	91	3.3	17.6	20.9	8.8	4.4	7.7	5.5	24.2
酒井	62	4.8	14.5	14.5	11.3	1.6	21.0	1.6	22.6
室原	173	8.1	10.4	17.9	12.1	4.6	6.9	4.0	24.3
立野上	72	8.3	5.6	16.7	19.4	9.7	5.6	2.8	26.4
立野中	75	10.7	9.3	16.0	13.3	8.0	8.0	-	22.7
立野下	114	6.1	19.3	18.4	21.1	3.5	2.6	3.5	16.7
菊宿	94	4.3	13.8	21.3	7.4	6.4	9.6	-	24.5
加倉	204	4.4	8.8	17.6	16.7	4.9	9.3	2.0	24.5
酒田	183	7.7	9.8	16.4	9.3	7.1	6.0	3.8	28.4
西台	115	8.7	14.8	15.7	13.9	8.7	6.1	0.9	26.1
藤橋	83	14.5	9.6	15.7	12.0	3.6	4.8	1.2	31.3
羽附	35	2.9	-	28.6	42.9	14.3	-	-	5.7
津島	114	2.6	2.6	25.4	28.1	6.1	5.3	0.9	10.5
下津島	49	6.1	2.0	12.2	26.5	6.1	10.2	8.2	16.3
南津島上	53	7.5	-	15.1	18.9	17.0	5.7	3.8	18.9
南津島下	59	-	8.5	28.8	28.8	11.9	1.7	8.5	5.1
赤宇木	68	8.8	1.5	27.9	16.2	8.8	4.4	1.5	11.8
手七郎	19	10.5	-	26.3	36.8	5.3	10.5	-	5.3
大昼	14	7.1	-	7.1	14.3	21.4	-	14.3	28.6
不明	5	-	20.0	20.0	20.0	-	-	-	20.0

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

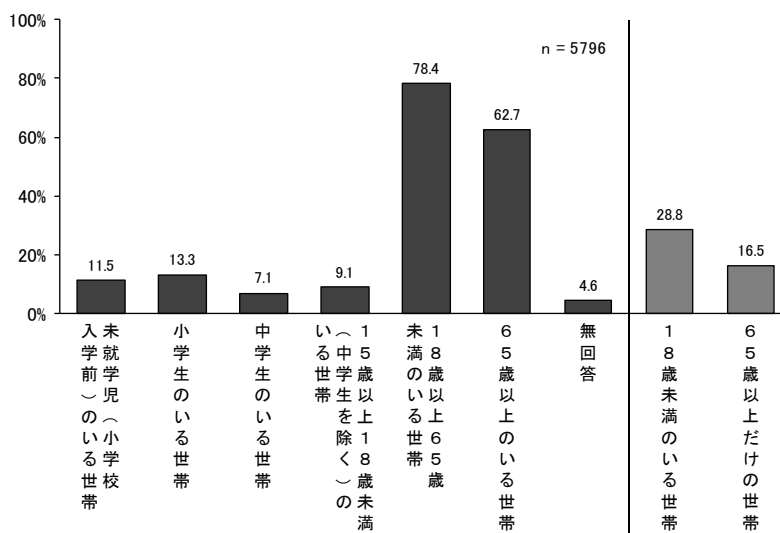
問6 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。いずれについても、あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

(2) 震災発生当時に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

① 震災発生当時の世帯構成

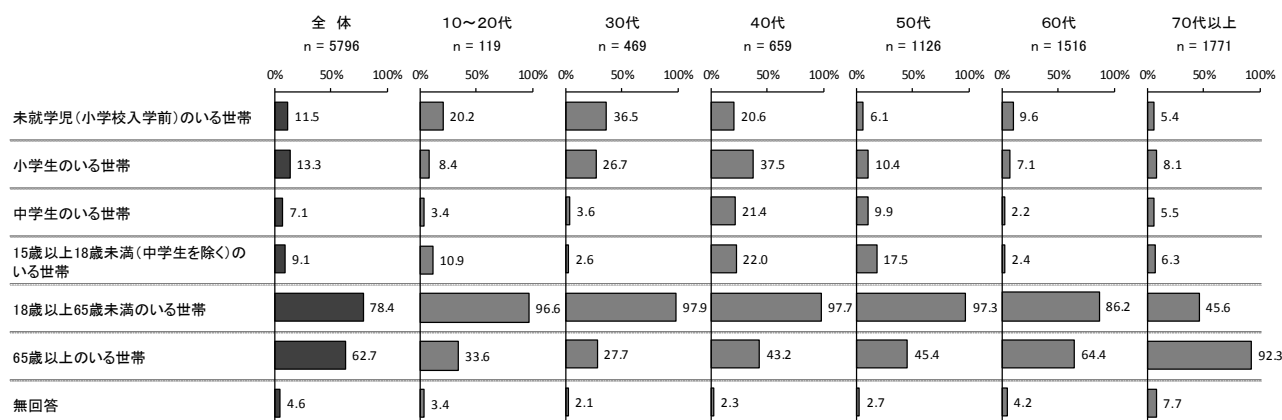
震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が78.4%、「65歳以上のいる世帯」が62.7%となっている。一方、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上18歳未満のいる世帯」はいずれも1割前後となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



*集計結果を基に再集計

<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>

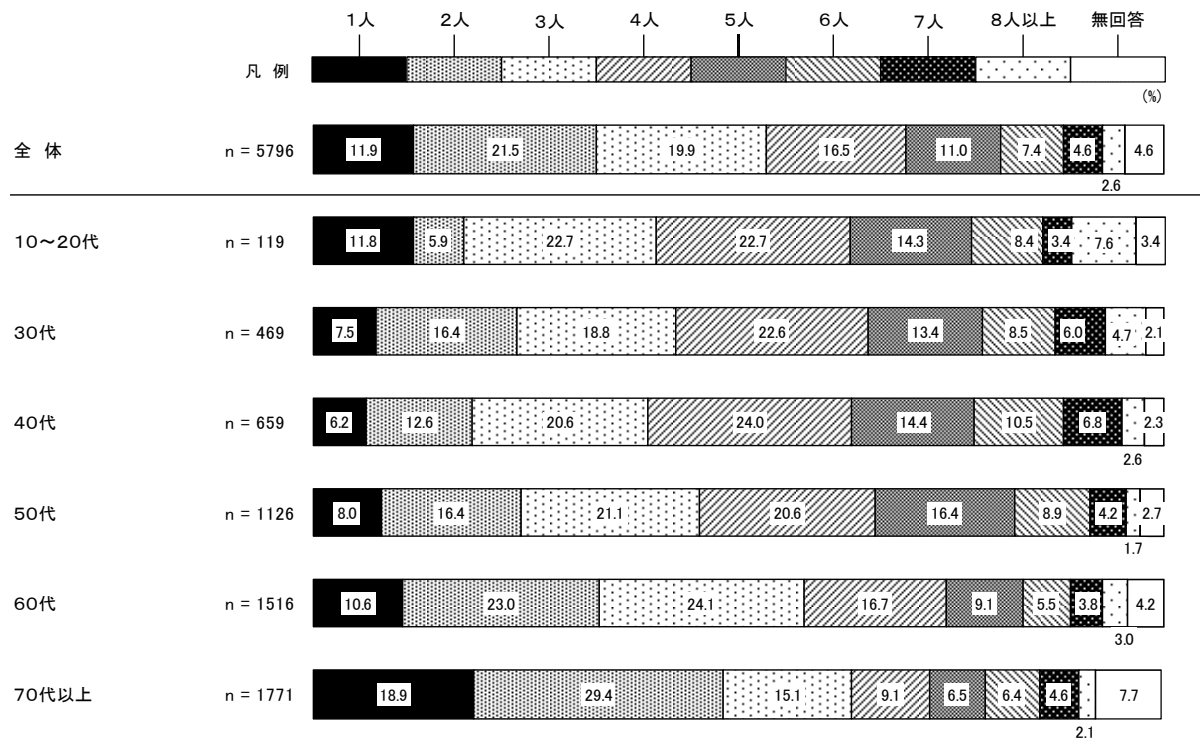


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「2人」が21.5%と最も高く、次いで「3人」(19.9%)、「4人」(16.5%)となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上で29.4%と最も高くなっている。「3人」は60代で24.1%、「4人」は40代で24.0%と最も高くなっている。

＜図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数（年齢別）＞



(2) 現在の世帯構成・人数

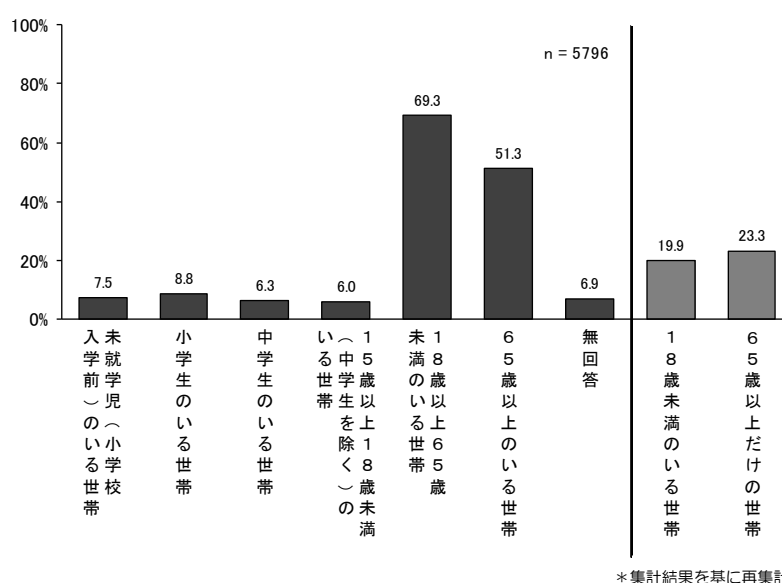
問6 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。いずれについても、あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

(1) 現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

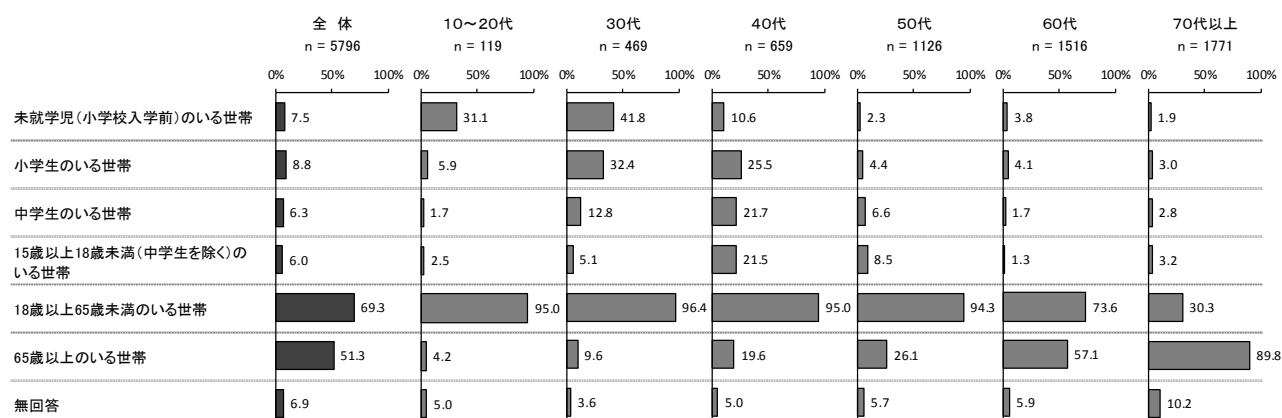
① 現在の世帯構成

現在の世帯構成は、「18歳以上 65歳未満のいる世帯」が69.3%、「65歳以上のいる世帯」が51.3%となっている。一方、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上 18歳未満のいる世帯」はいずれも1割未満となっている。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>

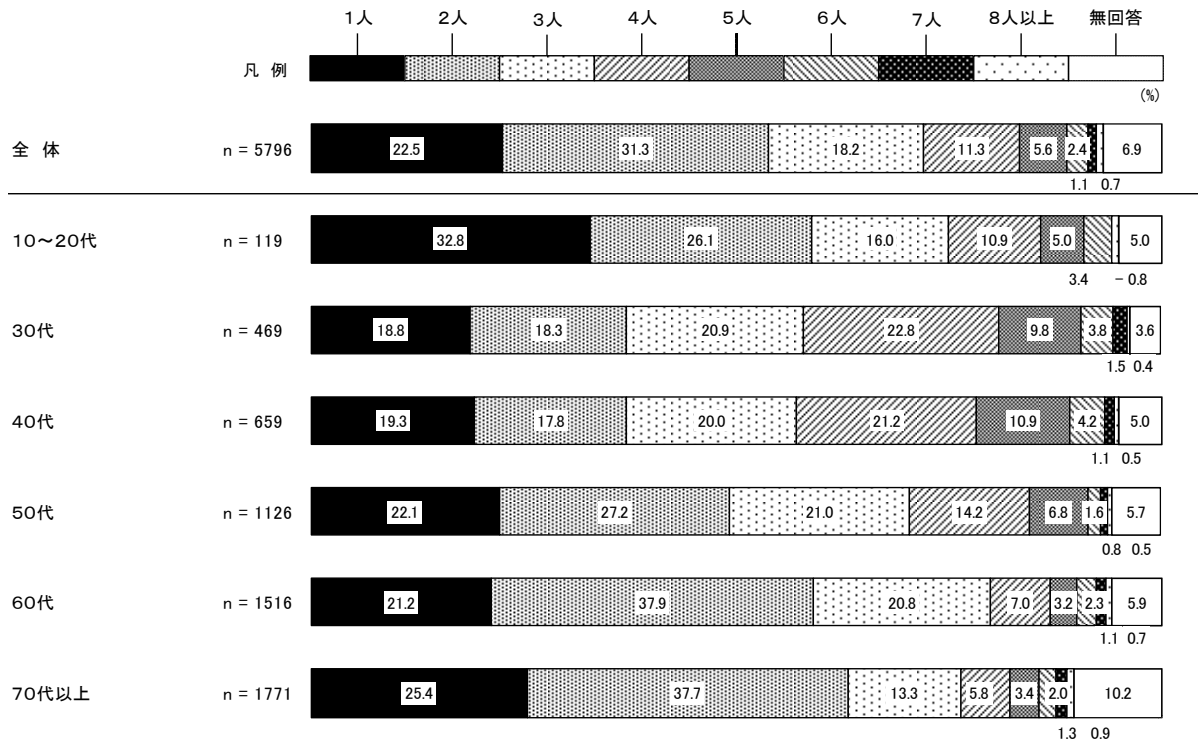


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2 人」が 31.3%と最も高く、次いで「1 人」(22.5%)、「3 人」(18.2%) となっている。

回答者の年齢別にみると、「1 人」は 10～20 代(32.8%)、「2 人」は 60 代(37.9%)、70 代以上(37.7%)、「4 人」は 30 代 (22.8%)、40 代 (21.2%) が他の年齢と比べ高くなっている。

<図表 3-1-2-6 現在の世帯人数(年齢別)>



3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

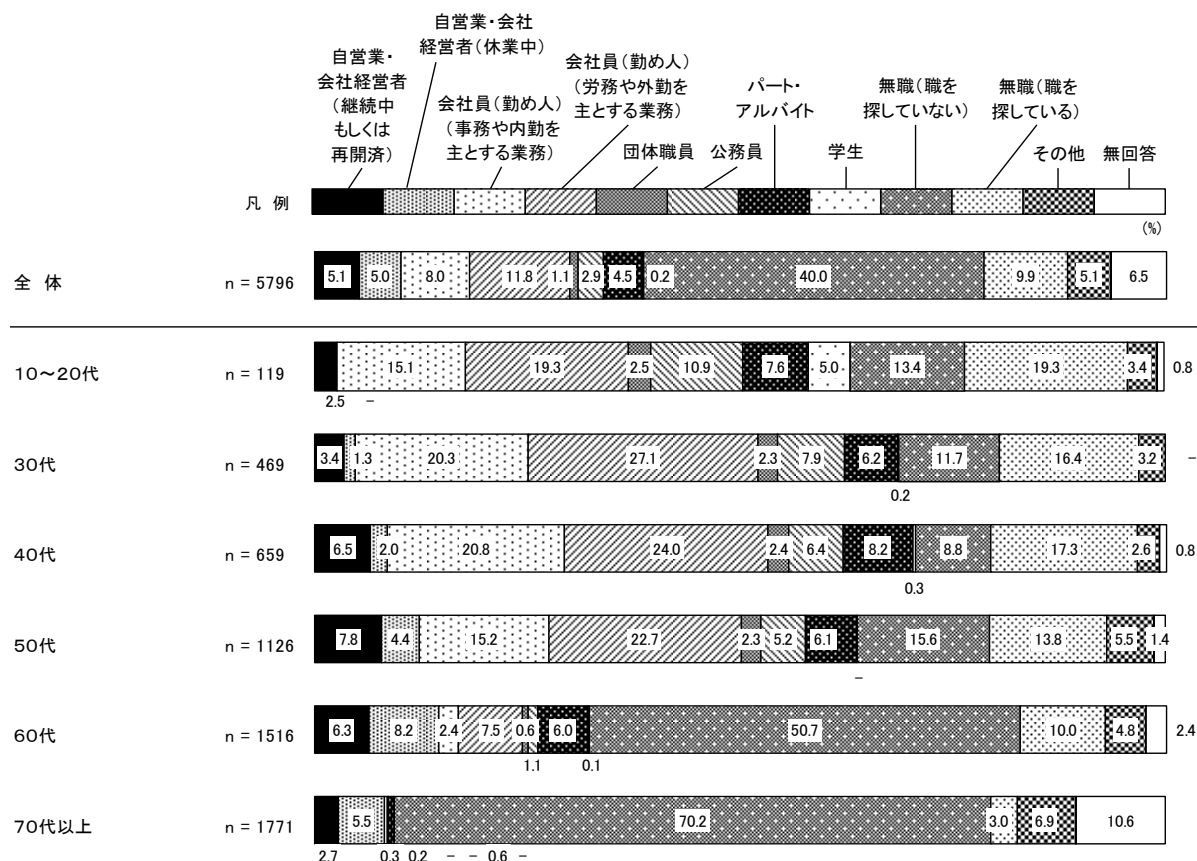
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

現在の職業（就業形態）については、無職以外では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が11.8%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が8.0%となっている。

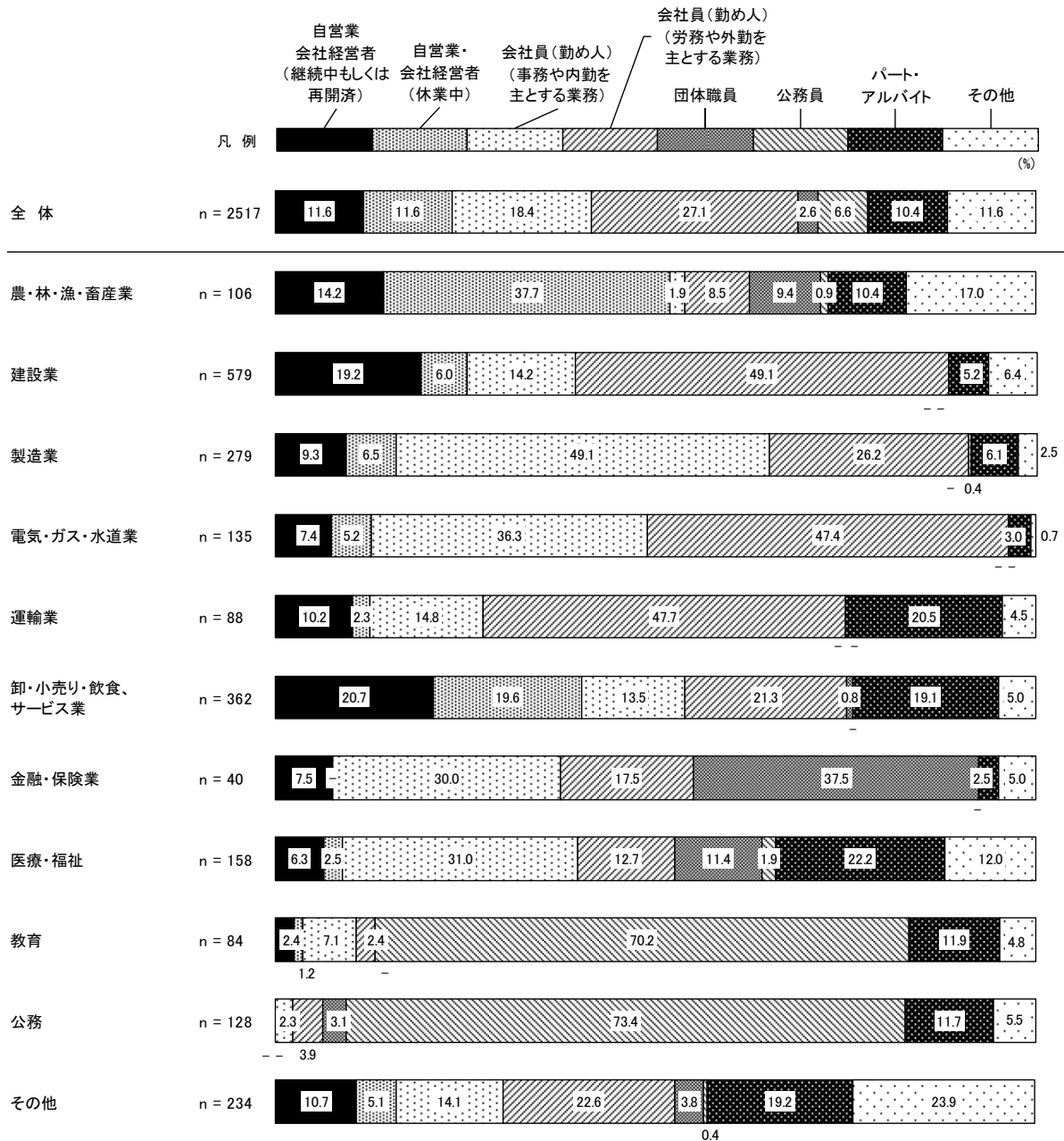
回答者の年齢別にみて、それぞれ最も高い割合を占めている職業は 10～20代は「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」「無職（職を探している）」（ともに19.3%）、30代は「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（27.1%）、40代は「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（24.0%）、50代は「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（22.7%）、60代は「無職（職を探していない）」（50.7%）、70代は「無職（職を探していない）」（70.2%）となっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



世帯主が就業しているとした世帯について業種別にみると、建設業では「会社員(勤め人) (労務や外勤を主とする業務)」(49.1%)、運輸業では「会社員(勤め人) (労務や外勤を主とする業務)」(47.7%)、製造業では「会社員(勤め人) (事務や内勤を主とする業務)」(49.1%)が他の業種と比べ高くなっている。

<図表3-1-3-2 現在の職業(業種別)>



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

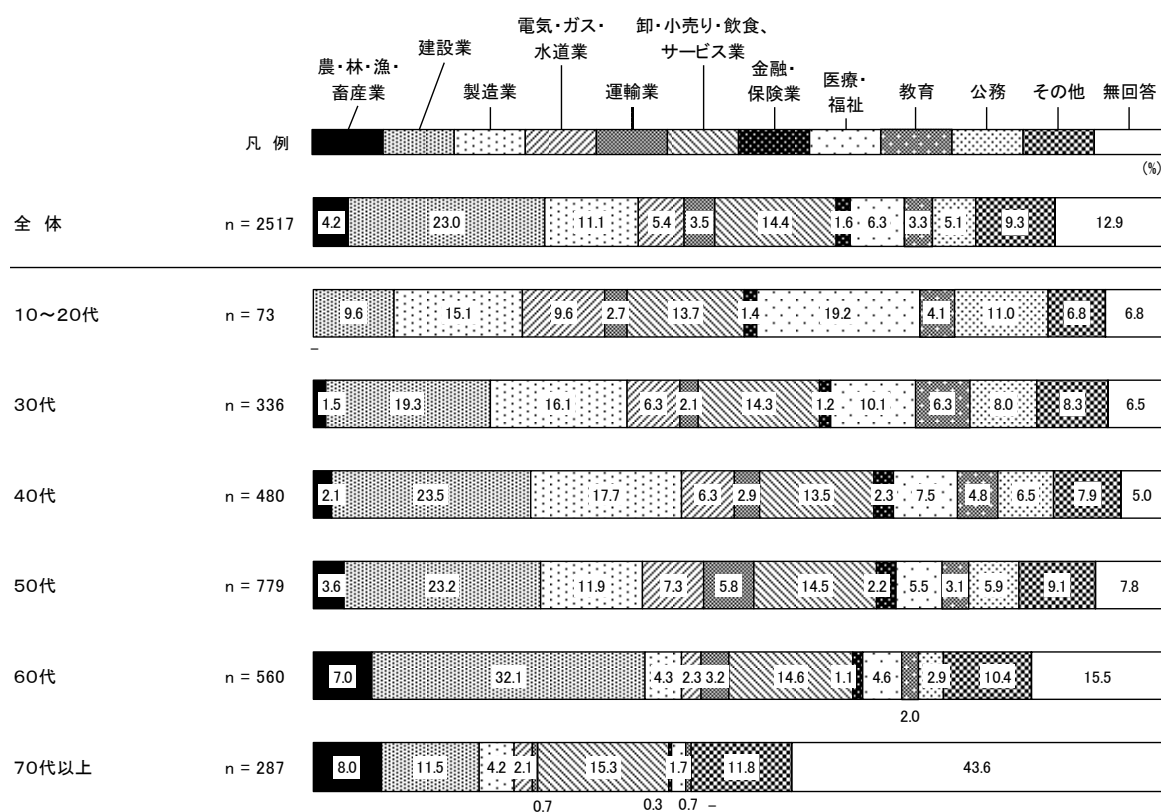
【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種(〇は1つ)

世帯主が就業しているとした世帯の業種については、「建設業」が23.0%と最も高く、次いで「卸・小売り・飲食、サービス業」が14.4%、「製造業」が11.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は、60代が32.1%、「医療・福祉」は、10～20代が19.2%、「製造業」は、40代が17.7%、30代が16.1%、10～20代が15.1%となっており、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-1-3-3 業種(年齢別)>



3-1-4 震災発生当時の住宅の状況

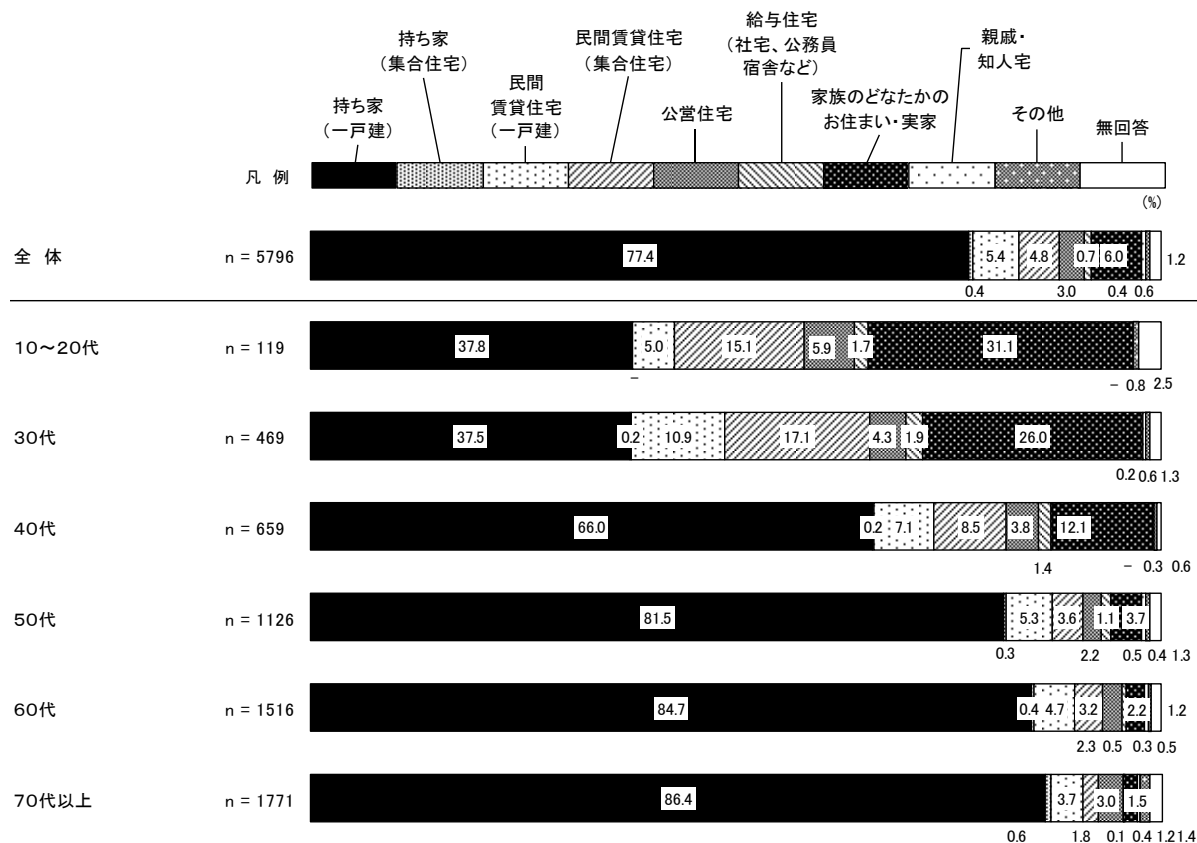
(1) 震災発生当時の住居形態

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家(一戸建)」が77.4%と最も高く、「持ち家(集合住宅)」(0.4%)を合わせたく持ち家>は77.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家(一戸建)」は概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上では86.4%と9割近くを占める。一方、「民間賃貸住宅(集合住宅)」、「家族のどなたかのお住まい・実家」は若年層で高く、「民間賃貸住宅(集合住宅)」は10~20代で15.1%、30代で17.1%、「家族のどなたかのお住まい・実家」は10~20代で31.1%、30代で26.0%となっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態(年齢別)>



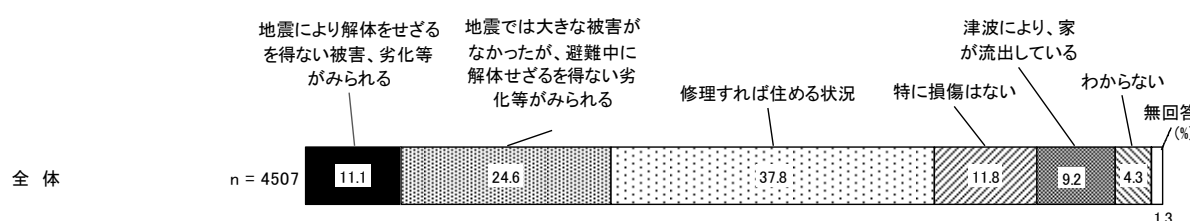
(2) 震災発生当時の住宅の状況

【問 4 で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問 4-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(〇は1つ)

震災発生当時の住宅の状況については、「修理すれば住める状況」が37.8%と最も高く、次いで「地震では大きな被害がなかったが、避難中に解体せざるを得ない劣化等がみられる」が24.6%となっている。

＜図表3-1-4-2 震災発生当時の住宅の状況＞



(3) 震災発生当時の住宅の今後の所有

【問 4 で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

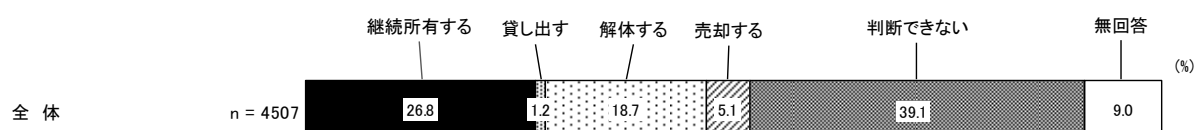
問 4-2 震災発生当時にお住まいだった住宅について、今後の所有をどのようにお考えですか。

(「1. 建物」「2. 宅地」それぞれについて、表内の該当するところに〇)

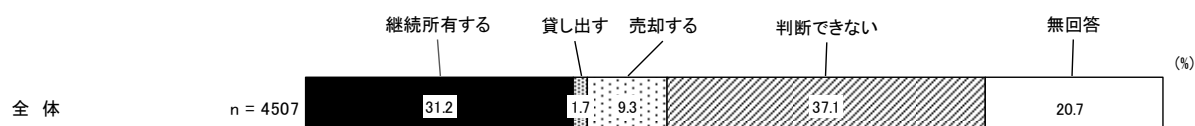
震災発生当時の住宅(建物)の今後の所有については、「判断できない」が39.1%と最も高く、次いで「継続所有する」が26.8%となっている。

震災発生当時の住宅(土地)の今後の所有についても同様に、「判断できない」が37.1%と最も高く、次いで「継続所有する」が31.2%となっている。

＜図表3-1-4-3 震災発生当時の住宅の今後の所有(建物)＞



＜図表3-1-4-4 震災発生当時の住宅の今後の所有(土地)＞



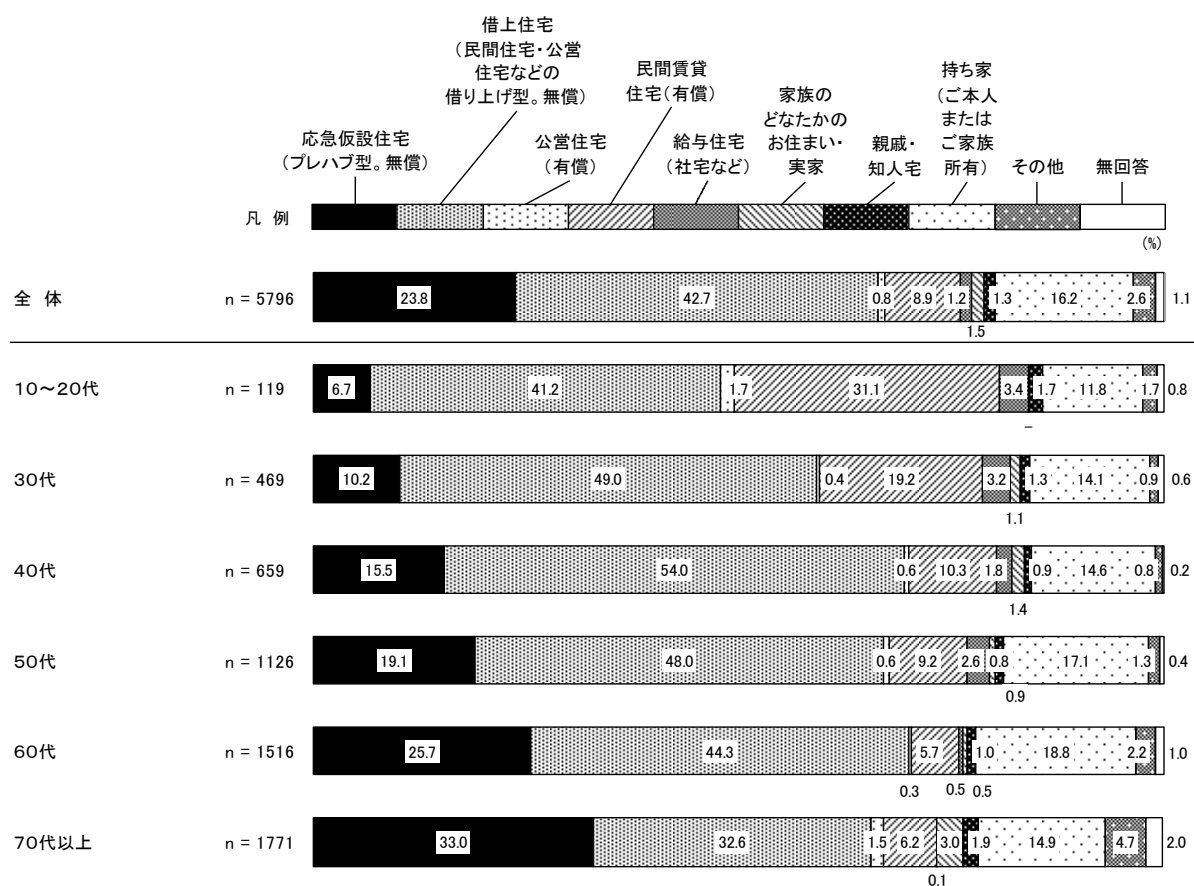
3-1-5 現在の住居形態

問7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が42.7%と最も高く、次いで「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」が23.8%、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が16.2%となっている。

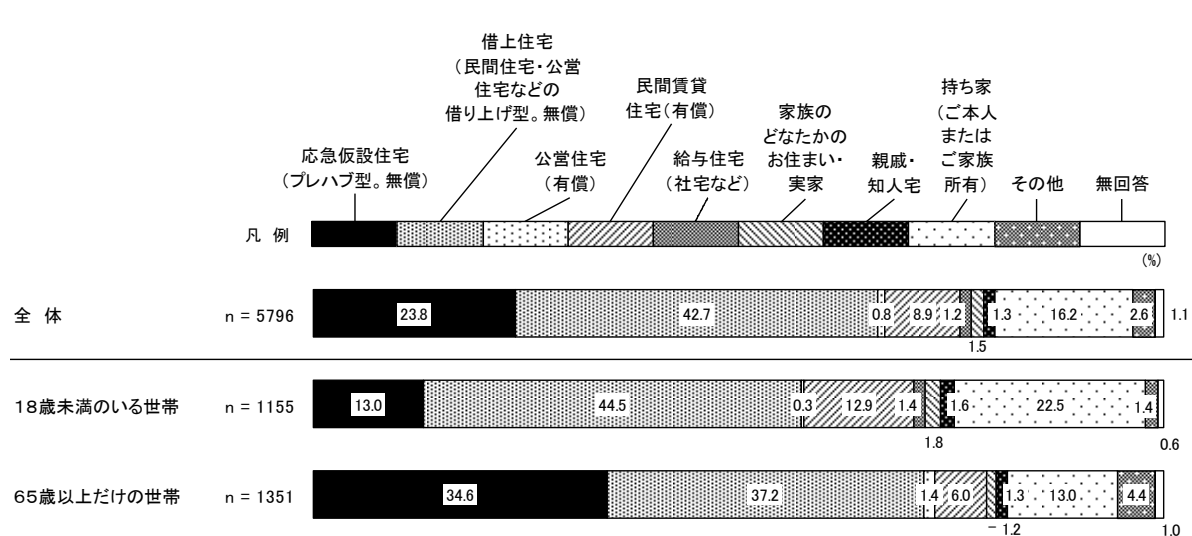
回答者の年齢別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上では33.0%となっている。一方、「民間賃貸住宅（有償）」では若年層で高く、10～20代が31.1%、30代で19.2%となっている。「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は40代（54.0%）が他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-1-5-1 現在の住居形態（年齢別）>



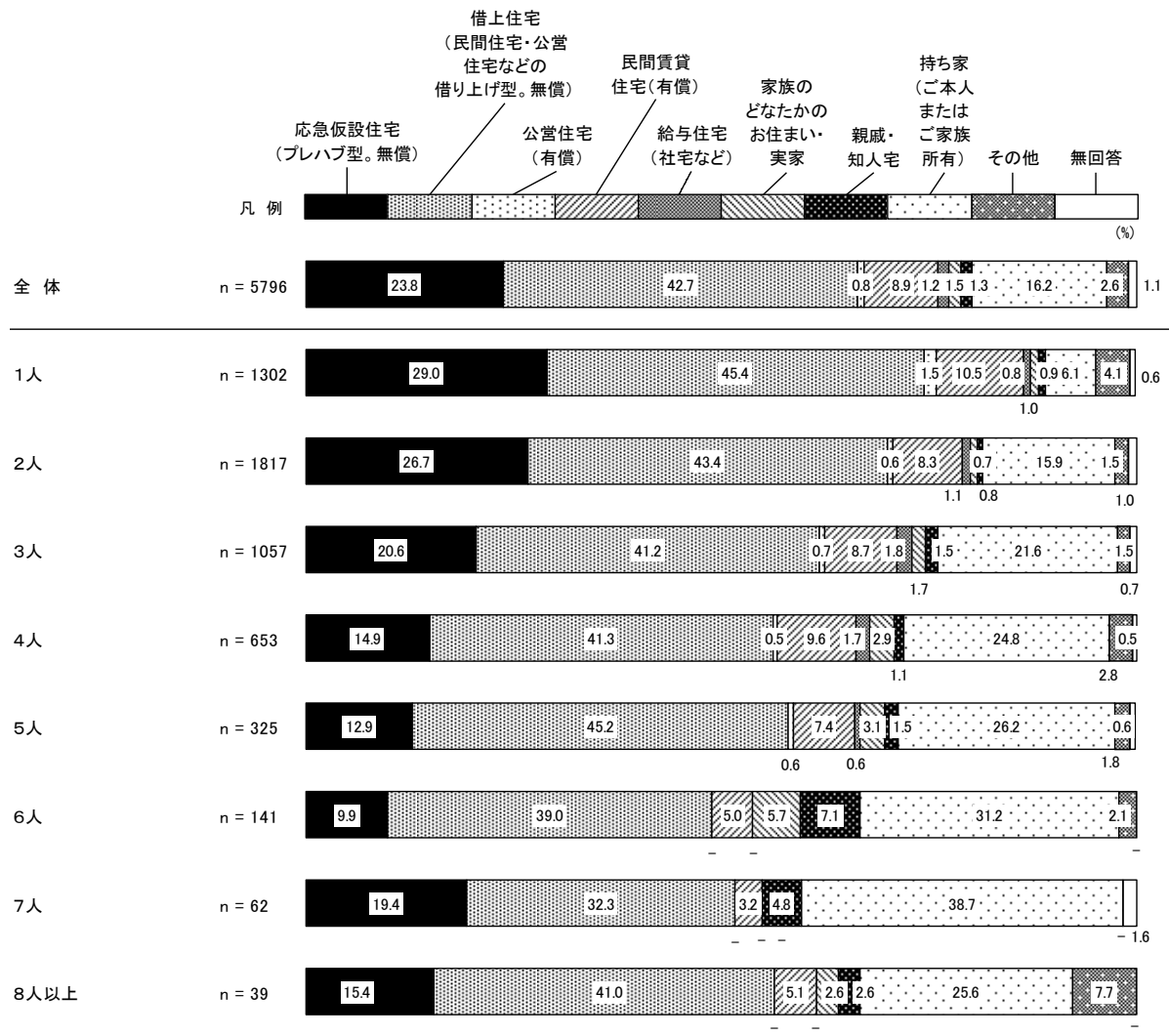
世帯構成別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、65 歳以上だけの世帯が 34.6%と高くなっている。「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、18 歳未満のいる世帯が 22.5%と高くなっている。

＜図表 3-1-5-2 現在の住居形態（世帯構成別）＞



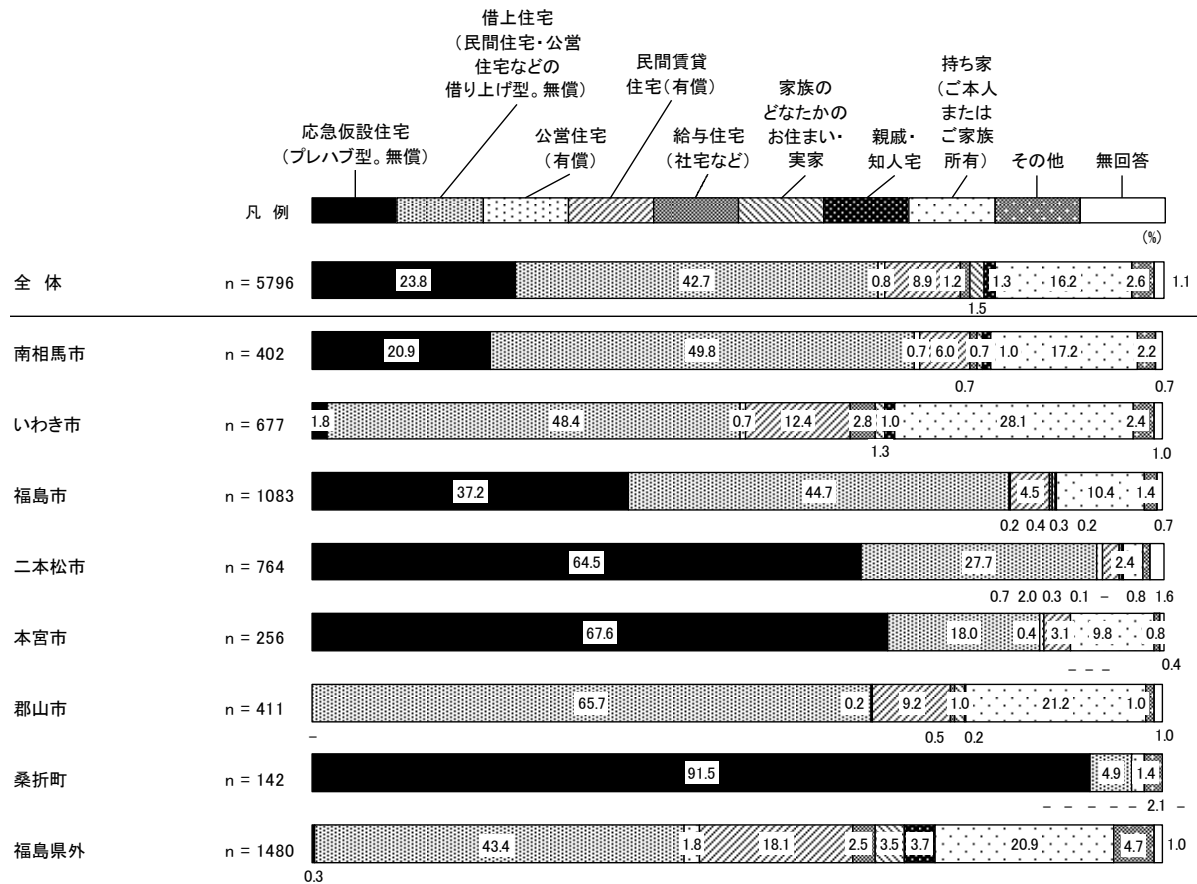
世帯人数別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、世帯人数が多くなるにつれ割合が低くなり、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は世帯人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にある。

＜図表3-1-5-3 現在の住居形態（世帯人数別）＞



主な避難先自治体別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、桑折町（91.5%）、本宮市（67.6%）、二本松市（64.5%）が、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」はいわき市（28.1%）、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は郡山市（65.7%）が他の自治体と比べ高くなっている。

<図表3-1-5-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>



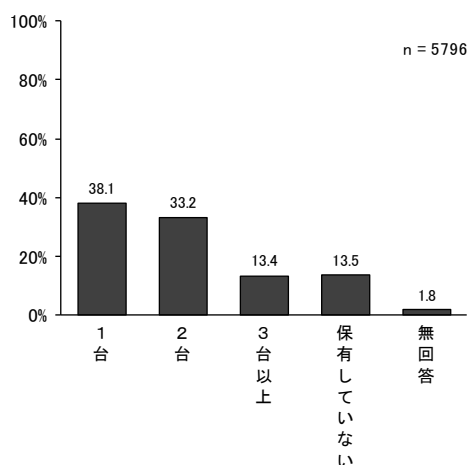
3-1-6 現在の自動車の保有状況

問 8 現在、自動車は何台保有していますか。(〇は1つ)

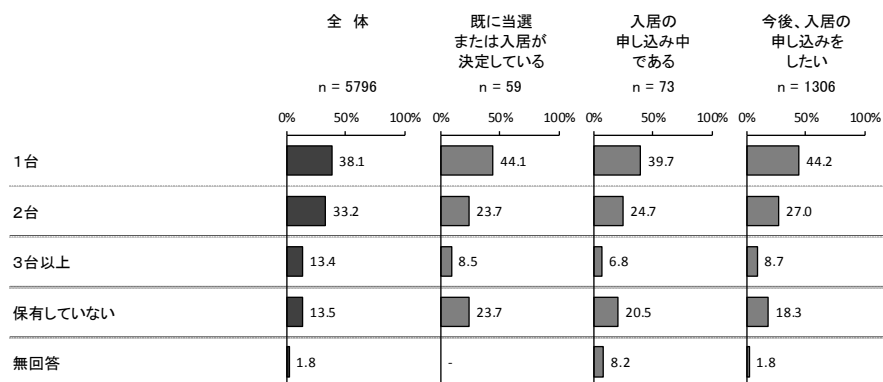
現在の自動車保有状況については、「1 台」が 38.1%と最も高いが、複数台所有している人も全体の約半数を占める。

復興公営住宅への入居意向別にみると、いずれも「1 台」が最も高くなっている。

＜図表 3-1-6-1 現在の自動車の保有状況＞



＜図表 3-1-6-2 現在の自動車の保有状況（復興公営住宅への入居意向別）＞

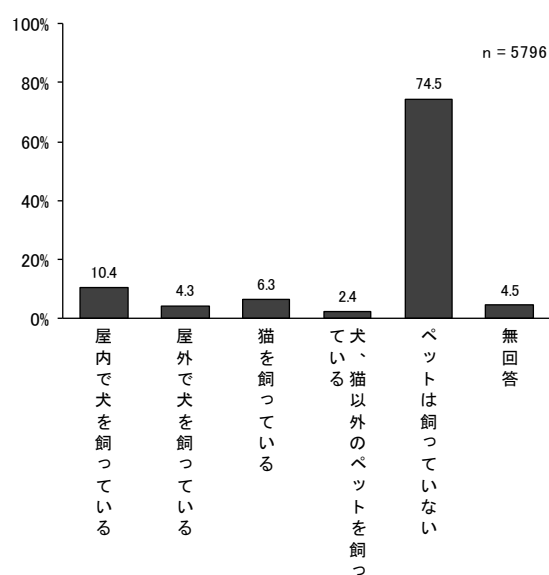


3-1-7 現在のペットの飼育状況

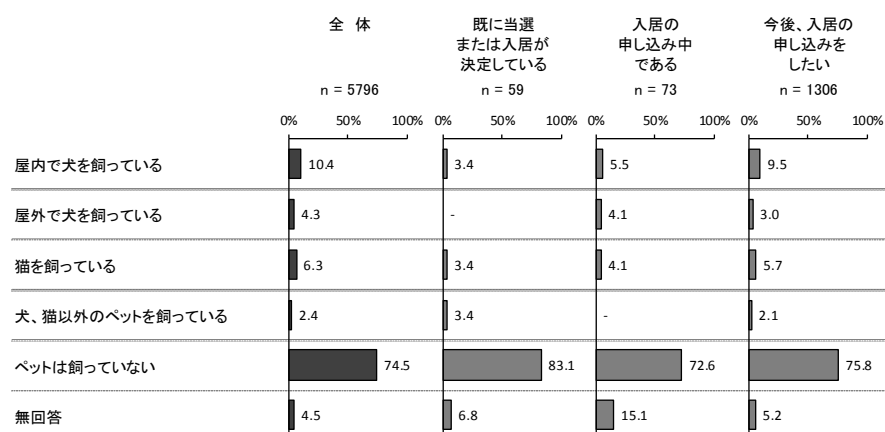
問9 現在、ペットを飼っていますか。(〇はいくつでも)

現在のペットの飼育状況については、ペットは飼っていない世帯が74.5%と最も高く、次いで、犬を飼っている世帯(「屋内で犬を飼っている」、「屋外で犬を飼っている」)が14.7%、猫を飼っている世帯が6.3%となっている。

＜図表3-1-7-1 現在のペットの飼育状況＞



＜図表3-1-7-2 現在のペットの飼育状況(復興公営住宅への入居意向別)＞



3-2 復興公営住宅の入居意向

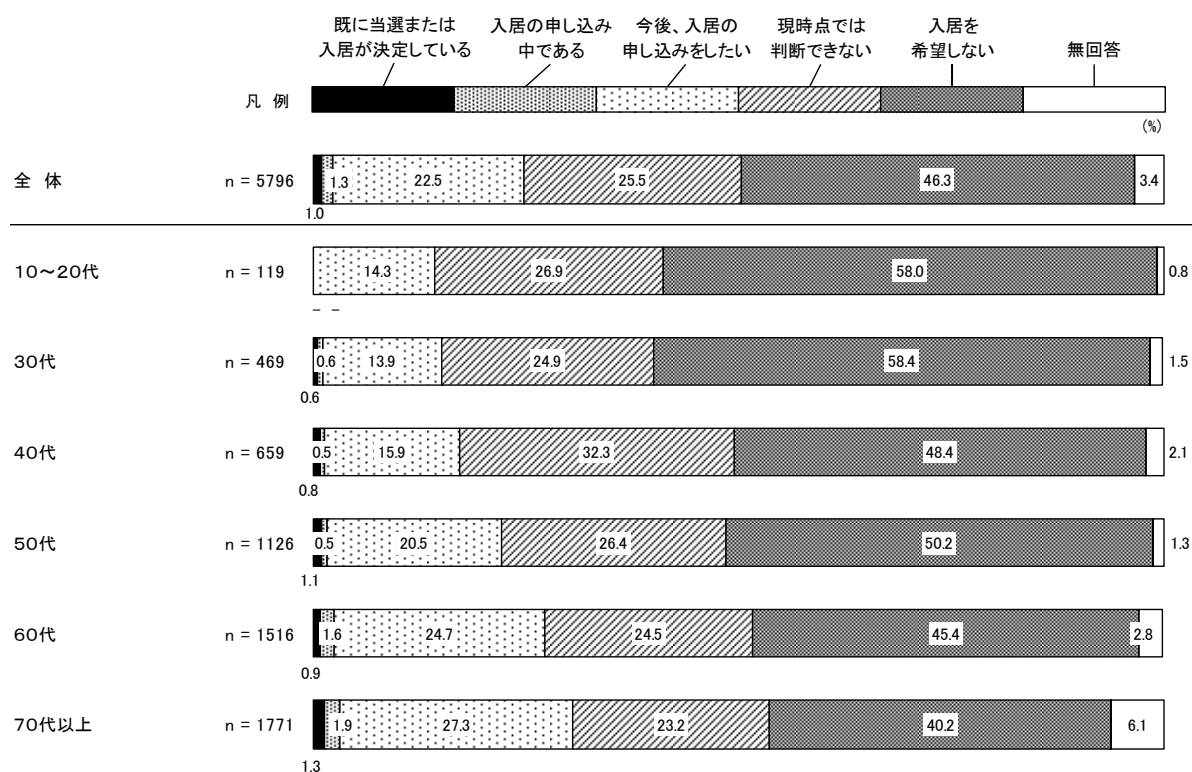
3-2-1 復興公営住宅への入居意向

問 10 現在、福島県は同封資料のとおり、復興公営住宅の整備を進めています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(〇は1つ)

復興公営住宅への入居意向については、入居を希望しない世帯が46.3%と最も高く、次いで、現時点では判断できない世帯が25.5%、入居意向のある世帯（「既に当選または入居が決定している」、「入居の申し込み中である」、「今後、入居の申し込みをしたい」）が24.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、入居を希望しない世帯は、いずれの年齢でも最も高いが、入居意向のある世帯（「既に当選または入居が決定している」、「入居の申し込み中である」、「今後、入居の申し込みをしたい」）は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなっている。

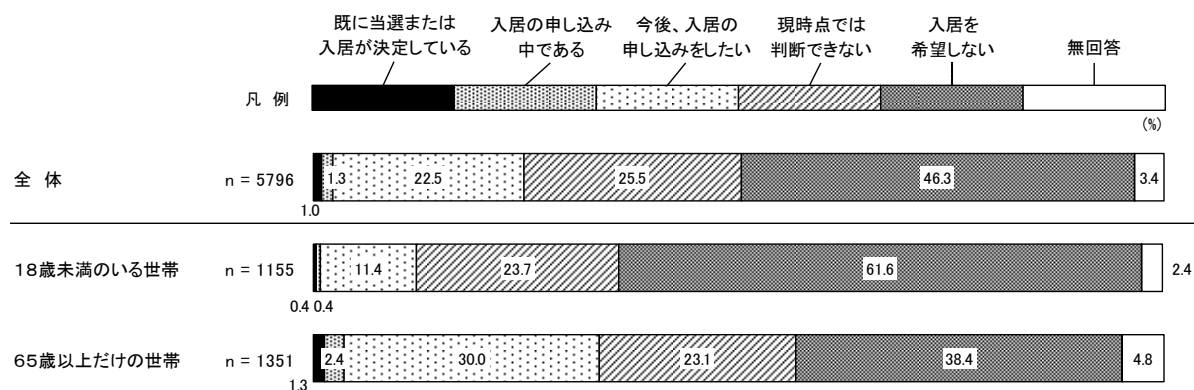
<図表3-2-1-1 復興公営住宅への入居意向（年齢別）>



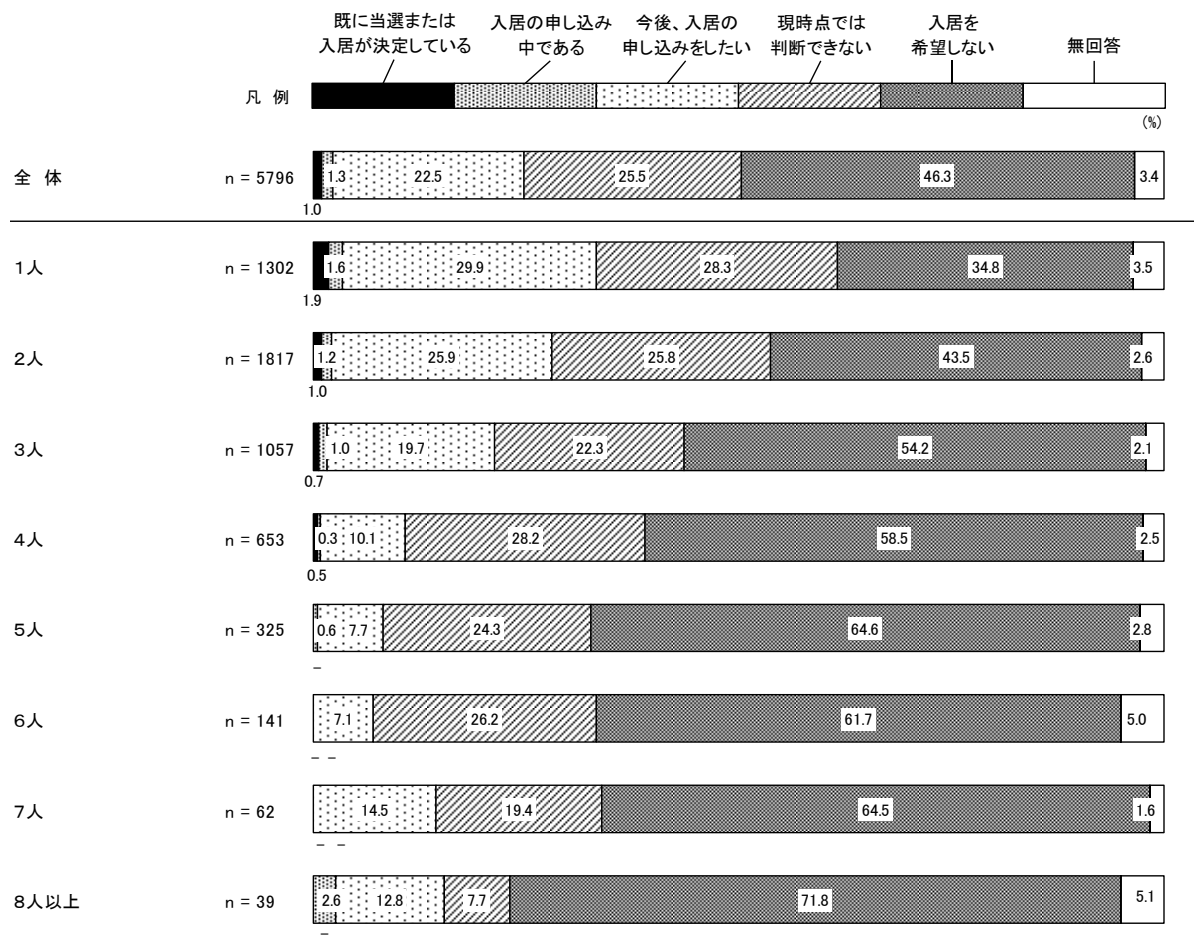
現在の世帯構成別にみると、「入居を希望しない」は18歳未満のいる世帯で61.6%と高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では、入居意向のある世帯（「既に当選または入居が決定している」、「入居の申し込み中である」、「今後、入居の申し込みをしたい」）は33.7%となっている。

現在の世帯人数別にみると、「入居を希望しない」は概ね人数が多くなるにつれ高くなっており、5人以上では6割を超える。一方、「今後、入居の申し込みをしたい」は1人が29.9%と最も高く、概ね世帯人数が多くなるにつれ低くなる。

<図表3-2-1-2 復興公営住宅への入居意向（世帯構成別）>

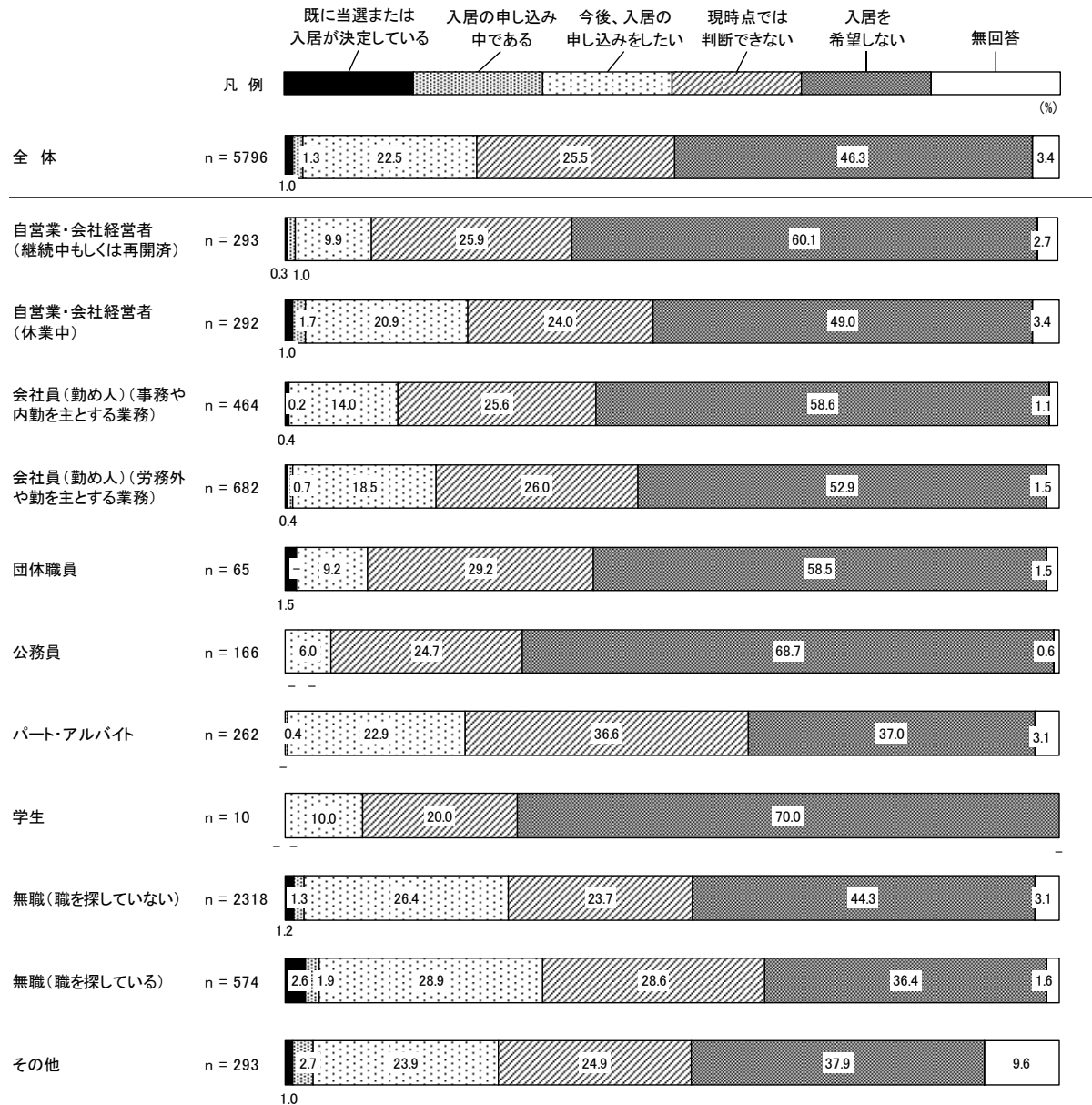


<図表3-2-1-3 復興公営住宅への入居意向（世帯人数別）>



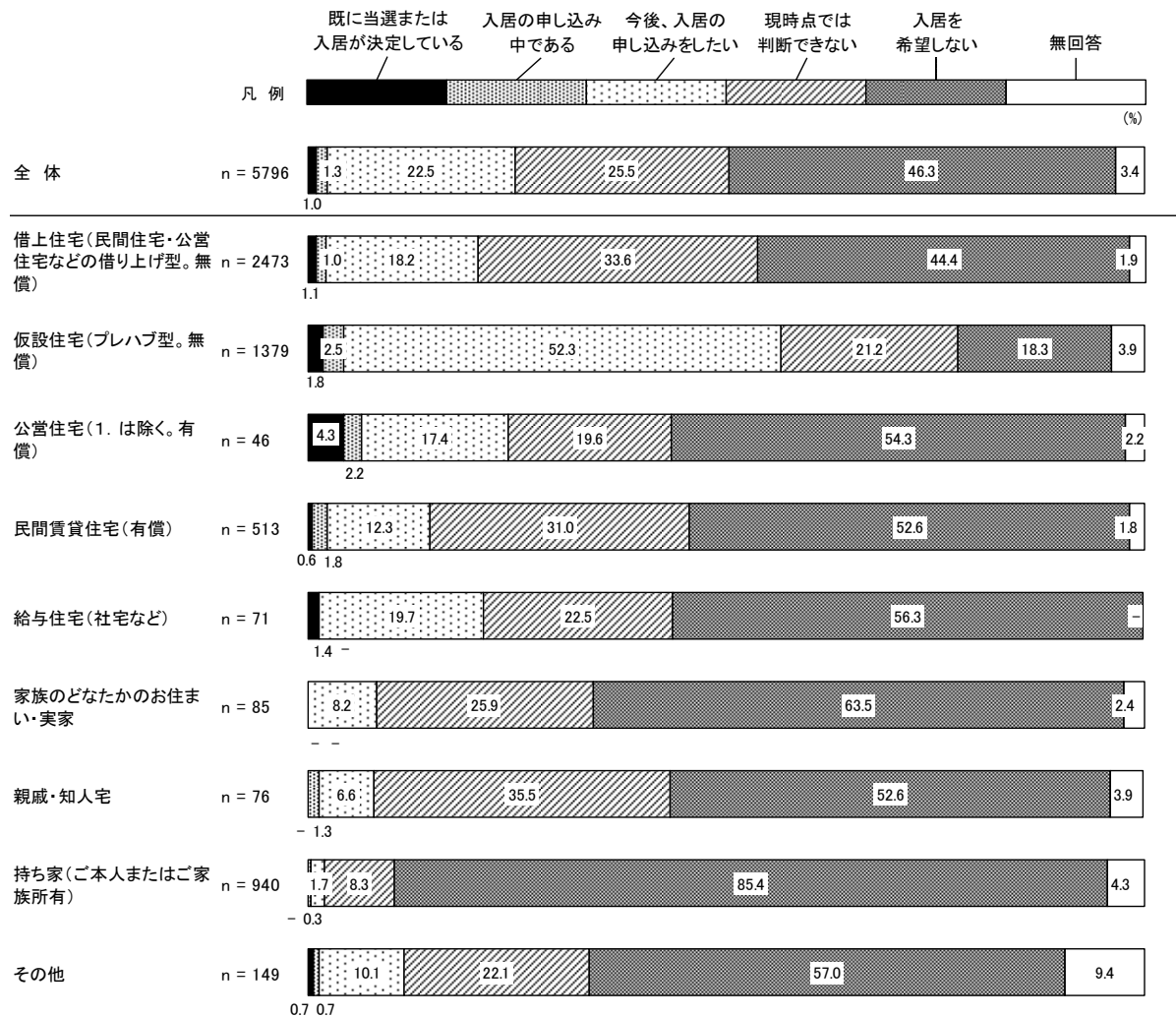
職業別にみると、「入居を希望しない」は公務員が68.7%となっており、他の職業に比べ高くなっている。「今後、入居の申し込みをしたい」は無職（職を探している）（28.9%）、無職（職を探していない）（26.4%）が、他の職業と比べ高くなっている。

<図表3-2-1-4 復興公営住宅への入居意向（職業別）>



現在の住居形態別にみると、「入居を希望しない」は、持ち家（ご本人またはご家族所有）（85.4%）が他の住居形態別に比べ高くなっている。「今後、入居の申し込みをしたい」は、応急仮設住宅（プレハブ型。無償）で52.3%となっており、他の住居形態と比べ高くなっている。

＜図表3-2-1-5 復興公営住宅への入居意向（現在の住居形態別）＞



3-2-2 復興公営住宅への入居を希望する自治体と世帯構成

【問 10 で「1. 既に当選または入居が決定している」「2. 入居の申し込み中である」「3. 今後、入居の申し込みをしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 10-1 入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

※家族が多い等の理由により、分散して入居される方（希望を含む）は、下表の＜1 世帯目＞、＜2 世帯目＞の行にそれぞれお答えください。

※分散入居がない（希望しない）場合は、下表の＜2 世帯目＞の行では、「14. 分散して入居しない」を選択してください。

＜1 世帯目＞

（1）自治体名を教えてください。（〇は1つ）

（2）入居する際の家族構成をご記入ください。（人数で回答）

＜2 世帯目＞

（1）自治体名を教えてください。（〇は1つ）

（2）入居する際の家族構成をご記入ください。（人数で回答）

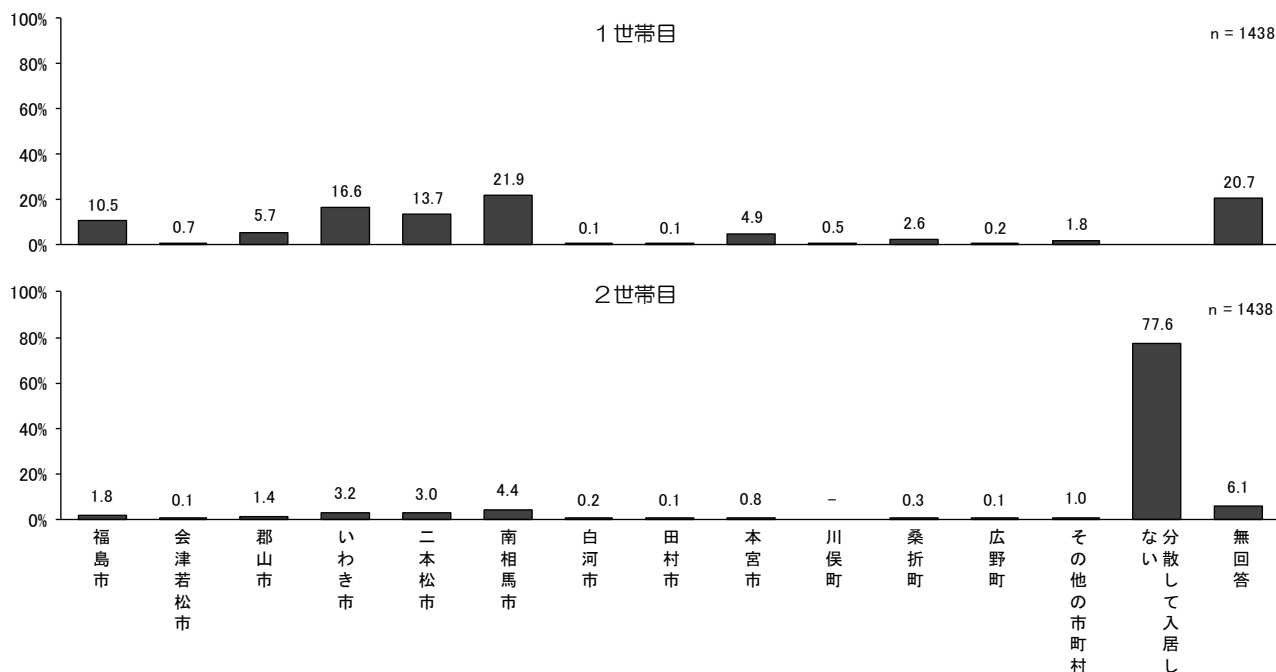
＜1 世帯目＞の復興公営入居への入居を希望する自治体については、「南相馬市」が 21.9%と最も高く、次いで、「いわき市」が 16.6%、「二本松市」が 13.7%となっている。

入居を希望する世帯構成（1 世帯目）については、「65 歳以上のいる世帯」が 54.0%と最も高く、次いで「50 歳以上 60 歳未満のいる世帯」が 22.9%、「60 歳以上 65 歳未満のいる世帯」が 21.8%となっている。世帯人数（1 世帯目）については、「2 人」が 37.7%で最も高く、次いで「1 人」が 24.9%となっている。

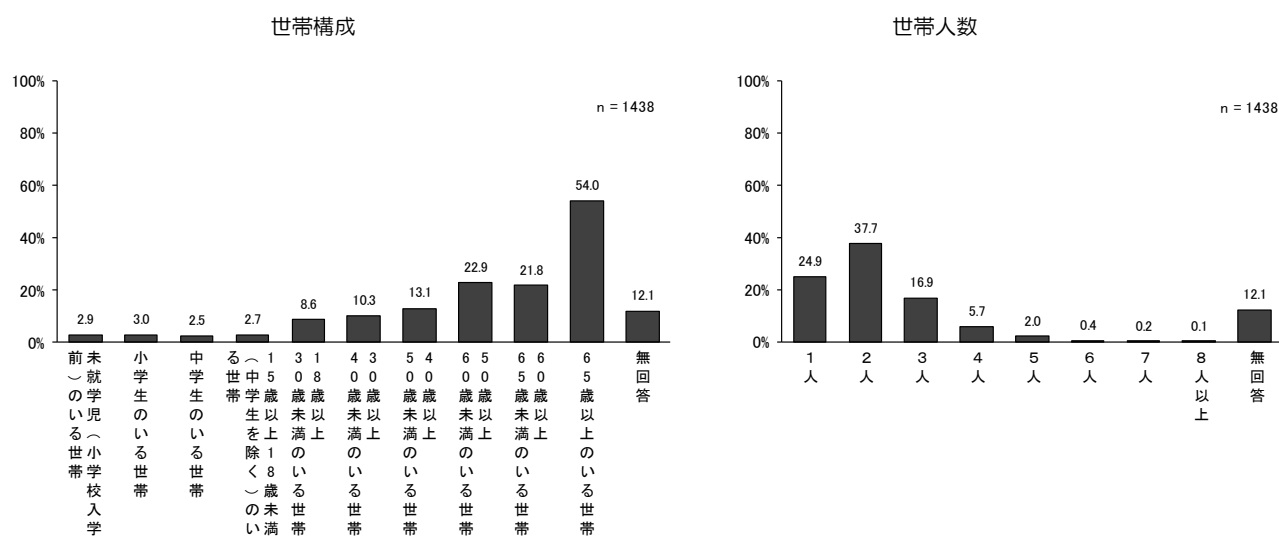
＜2 世帯目＞の復興公営住宅への入居を希望する自治体については、「南相馬市」が 4.4%と最も高く、次いで、「いわき市」（3.2%）、「二本松市」（3.0%）となっている。

入居を希望する世帯構成（2 世帯目）については、「65 歳以上のいる世帯」が 28.1%と最も高く、次いで「18 歳以上 30 歳未満のいる世帯」が 19.6%、「30 歳以上 40 歳未満のいる世帯」が 15.3%となっている。世帯人数（2 世帯目）については、「1 人」が 34.9%で最も高く、次いで「2 人」が 27.2%となっている。

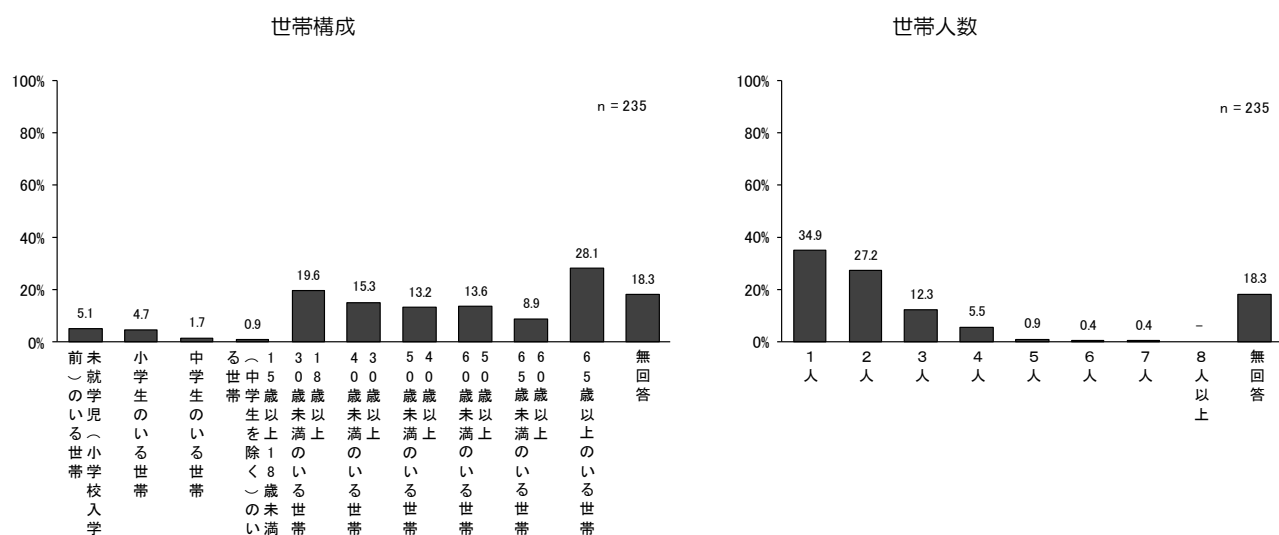
＜図表 3-2-2-1 復興公営住宅への入居を希望する自治体＞



＜図表3-2-2-2 復興公営住宅への入居を希望する世帯構成・人数（1世帯目）＞

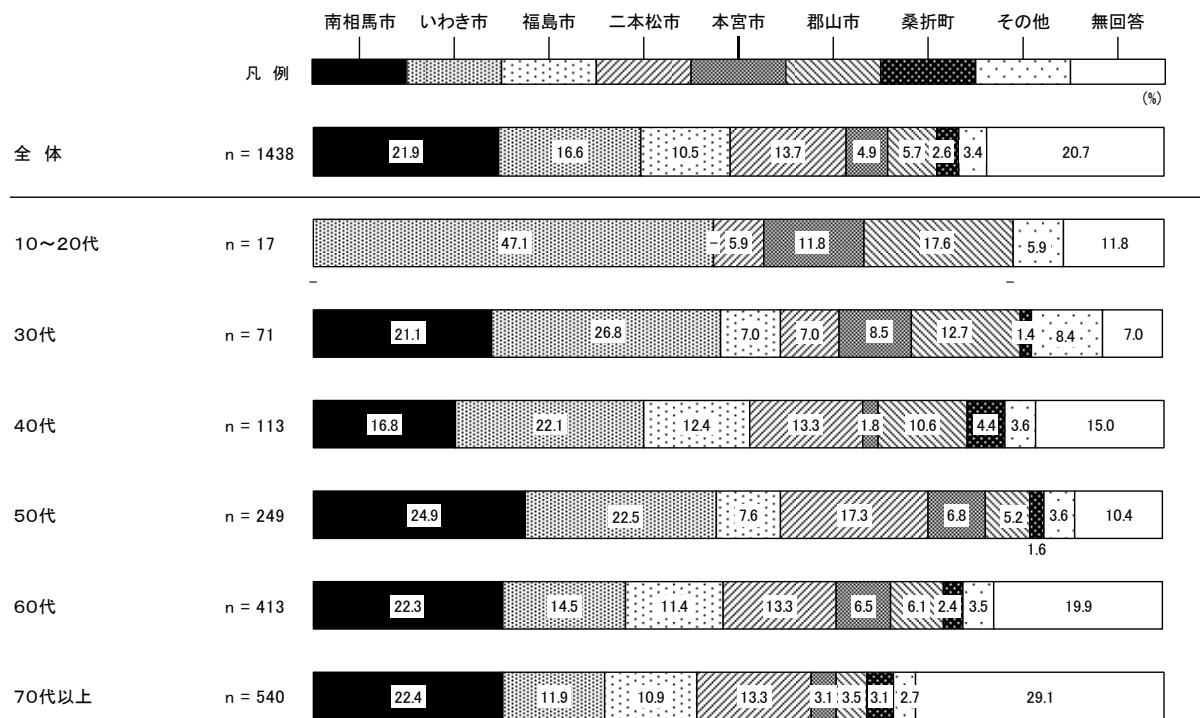


＜図表3-2-2-3 復興公営住宅への入居を希望する世帯構成・人数（2世帯目）＞



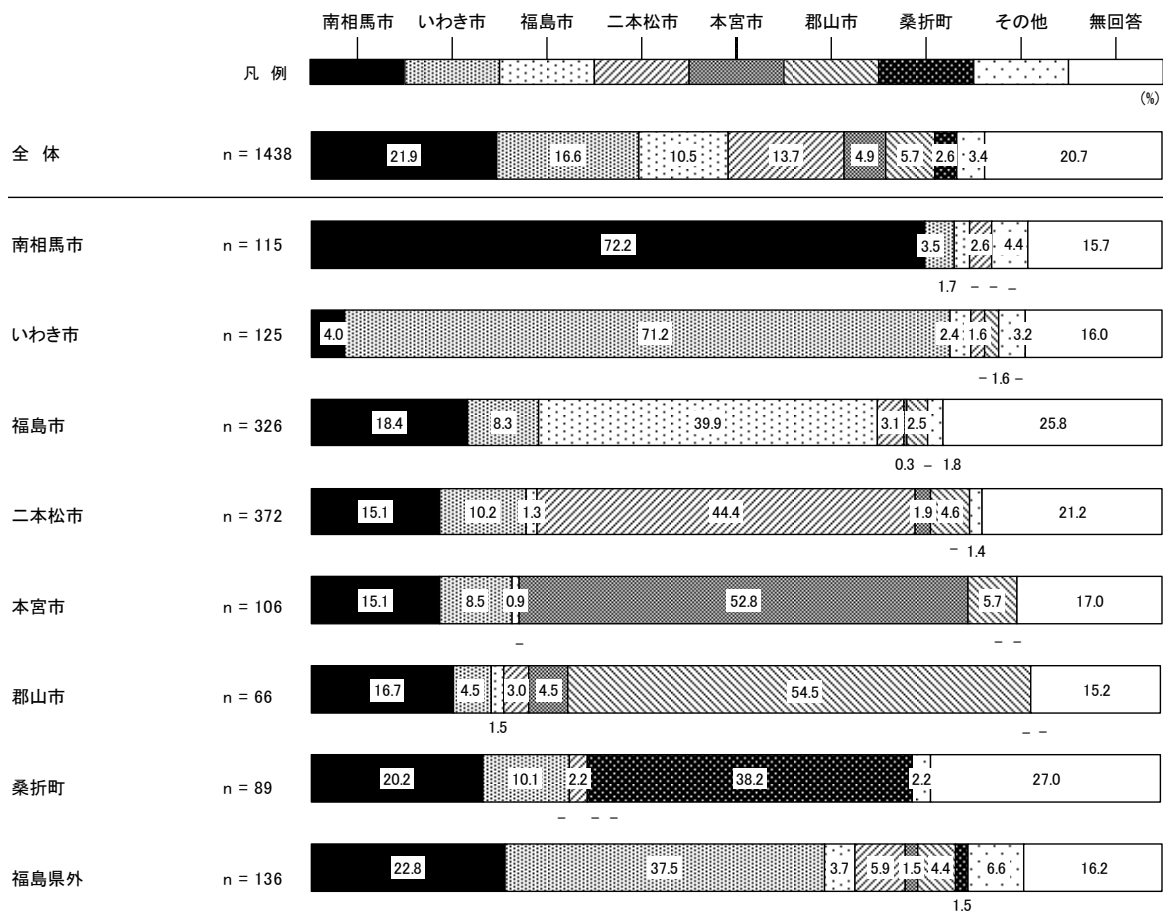
復興公営住宅への入居を希望する主な自治体（1世帯目）について、回答者の年齢別にみると、50代以上では「南相馬市」が最も高くなっているのに対し、30代、40代では「いわき市」が最も高い。

＜図表3-2-2-4 復興公営住宅への入居を希望する主な自治体（1世帯目）（年齢別）＞



復興公営住宅への入居を希望する主な自治体（1世帯目）について、現在の主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体でも避難先の自治体における入居を希望する割合が高いが、福島県外に避難している世帯では、4割弱が「いわき市」への入居を希望している。

＜図表3-2-2-5 復興公営住宅への入居を希望する主な自治体（1世帯目）（主な避難先自治体別）＞



3-2-3 復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス

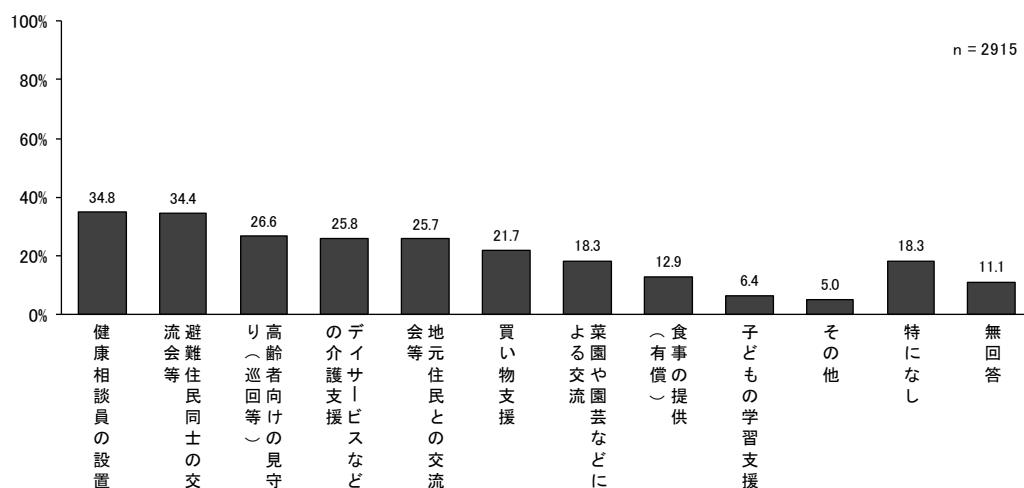
【問 10 で「1. 既に当選または入居が決定している」「2. 入居の申し込み中である」「3. 今後、入居の申し込みをしたい」「4. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-2 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして仮にあった場合、必ず利用するものは何ですか。
(〇はいくつでも)

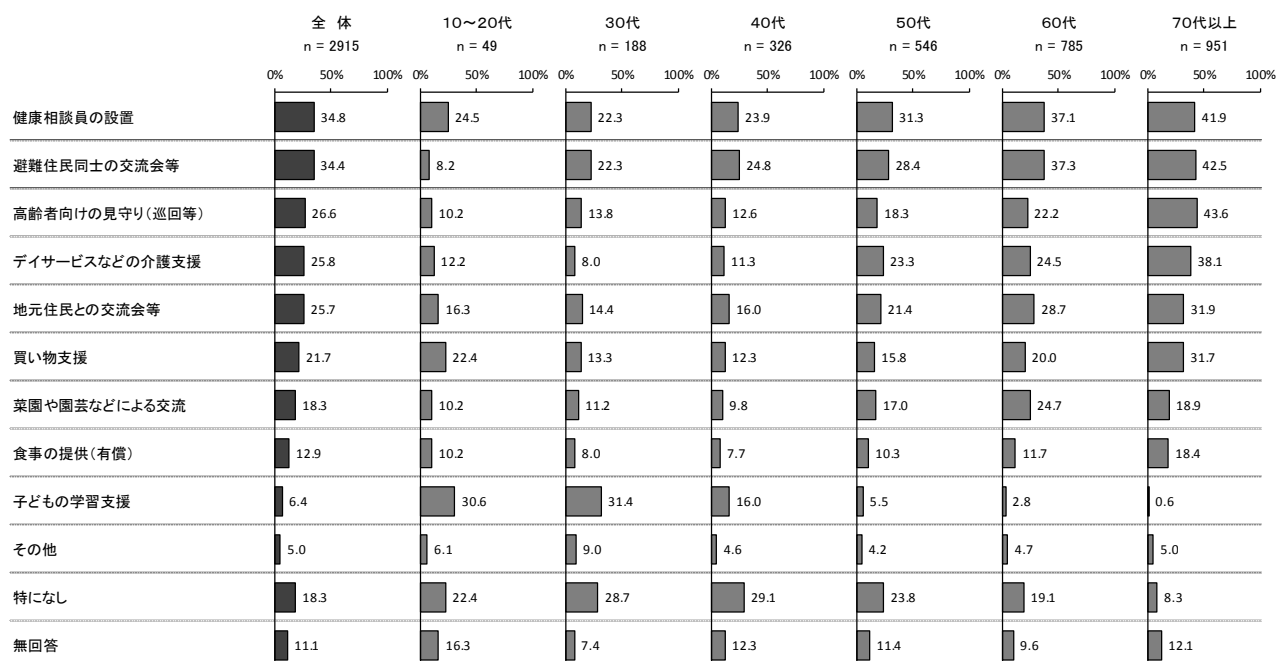
復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービスについては、「健康相談員の設置」が 34.8%と最も高く、次いで、「避難住民同士の交流会等」が 34.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「高齢者向けの見守り(巡回等)」は 70 代以上(43.6%)、「デイサービスなどの介護支援」も 70 代以上(38.1%)で高い。一方、「子どもの学習支援」は 10~20 代(30.6%)、30 代(31.4%)、40 代(16.0%)が他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表 3-2-3-1 復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス＞



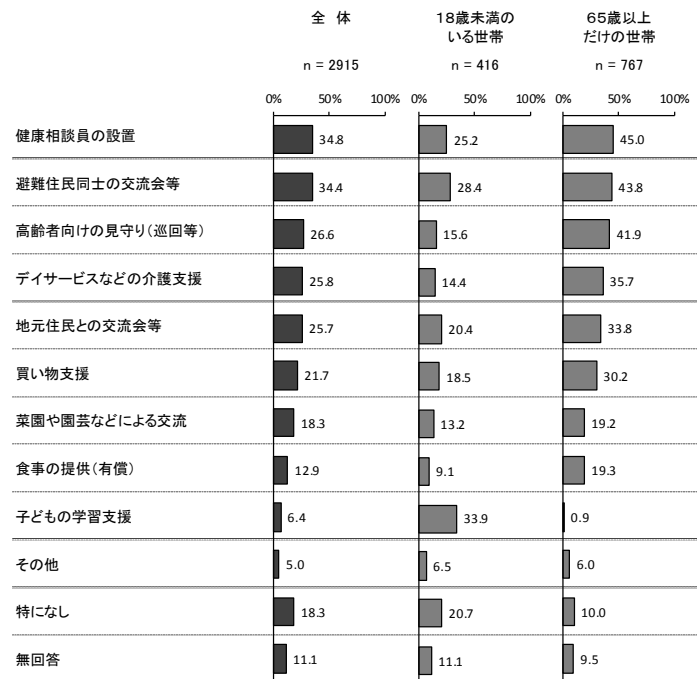
＜図表 3-2-3-2 復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス(年齢別)＞



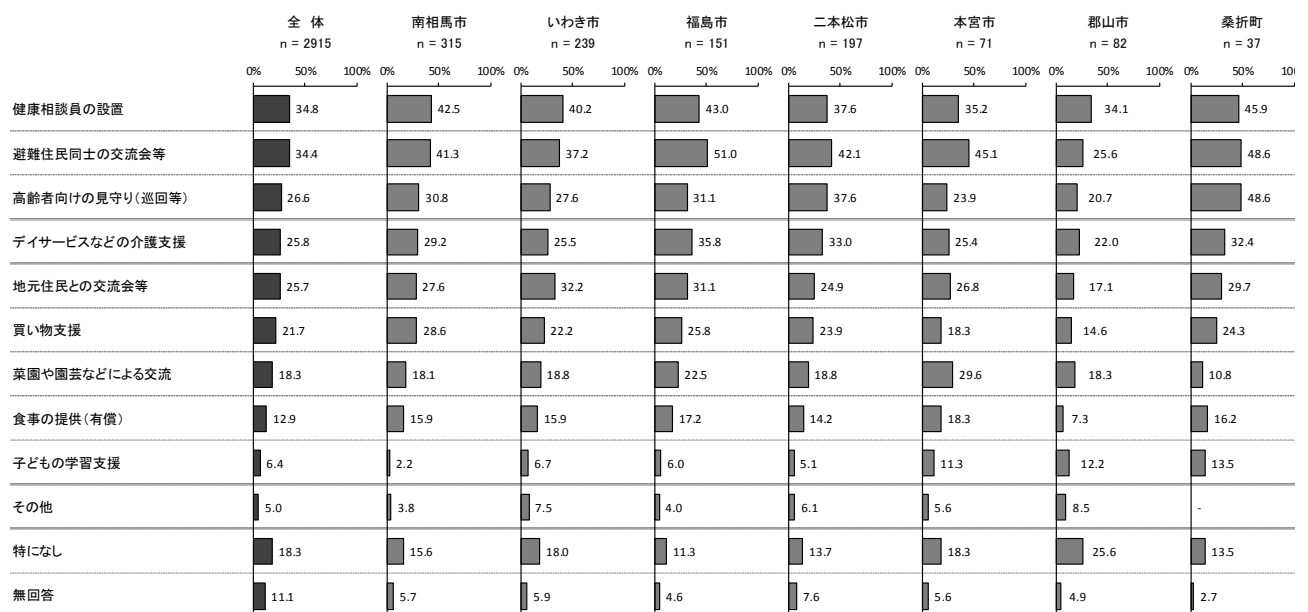
世帯構成別にみると、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は65歳以上の世帯が41.9%と、18歳未満のいる世帯に比べ高くなっている。また、「避難住民同士の交流会等」（43.8%）や「地元住民との交流会等」（33.8%）も同様に65歳以上の世帯で高い。一方、18歳未満のいる世帯では、「子どもの学習支援」が33.9%と高くなっている。

入居を希望する主な自治体別にみると、南相馬市、いわき市、郡山市では「健康相談員の設置」が最も高く、福島市、本宮市、二本松市では「避難住民同士の交流会等」、桑折町では「避難住民同士の交流会等」、「高齢者向けの見守り（巡回等）」（ともに48.6%）が最も高くなっている。

＜図表3-2-3-3 復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス（世帯構成別）＞



＜図表3-2-3-4 復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス（入居を希望する主な自治体別）＞



3-2-4 復興公営住宅への入居を判断できない理由

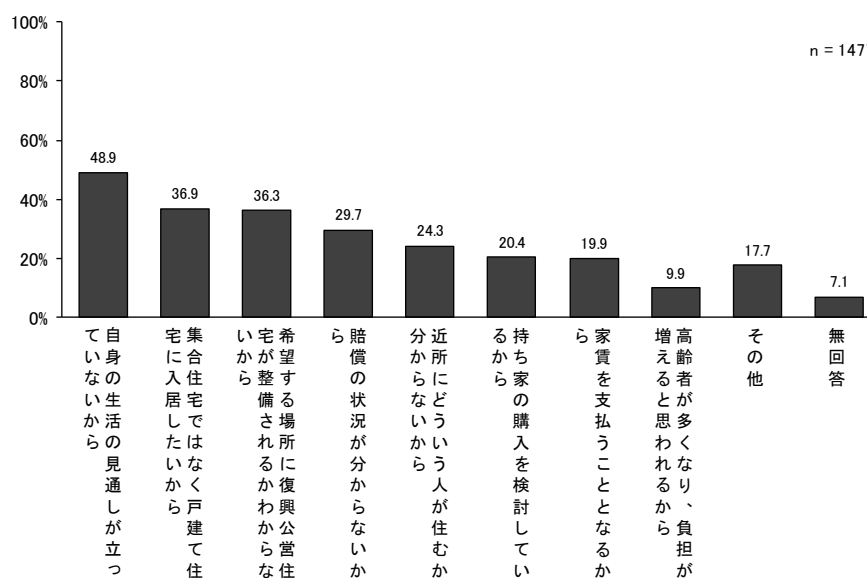
【問 10 で「4. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-3 復興公営住宅への入居が、現時点で判断できない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

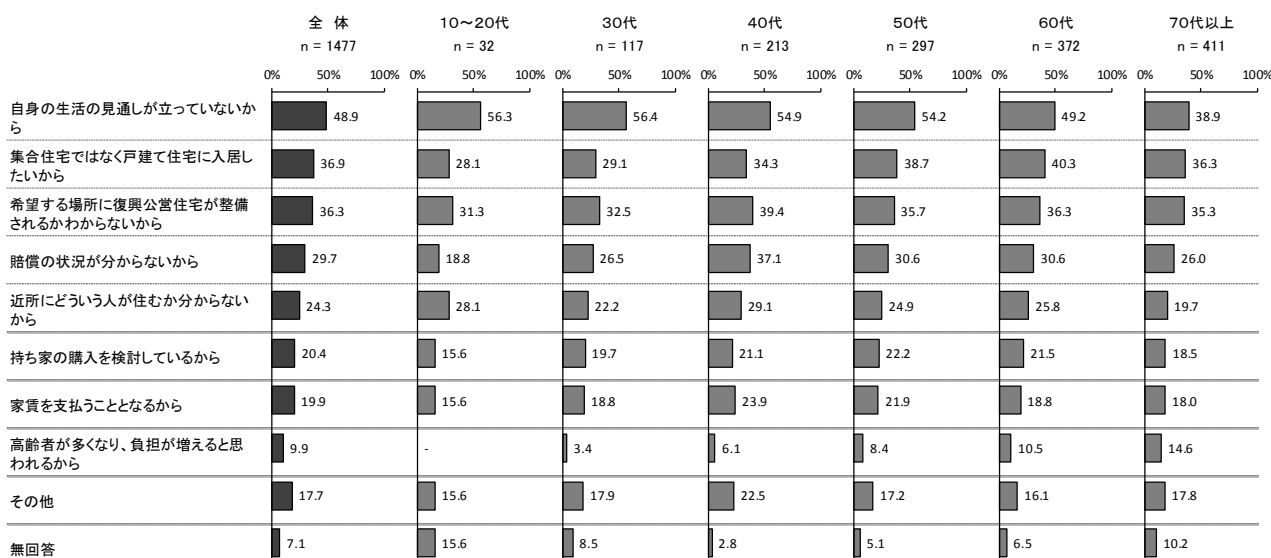
復興公営住宅への入居を判断できない理由については、「自身の生活の見通しが立っていないから」が 48.9%で最も高く、次いで、「集合住宅ではなく戸建て住宅に入居したいから」が 36.9%、「希望する場所に復興公営住宅が整備されるかわからないから」が 36.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「自身の生活の見通しが立っていないから」は 10～20 代（56.3%）、30 代（56.4%）が他の年齢に比べ高くなっている。「集合住宅ではなく戸建て住宅に入居したいから」は、60 代（40.3%）が他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表 3-2-4-1 復興公営住宅への入居を判断できない理由＞

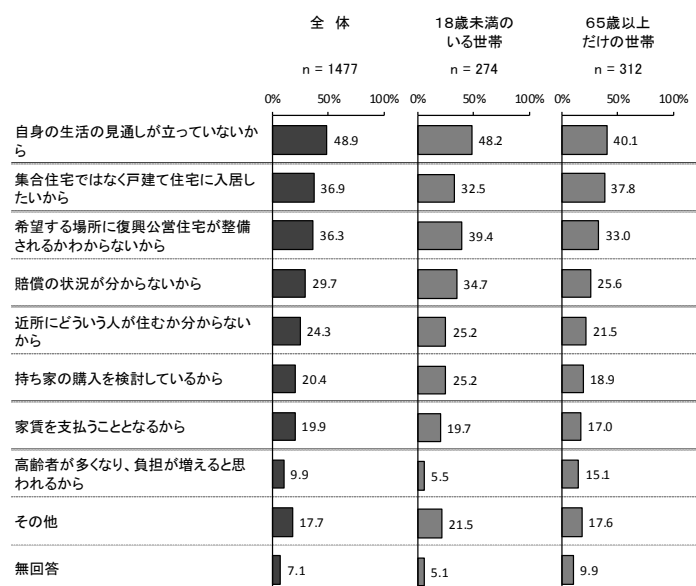


＜図表 3-2-4-2 復興公営住宅への入居を判断できない理由（年齢別）＞



世帯構成別にみても、「自身の生活の見通しが立っていないから」はいずれの世帯構成でも最も高くなっているが、「希望する場所に復興公営住宅が整備されるかわからないから」は18歳未満のいる世帯で39.4%と65歳以上だけの世帯に比べ高くなっている。

＜図表3-2-4-3 復興公営住宅への入居を判断できない理由（世帯構成別）＞



3-2-5 復興公営住宅に入居しない場合に希望する住居形態

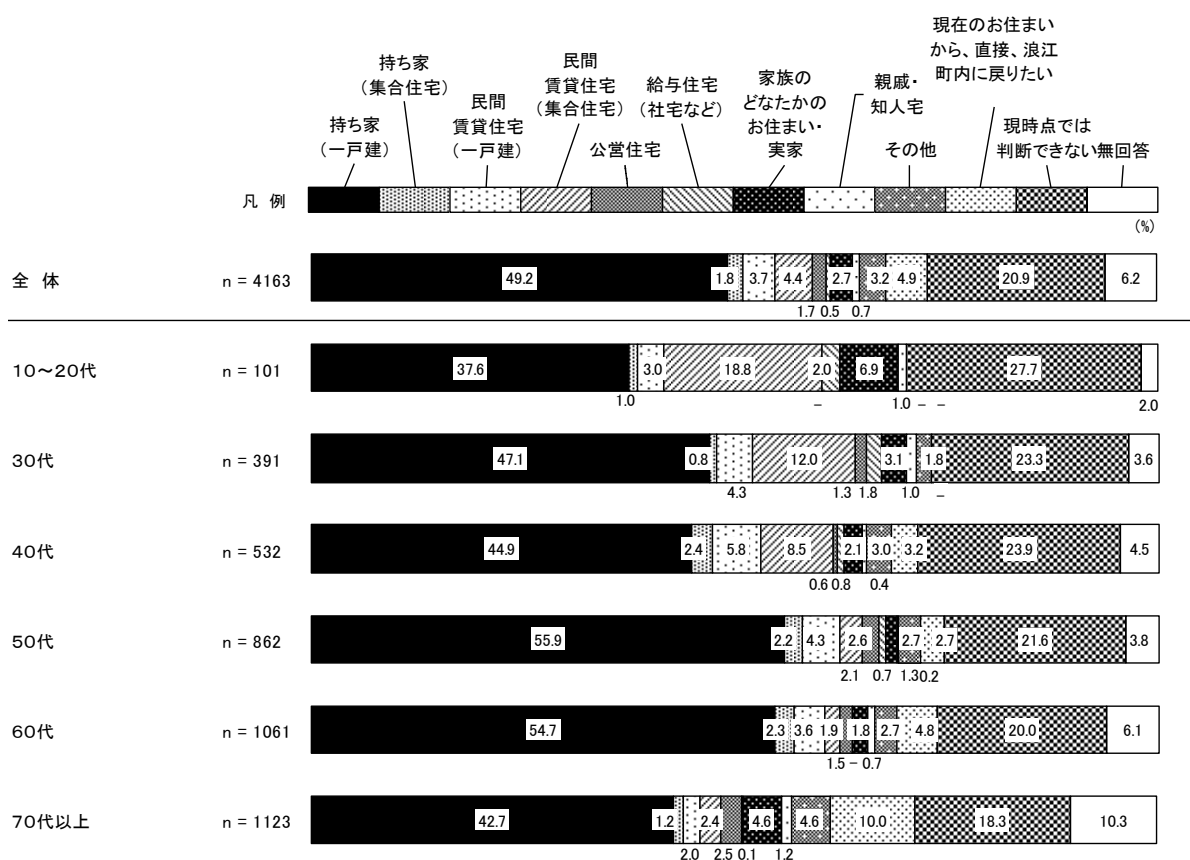
【問 10 で「4. 現時点では判断できない」または「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-4 判断するまでの間、または入居を希望しない場合に、（現在、借上住宅や仮設住宅にお住まいの方は、いずれ制度が終了した場合）どのようなお住まいをお考えですか。（〇は1つ）

復興公営住宅への入居を希望しない場合の今後の住まいとして希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が 49.2%と最も高く、次いで、「現時点では判断できない」が 20.9%、「現在のお住まいから、直接、浪江町内に戻りたい」が 4.9%となっている。

回答者の年齢別にみても、「持ち家（一戸建）」がいずれの年齢も最も高くなっている。

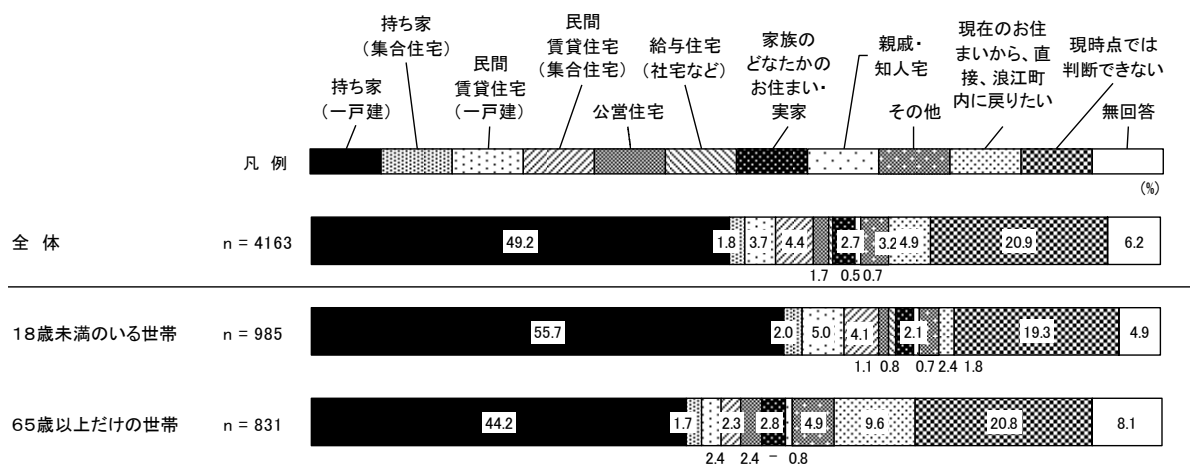
＜図表 3-2-5-1 今後の住まいとして希望する住居形態（年齢別）＞



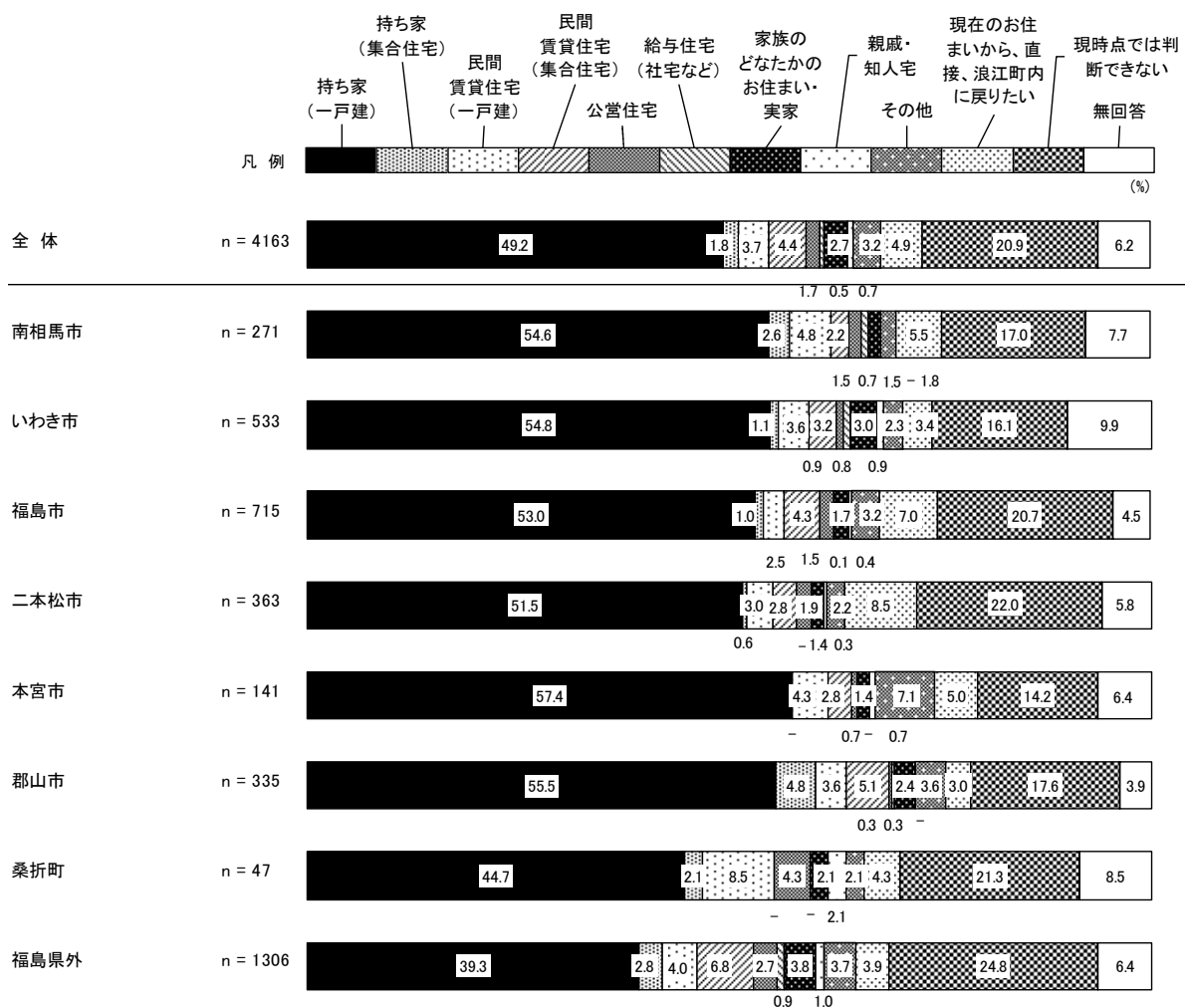
世帯構成別にみると、「持ち家（一戸建）」は 18 歳未満のいる世帯で 55.7%と 65 歳以上だけの世帯に比べ高い。

主な避難先自治体別にみると、本宮市に避難している6割弱が「持ち家（一戸建）」を希望している。

＜図表3-2-5-2 今後の住まいとして希望する住居形態（世帯構成別）＞



＜図表3-2-5-3 今後の住まいとして希望する住居形態（主な避難先自治体別）＞



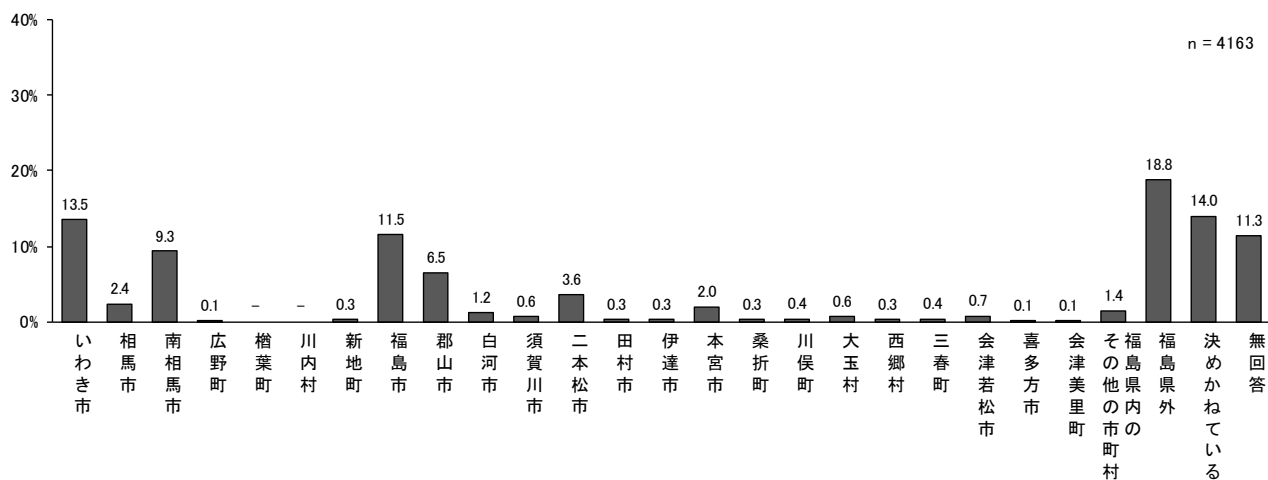
3-2-6 復興公営住宅への入居を希望しない場合に居住したい自治体

【問 10 で「4. 現時点では判断できない」または「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-5 判断するまでの間、または入居を希望しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

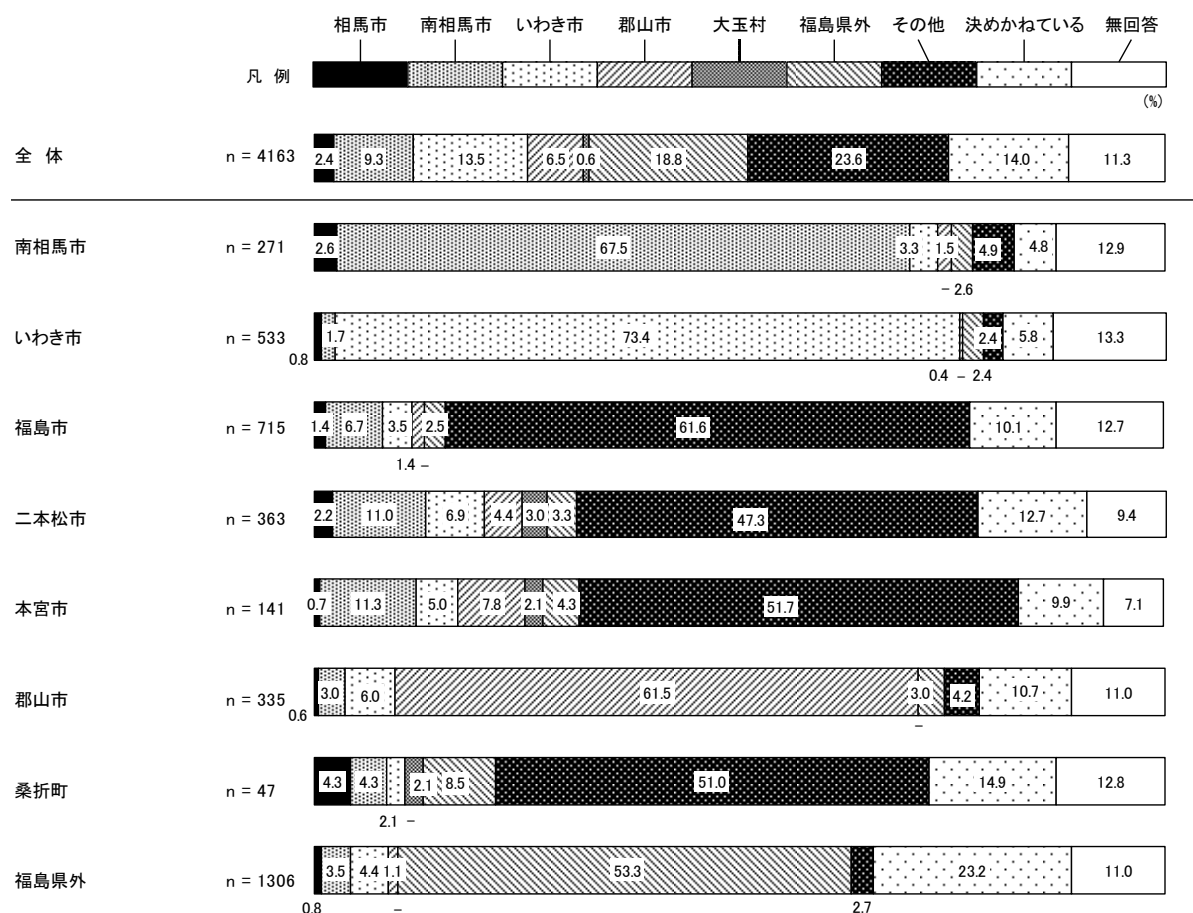
復興公営住宅への入居を希望しない場合に居住したい自治体については、「福島県外」が 18.8%と最も高く、次いで、「決めかねている」が 14.0%、「いわき市」が 13.5%となっている。

＜図表3-2-6-1 入居を希望しない場合に居住したい自治体＞



主な避難先自治体別にみると、現在いわき市に避難している世帯の73.4%が同じ「いわき市」への居住を希望しており、同じ自治体への居住を希望する割合は、南相馬市（67.5%）、郡山市（61.5%）と比べて高くなっている。一方、福島県外に避難している世帯の53.3%が同じ福島県外への居住を希望しているが、「決めかねている」世帯も23.2%となっており、他の避難先自治体と比べ高くなっている。

＜図表3-2-6-2 入居を希望しない場合に居住したい主な自治体（主な避難先自治体別）＞



3-3 将来の意向

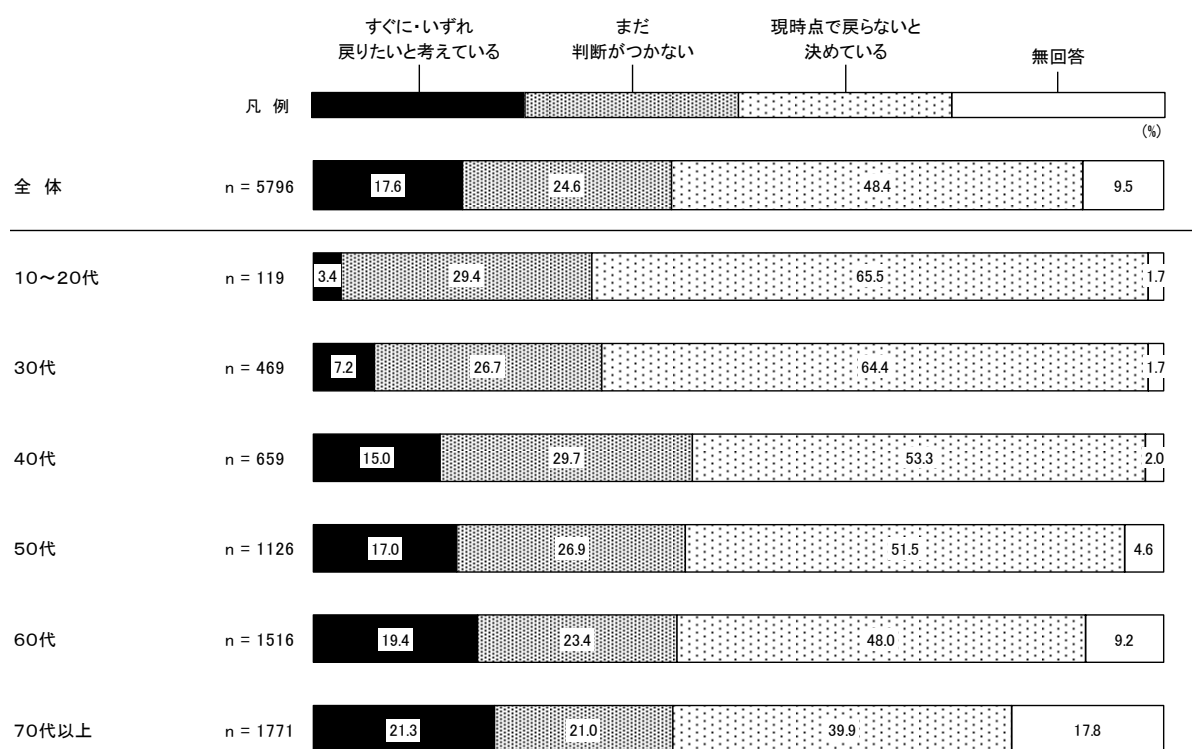
3-3-1 浪江町への帰還意向

問 11 将来、浪江町の避難指示が解除された後の浪江町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。（現在一緒にお住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください）（〇は1つ）

将来、浪江町の避難指示が解除された後の帰還意向については、「現時点で戻らないと決めている」が48.4%と最も高く、次いで、「まだ判断がつかない」が24.6%、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」が17.6%となっている。

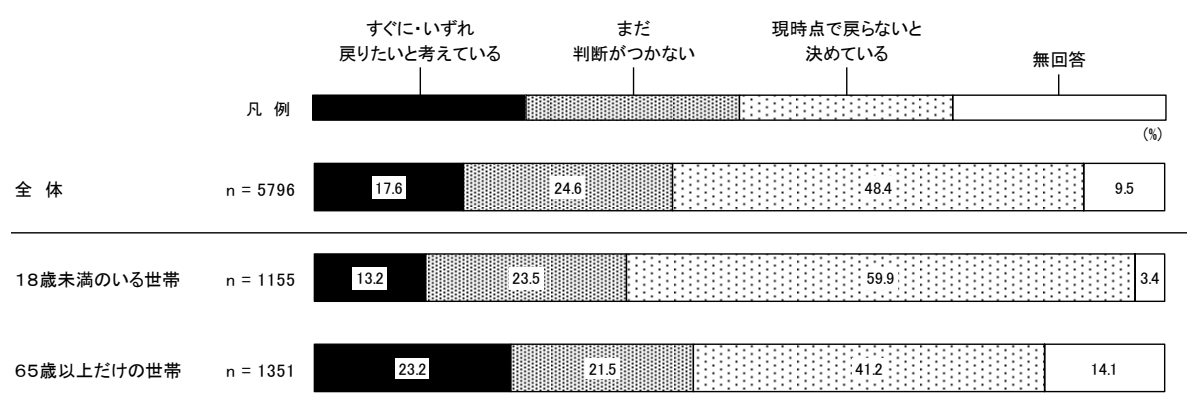
回答者の年齢別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、年齢が高くなるにつれ高くなっており、70代以上では21.3%となっている。一方、「現時点で戻らないと決めている」は、10～20代では65.5%、30代では64.4%と6割を超えており、他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表3-3-1-1 浪江町への帰還意向（年齢別）＞



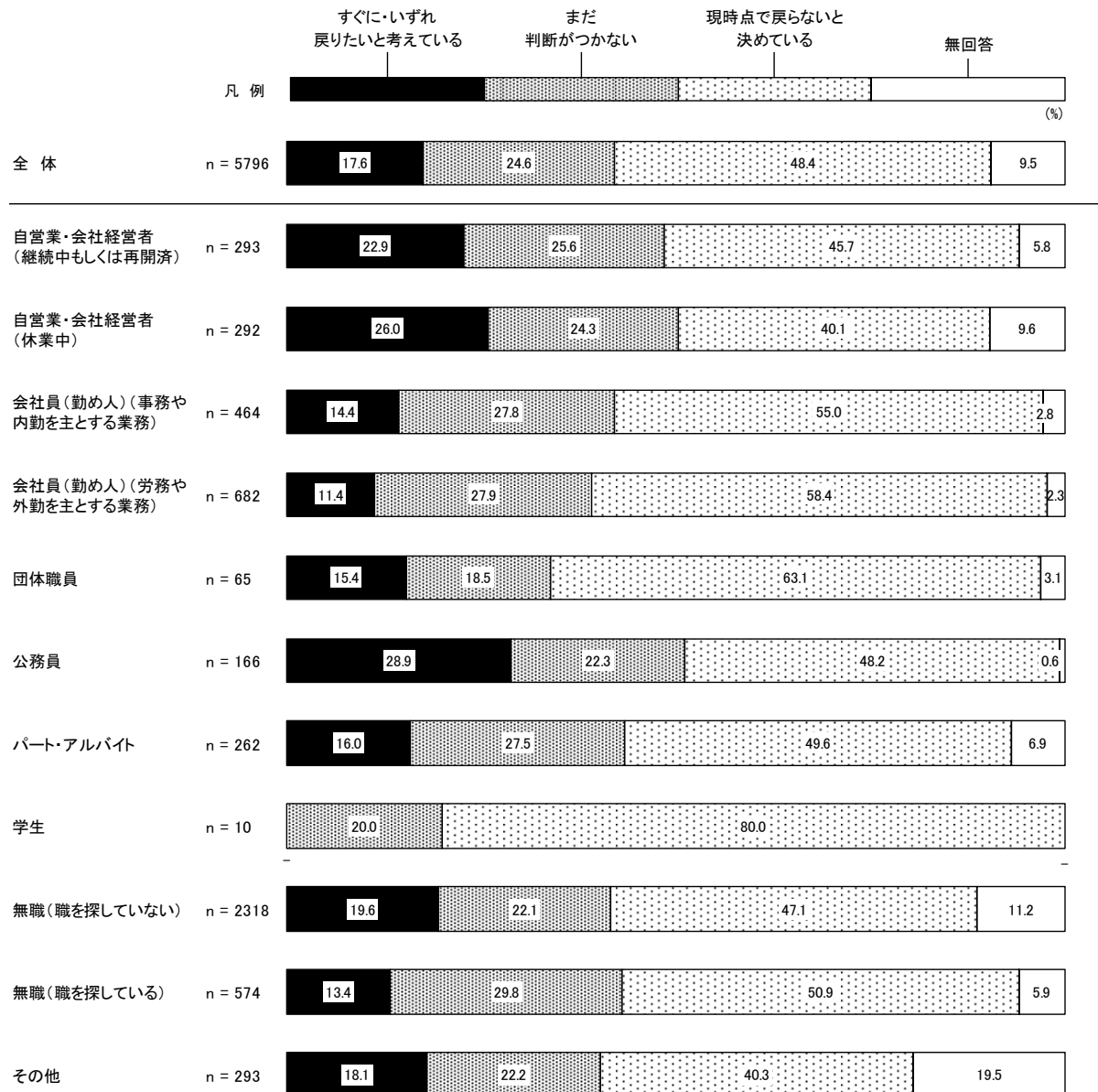
世帯構成別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、65 歳以上の世帯では 23.2%となっており、18 歳未満のいる世帯と比べ高くなっている。一方、「現時点で戻らないと決めている」は、18 歳未満のいる世帯で 59.9%となっており、65 歳以上の世帯に比べ高くなっている。

＜図表 3-3-1-2 浪江町への帰還意向（世帯構成別）＞



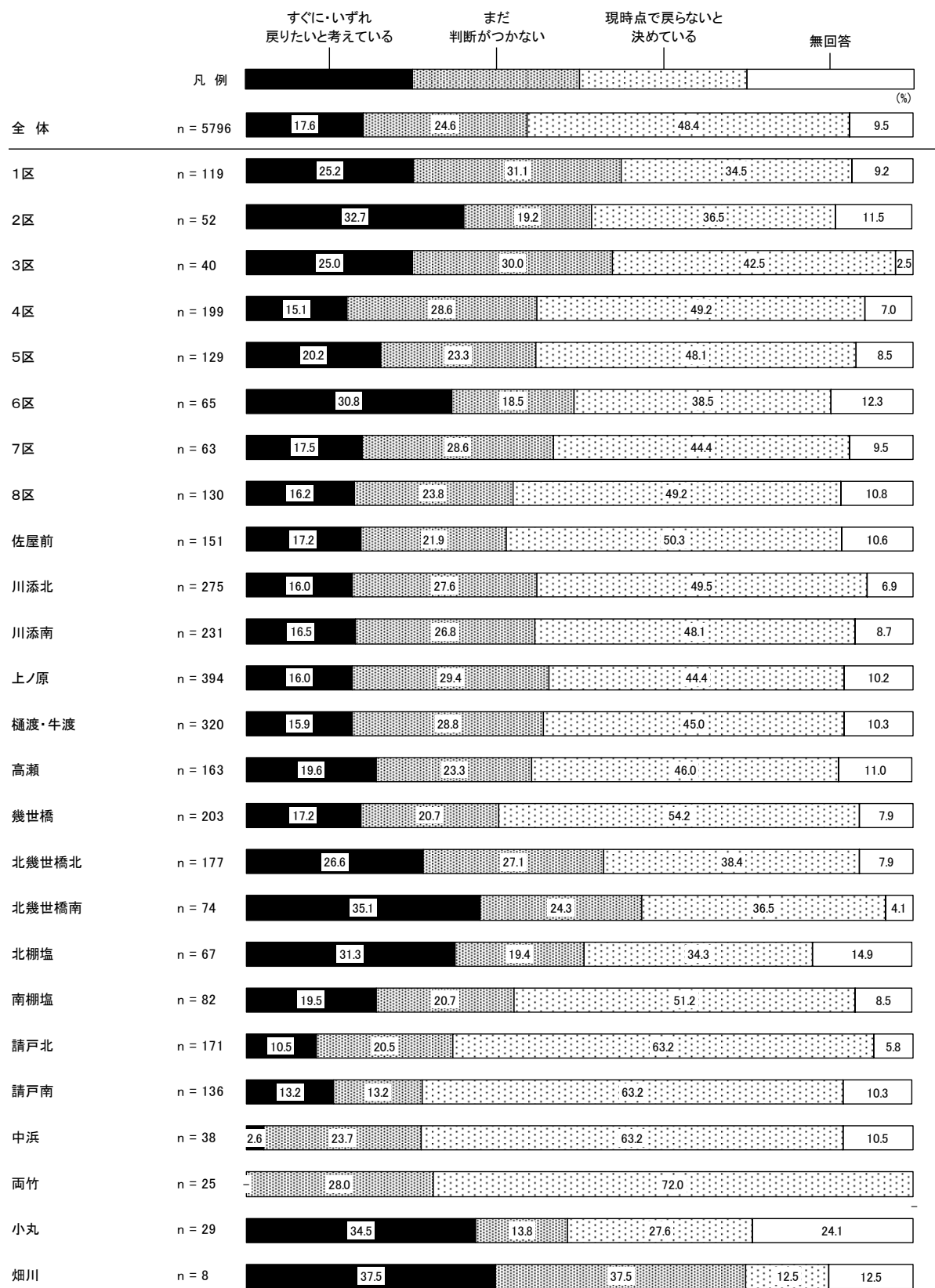
職業別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、公務員が28.9%と最も高く、次いで、自営業・会社経営者（休業中）が26.0%、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）が22.9%となっている。一方、「現時点で戻らないと決めている」は団体職員（63.1%）、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）（58.4%）、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）（55.0%）で高くなっている。

＜図表3-3-1-3 浪江町への帰還意向（職業別）＞

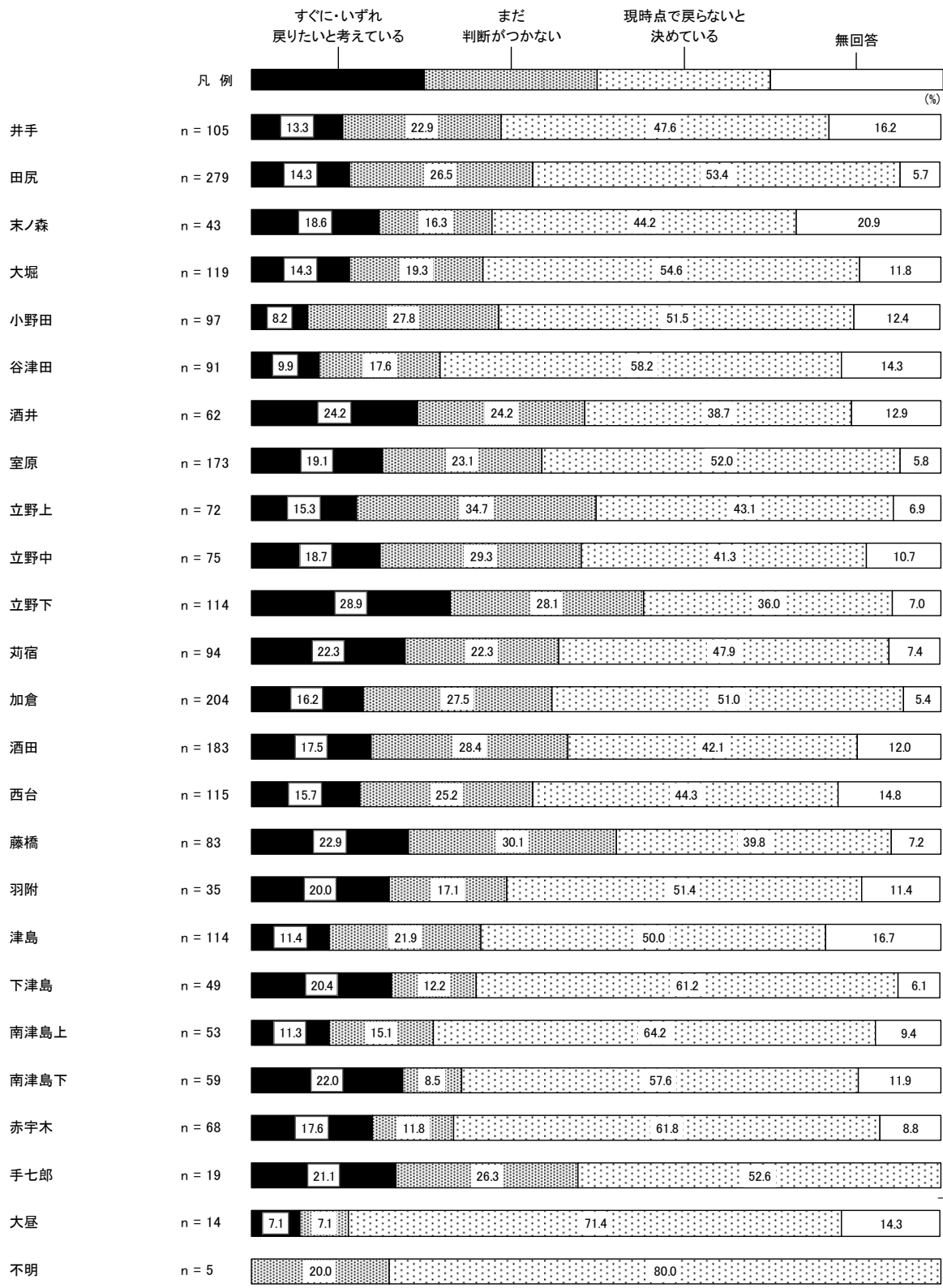


震災発生当時の行政区別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、畑川（37.5%）、北幾世橋南（35.1%）、小丸（34.5%）、2区（32.7%）、北棚塩（31.3%）、6区（30.8%）で3割から4割弱と高くなっている。

＜図表3－3－1－4 浪江町への帰還意向（行政区別）＞

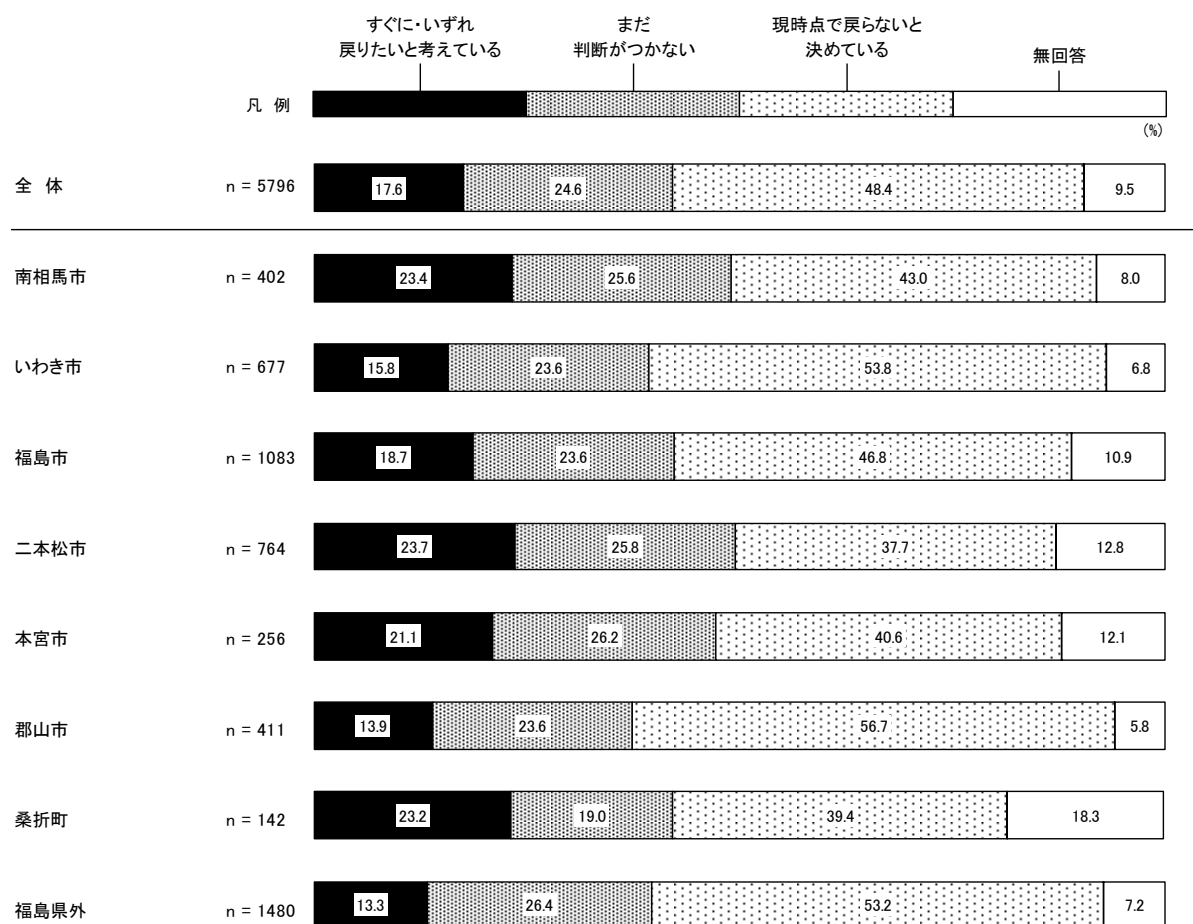


<図表3-3-1-4 浪江町への帰還意向（行政区別）続き>



主な避難先自治体別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、二本松市では 23.7%、南相馬市では 23.4%、桑折町では 23.2%となっており、他の避難先自治体に比べやや高くなっている。

＜図表 3-3-1-5 浪江町への帰還意向（主な避難先自治体別）＞



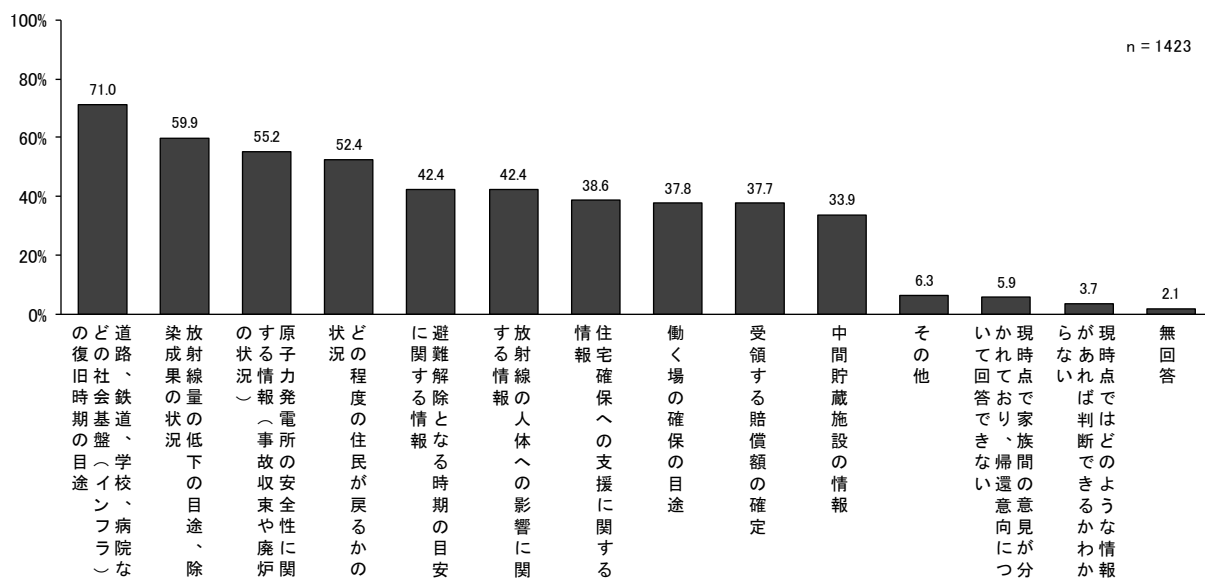
3-3-2 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報

(1) 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報

【浪江町への帰還について、現時点ではまだ判断できない方（問11で「2」と回答した方）にうかがいます。】
 問11-3 浪江町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。（〇はいくつでも）

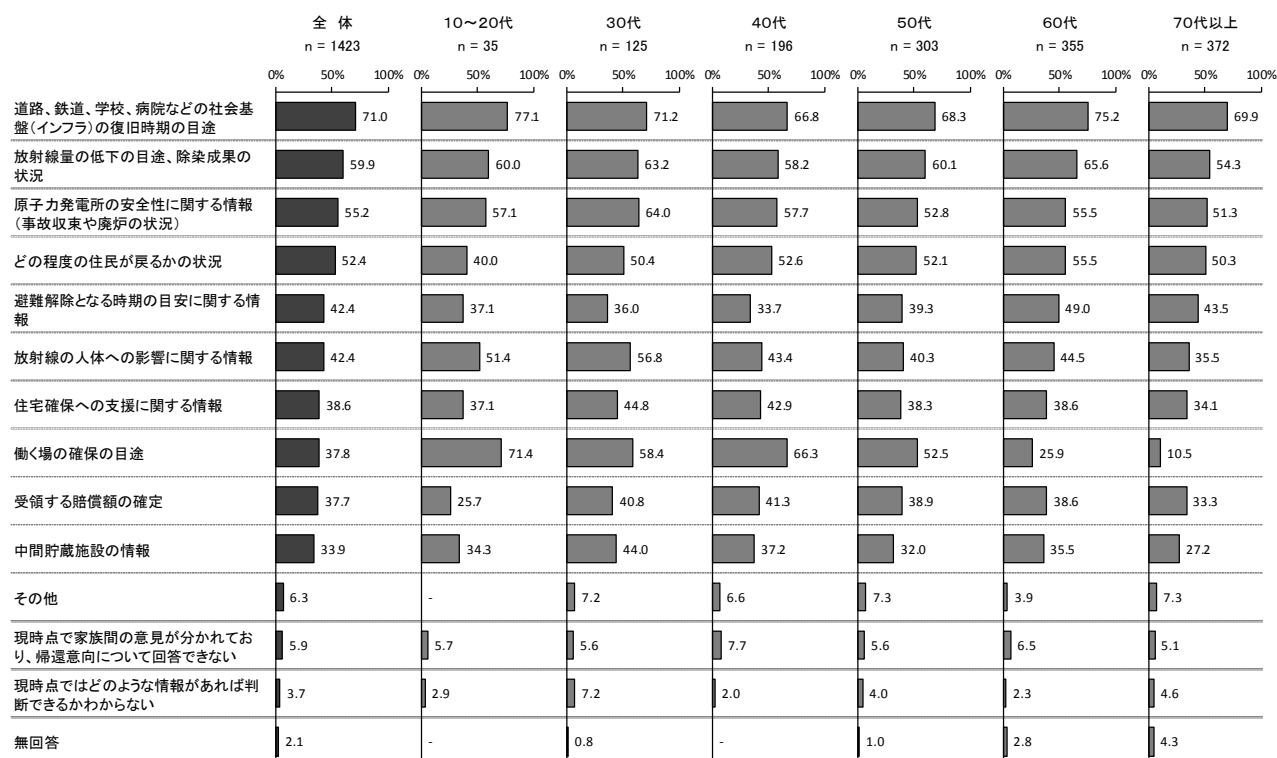
浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が71.0%と最も高く、次いで、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が59.9%、「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」が55.2%になっている。

<図表3-3-2-1 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報>



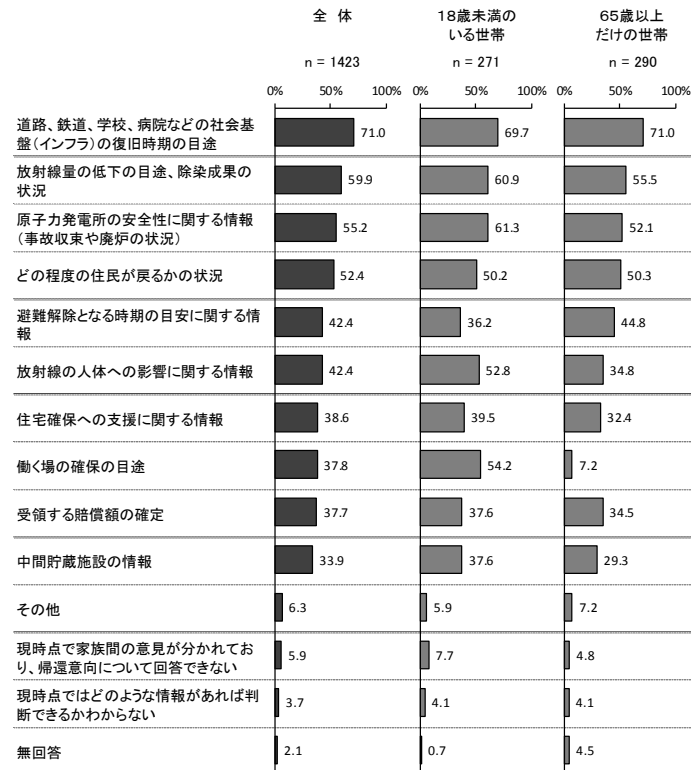
回答者の年齢別にみても、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」がいずれの年齢でも最も高くなっている。「働く場の確保の目処」は10～20代（71.4%）、30代（58.4%）、40代（66.3%）、50代（52.5%）で高くなっている。

＜図表3-3-2-2 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報（年齢別）＞



世帯構成別にみても、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」がいずれの世帯構成でも最も高くなっている。「働く場所の確保の目途」は18歳未満のいる世帯で54.2%と65歳以上だけの世帯に比べ高い。

＜図表3－3－2－3 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯構成別）＞

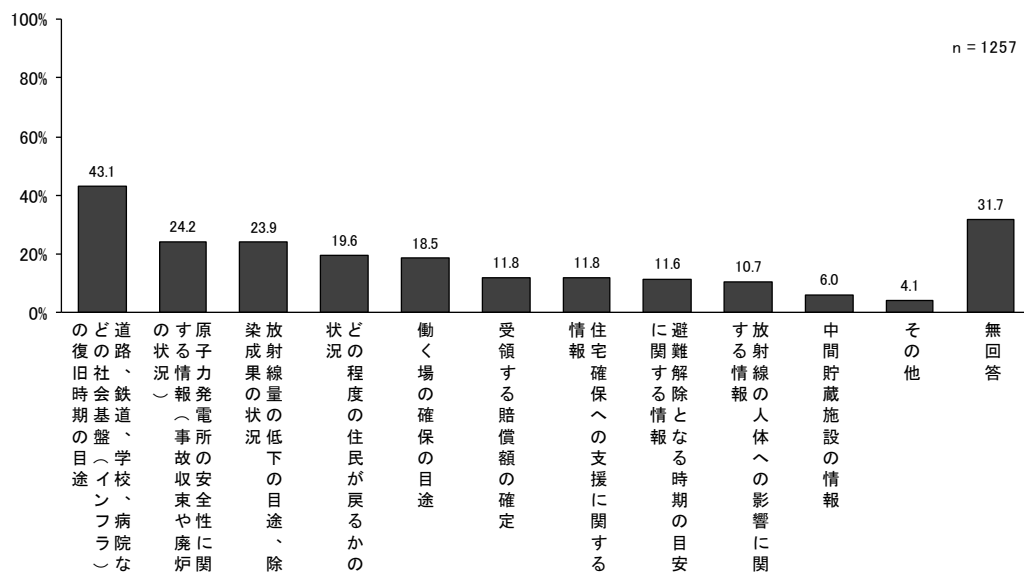


(2) 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの

【浪江町への帰還について、現時点ではまだ判断できない方（問 11 で「2」と回答した方）にうかがいます。】
問 11-3 上記「1」から「11」で重視したいことを3つまで選び、その条件を教えてください。

浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報（問 11-3）のうち、重視したいものについては、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が 43.1%と最も高く、次いで「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」が 24.2%、「放射線量の低下の目処、除染成果の状況」、が 23.9%となっている。

＜図表 3-3-2-4 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの（3つまで）＞



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

〔道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途〕

- ・ 高速、鉄道が復旧すれば安心。（10～20 代）
- ・ 私は運転しませんから、自転車で行くので道路や病院がしっかりしてないと。年齢もあまり若くないので。（60 代）
- ・ 店舗、病院等への交通手段（老いてからの）。（60 代）
- ・ 学校、病院やスーパーなどが無いと生活するのが難しい。（30 代）
- ・ 今の原町の様な状況では帰れると言っても、帰る事ができない。子どもが帰れる環境がなければ。（30 代）
- ・ インフラ整備。水道、道路の復旧。スーパーなど商店街の復旧。（40 代）
- ・ 町の水道水（ダム放射線量）。（40 代）
- ・ 安心安全な水、浄化施設（下水）、安定した電気が整備されると良い。（50 代）
- ・ 幼い子どもがいる為、就学の必要性が課題。（40 代）
- ・ 医療、教育環境の整備。（50 代）
- ・ 通院しているので病院等がなければ帰れない。（50 代）
- ・ 夫婦とも定期的に通院中なので、病院が復旧していること。（60 代）
- ・ 高齢でいつ（車の）運転ができなくなるか分からないので、病院や鉄道などの復旧が急がれる。（70 代以上）
- ・ 日常の買い物ができる店と病院。そのための巡回バス。老人ホームなどの介護施設。（70 代以上）

〔原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）〕

- 今の東電には何も信用がなく、不安。（10～20 代）
- 原子力が安全だと確信が持てるまで。（30 代）
- 原発事故の原因も明らかにされないままで真実が分からないから、信じられない。（30 代）
- 廃炉となったら帰宅したい。（30 代）
- 今でも汚染水が漏れ、ガレキからの放射能の飛散等があり、安全とは思えない。（40 代）
- 正確な情報の発信。（40 代）
- 絶対安全はない。本当の収束を迎えてから。（50 代）
- 廃炉が完全でなければ不安である。（50 代）
- これから先、原子炉（メルトダウン）の解体作業の不安。（60 代）
- 収束していないのに、「また避難」で移動はしたくないので。（60 代）
- ウソのない、正確な情報提供があること。放射線が漏れない処置が確実に行われていること。（70 代以上）
- 原子力発電所の安全性（事故収束）。原子炉の内部の状況が未だに解らない。（70 代以上）
- 事故により再度避難生活する様なことになれば、年齢的、肉体的、精神的に負担が大きい。（70 代以上）
- 廃炉が安全に行われること。瓦礫を片付けて放射能が飛び散るようでは帰れない。（70 代以上）

〔放射線量の低下の目途、除染成果の状況〕

- 放射線量はもちろん心配なので、その量の明確、また、除染を定期的に行ってほしい。（10～20 代）
- 安心できて、子どもも遊べるレベルになれば。（30 代）
- 除染をしても事故収束しなければ不安。（30 代）
- 震災前と同じ放射線量にならない限りは帰る予定はない。（30 代）
- 宅地・道路は除染しても、雑木林・山等の除染をしなければ虫食い状態で除染したとは名目上。ほぼ除染したでは帰らない。（40 代）
- 年間被ばく線量 1 ミリシーベルトの達成。（40 代）
- ホットスポット等の具体的な情報開示や除染成果の迅速な公開。（50 代）
- 山の除染も含めて行なわれ、線量低下すればよいが（現実的でないとも思う）。（60 代）
- 自宅の周囲にも放射線の高いところがある。不安である。（60 代）
- 除染によって線量が低下しても西風が吹くと線量が上がってくる。ネズミ、雨漏りによる家の中の劣化。（70 代以上）
- 放射線量低下の目途（0.23/h）を国は今になって（0.3～0.6/h）に変えようとしている。目先の誤魔化しに乗るべきではない。正しいデータの開示を。（70 代以上）
- 浪江町は、飲料水を確保する場所が高線量地区にあるので危険が大きい。（70 代以上）

3-3-3 浪江町への帰還時期

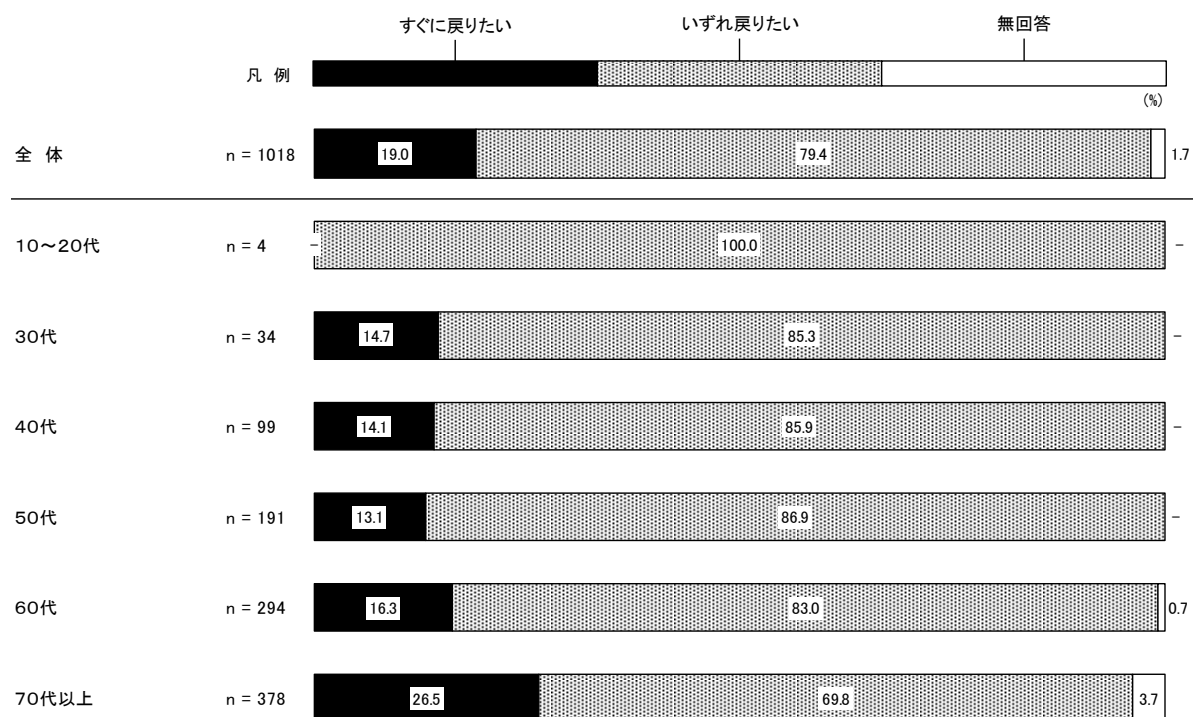
【浪江町への帰還について、すぐに・いずれ戻りたいと考えている方（問11で「1」と回答した方）にうかがいます。】

問11-1 浪江町へ戻る時期を教えてください。（〇は1つ）

浪江町への帰還時期については、「いずれ戻りたい」が79.4%と最も高く、「すぐに戻りたい」は19.0%となっている。

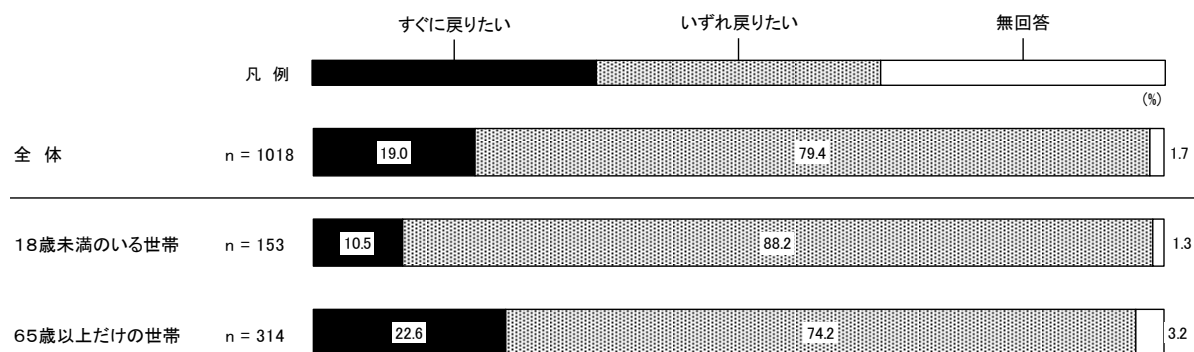
回答者の年齢別にみると、「すぐに戻りたい」は70代以上で26.5%と他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表3-3-3-1 浪江町への帰還時期（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「すぐに戻りたい」は65歳以上の世帯が22.6%と18歳未満のいる世帯と比べ高くなっている。一方、18歳未満のいる世帯は「いずれ戻りたい」が88.2%と9割弱を占めている。

＜図表3-3-3-2 浪江町への帰還時期（世帯構成別）＞



3-3-4 浪江町へ戻る時期を判断する条件

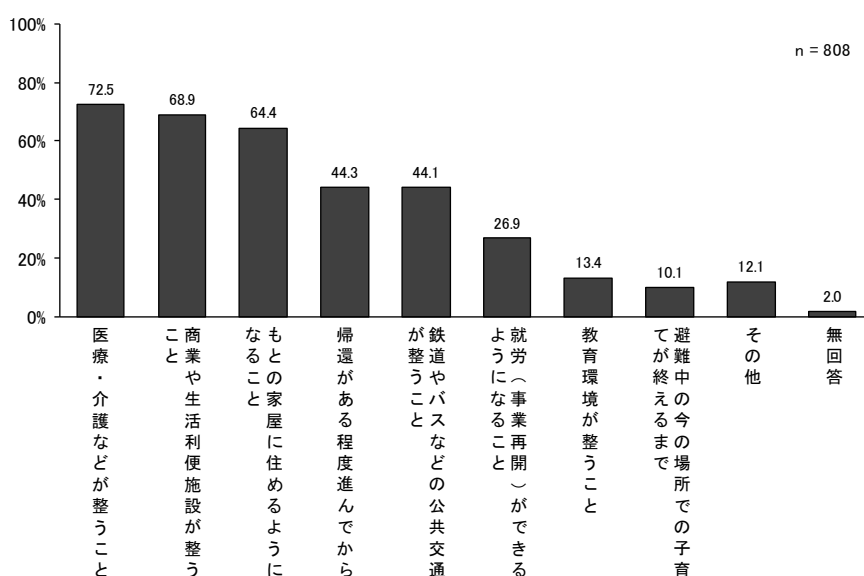
【問 11-1 で「2. いずれ戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 11-1 戻る時期を判断する条件を教えてください。(〇はいくつでも)

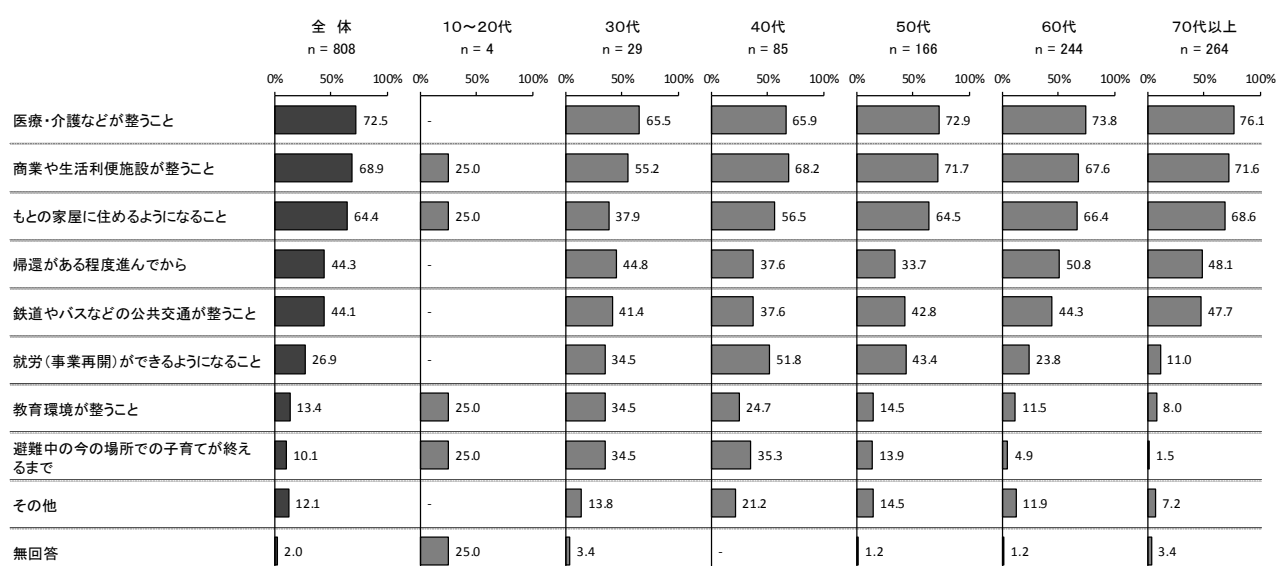
浪江町へ戻る時期を判断する条件については、「医療・介護などが整うこと」が 72.5%と最も高く、次いで「商業や生活利便施設が整うこと」が 68.9%、「もとの家屋に住めるようになること」が 64.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、50 代以上では「医療・介護などが整うこと」が 7 割以上と最も高くなっている。「就労（事業再開）ができるようになること」は 40 代（51.8%）、50 代（43.4%）が他の年齢に比べ高い。

＜図表 3-3-4-1 浪江町へ戻る時期を判断する条件＞

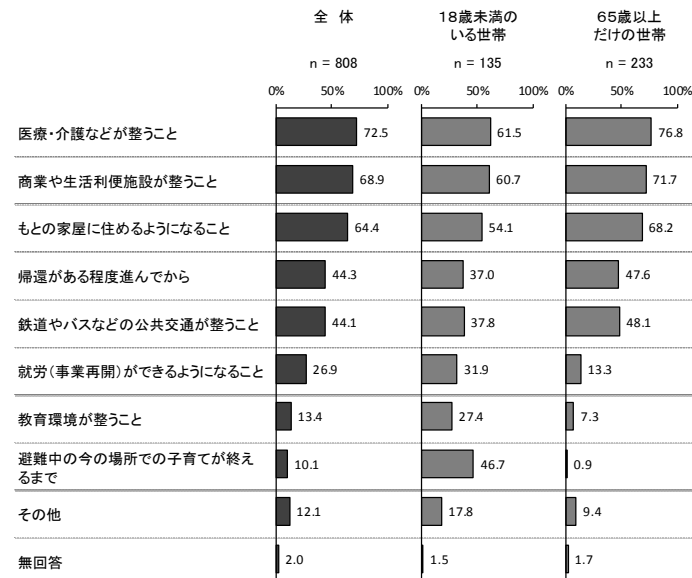


＜図表 3-3-4-2 浪江町へ戻る時期を判断する条件（年齢別）＞



世帯構成別にみても、「医療・介護などが整うこと」がいずれの世帯構成でも最も高くなっている。「鉄道やバスなどの公共交通が整うこと」は65歳以上だけの世帯で48.1%と18歳未満のいる世帯に比べ高く、「避難中の今の場所での子育てが終えるまで」は18歳未満のいる世帯が46.7%と65歳以上だけの世帯に比べ高くなっている。

＜図表3-3-4-3 浪江町へ戻る時期を判断する条件（世帯構成別）＞



3-3-5 浪江町へ戻る場合の家族

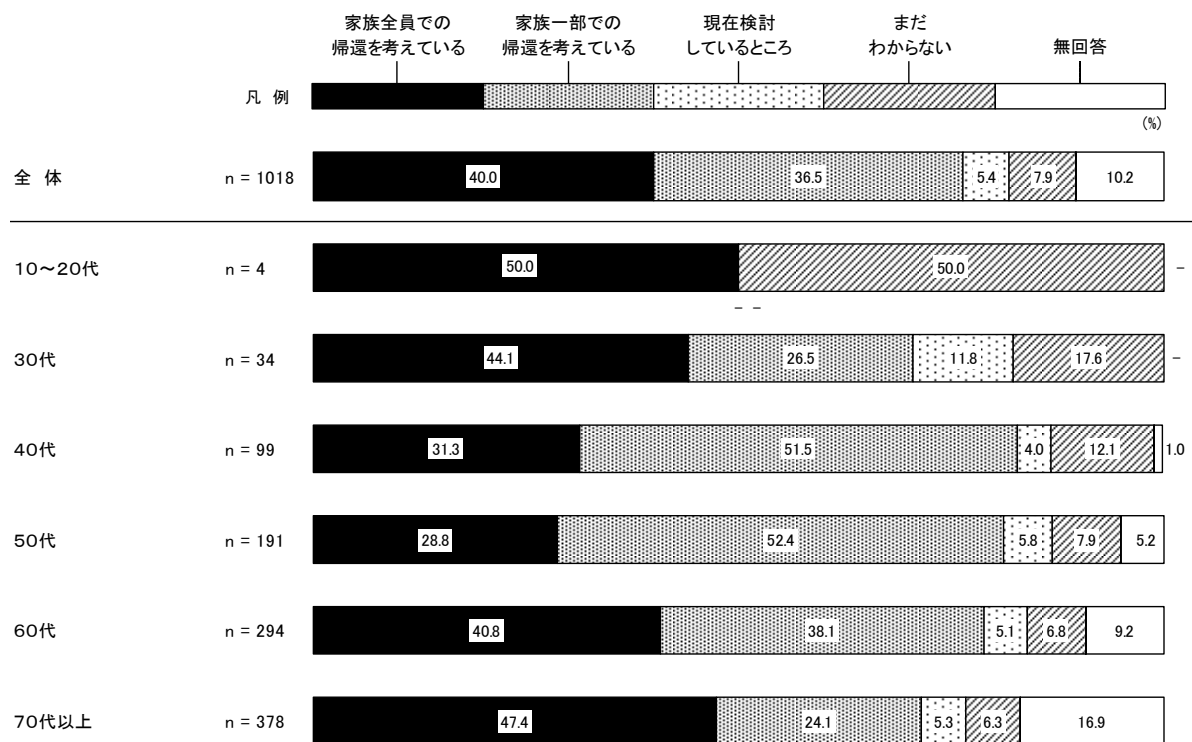
【浪江町への帰還について、すぐに・いずれ戻りたいと考えている方（問11で「1」と回答した方）にうかがいます。】

問11-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。（○は1つ）

浪江町へ戻る場合の家族については、「家族全員での帰還を考えている」が40.0%と最も高く、次いで「家族一部での帰還を考えている」が36.5%、「現在検討しているところ」と「まだわからない」が合わせて13.3%となっている。

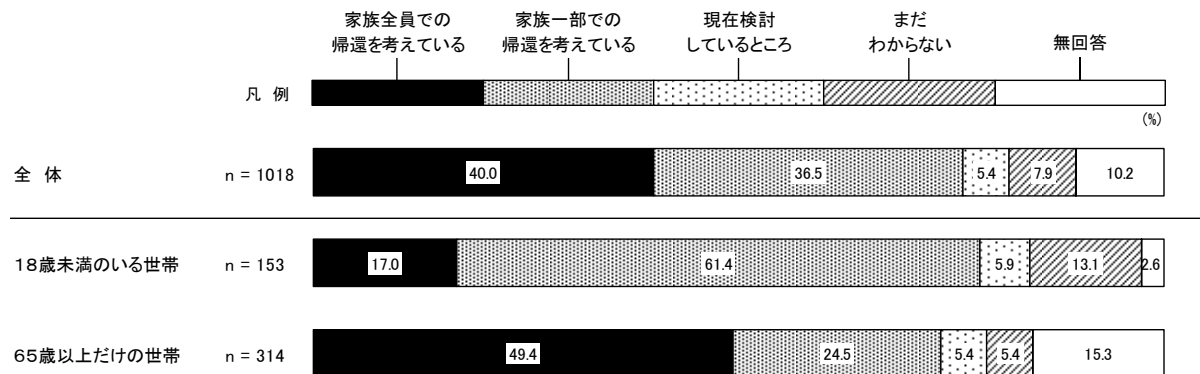
回答者の年齢別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、70代以上が47.4%と他の年齢に比べて高くなっている。「家族一部での帰還を考えている」は50代が52.4%、40代が51.5%と5割を超えている。

＜図表3-3-5-1 浪江町へ戻る場合の家族（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、65 歳以上だけの世帯が 49.4%と 5 割弱を占めるが、18 歳未満のいる世帯では 17.0%にとどまる。一方、「家族一部での帰還を考えている」は 18 歳未満のいる世帯では 61.4%となっており、65 歳以上だけの世帯に比べ高くなっている。

＜図表 3－3－5－2 浪江町へ戻る場合の家族（世帯構成別）＞



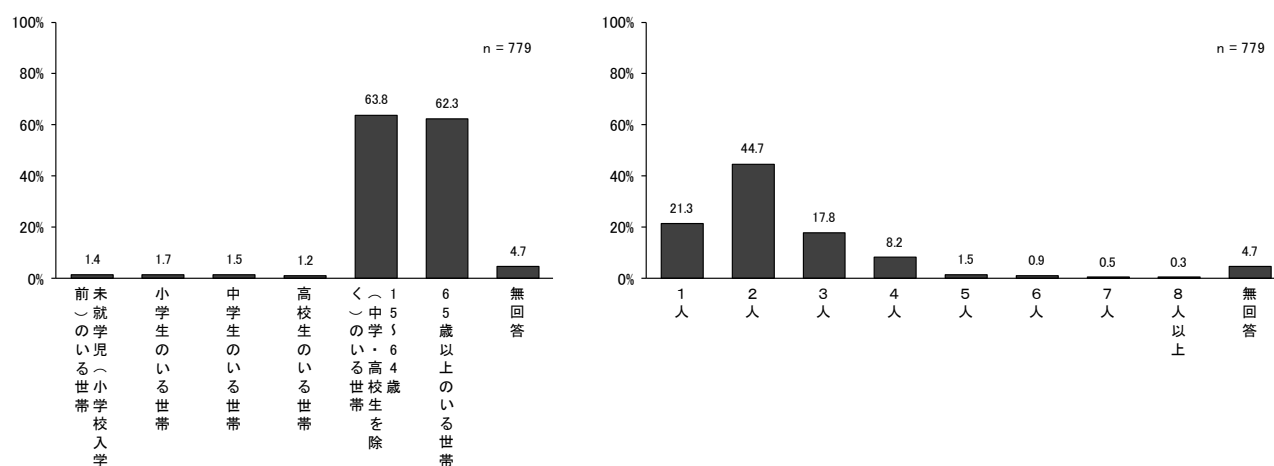
3-3-6 浪江町へ戻る場合の世帯構成・人数

【問 11-2 で「1. 家族全員での帰還を考えている」「2. 家族一部での帰還を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-2 戻る予定の家族の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

浪江町へ戻る場合の世帯構成については、「15～64 歳（中学・高校性を除く）のいる世帯」（63.8%）、「65 歳以上のいる世帯」（62.3%）が 6 割強と高く、高校生以下の子どもがいる世帯は 1%強とほとんどいない。世帯人数については、「2 人」が 44.7%と最も高く、次いで「1 人」が 21.3%、「3 人」が 17.8%となっている。

＜図表 3-3-6-1 浪江町へ戻る場合の世帯構成・人数＞



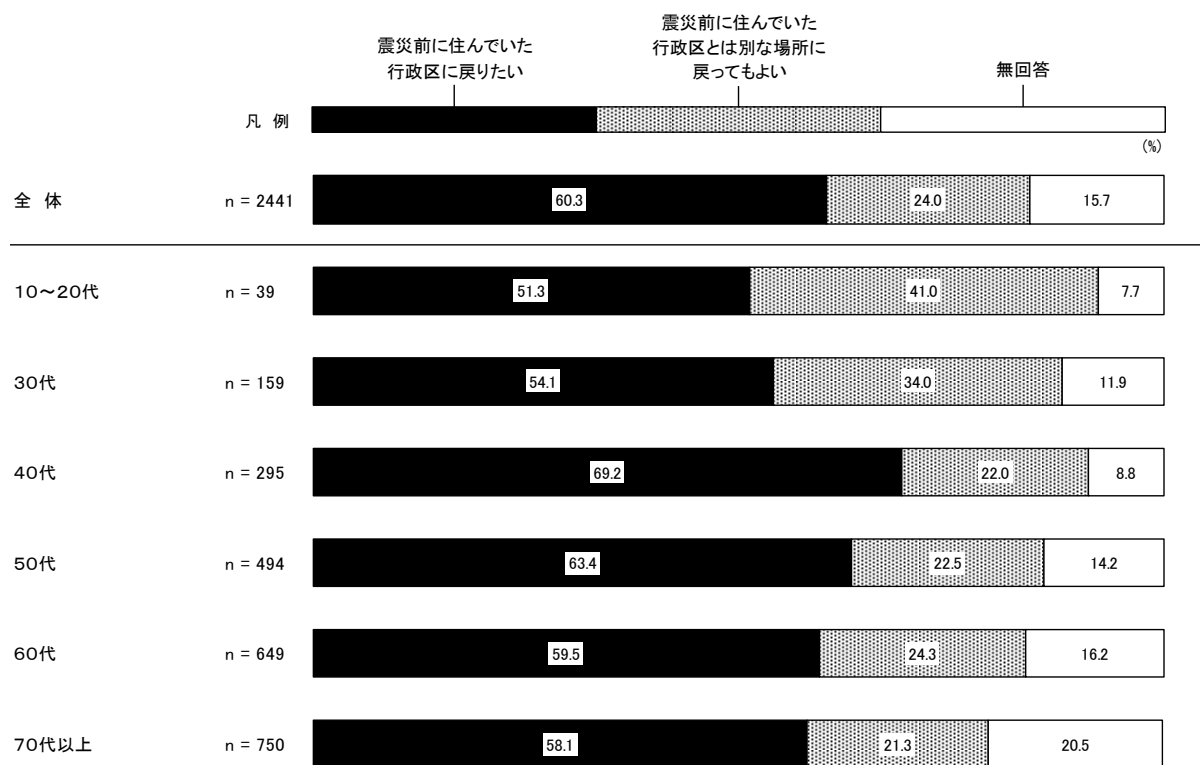
3-3-7 震災発生当時の行政区への帰還意向

【問 11 で「1. すぐに・いずれ戻りたいと考えている」「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。
 （「2. まだ判断がつかない」と回答した方は、町内に戻ると仮定して回答ください）】
 問 11-5 戻りたい行政区への考えを教えてください（〇は1つ）

震災発生当時の行政区への帰還意向については、「震災前に住んでいた行政区に戻りたい」が 60.3%、「震災前に住んでいた行政区とは別な場所に戻ってもよい」は 24.0%となっている。

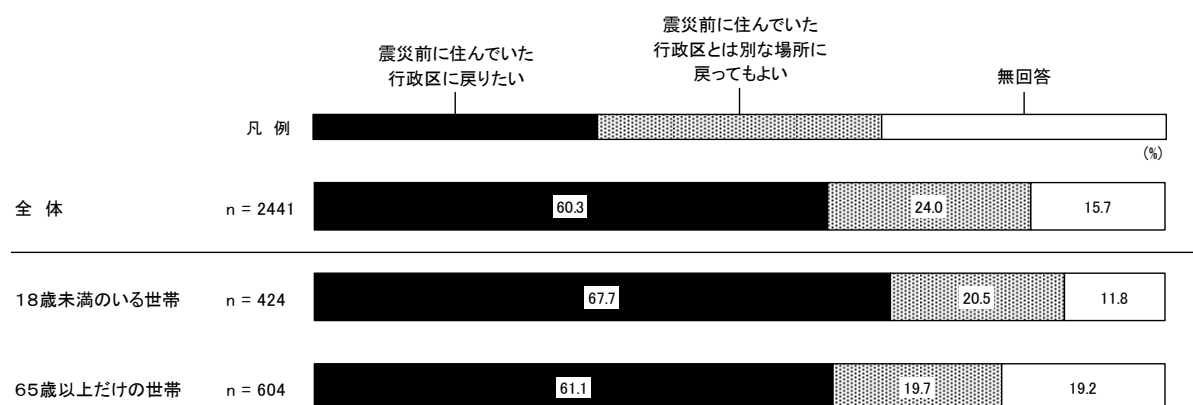
回答者の年齢別にみると、「震災前に住んでいた行政区に戻りたい」が 40 代で 69.2%と、他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表 3-3-7-1 震災発生当時の行政区への帰還意向（年齢別）＞



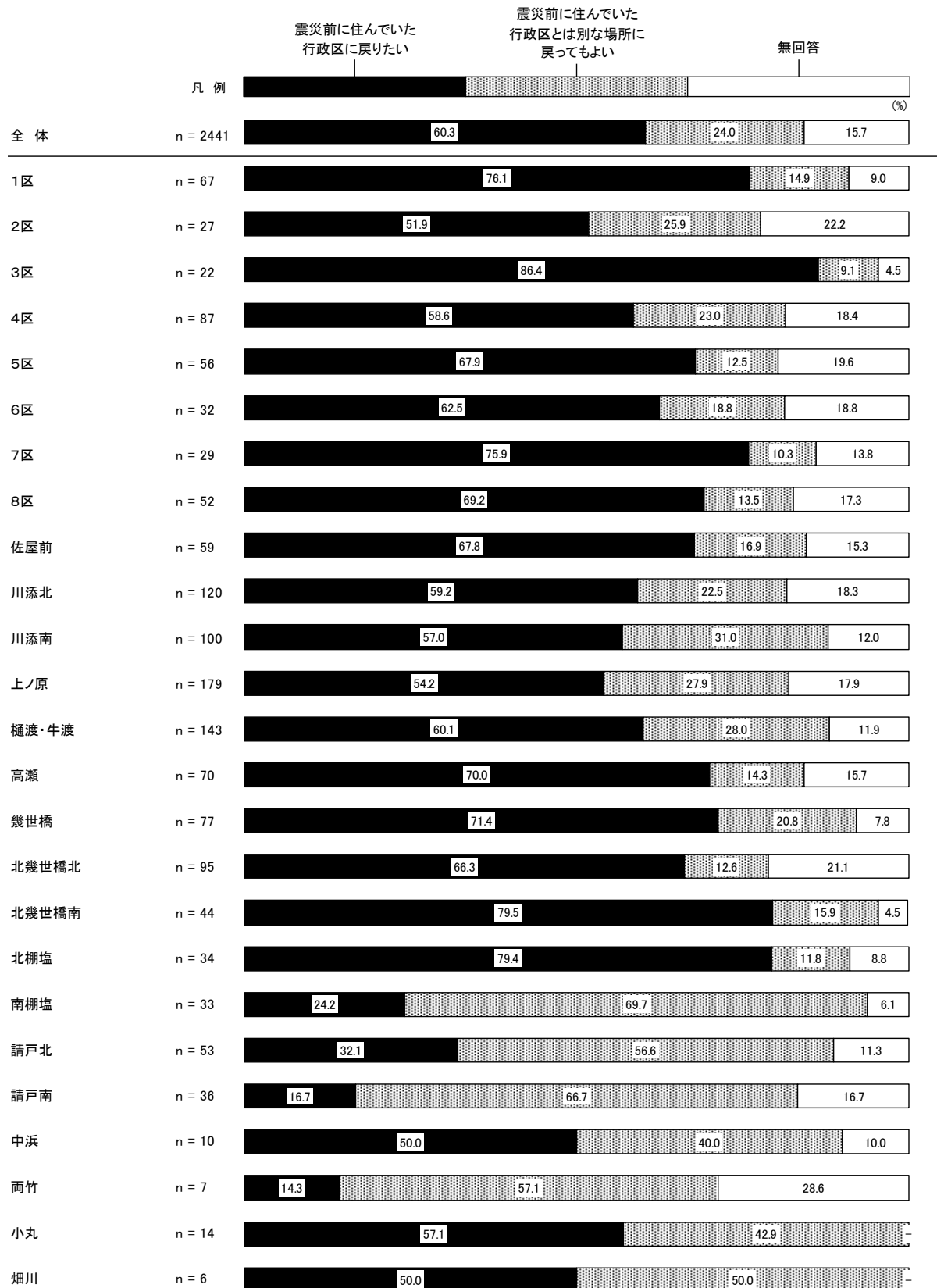
世帯構成別にみると、「震災前に住んでいた行政区に戻りたい」は18歳未満のいる世帯で67.7%と、65歳以上だけの世帯に比べやや高くなっている。

＜図表3-3-7-2 震災発生当時の行政区への帰還意向（世帯構成別）＞

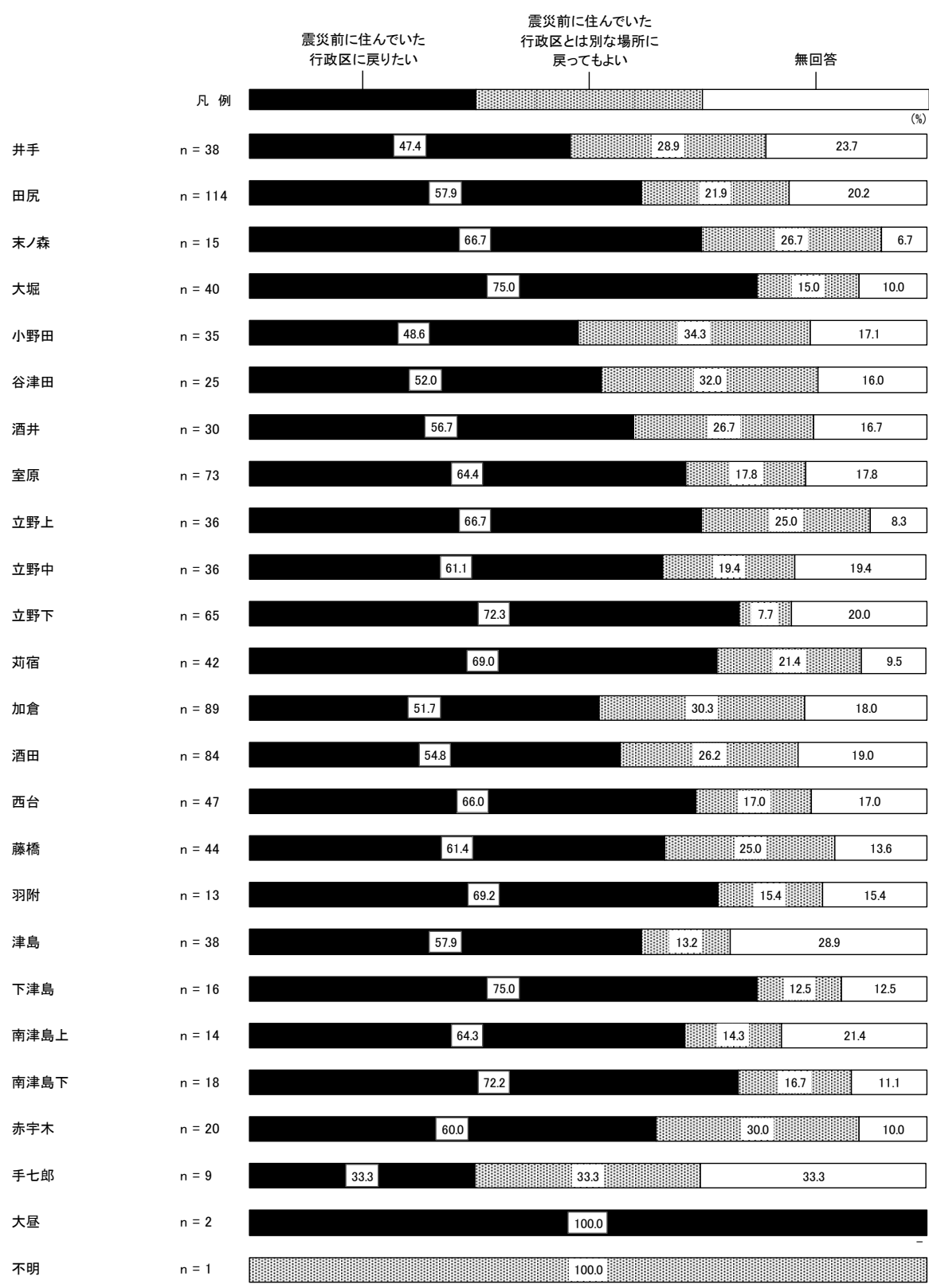


震災発生当時の主な行政区別にみると、「震災前に住んでいた行政区に戻りたい」は、大屋（100.0%）、3区（86.4%）、北幾世橋南（79.5%）、北棚塩（79.4%）、1区（76.1%）で他の行政区に比べ高い。

＜図表3-3-7-3 震災発生当時の行政区への帰還意向（行政区別）＞



＜図表3-3-7-3 震災発生当時の行政区への帰還意向（行政区別）続き＞



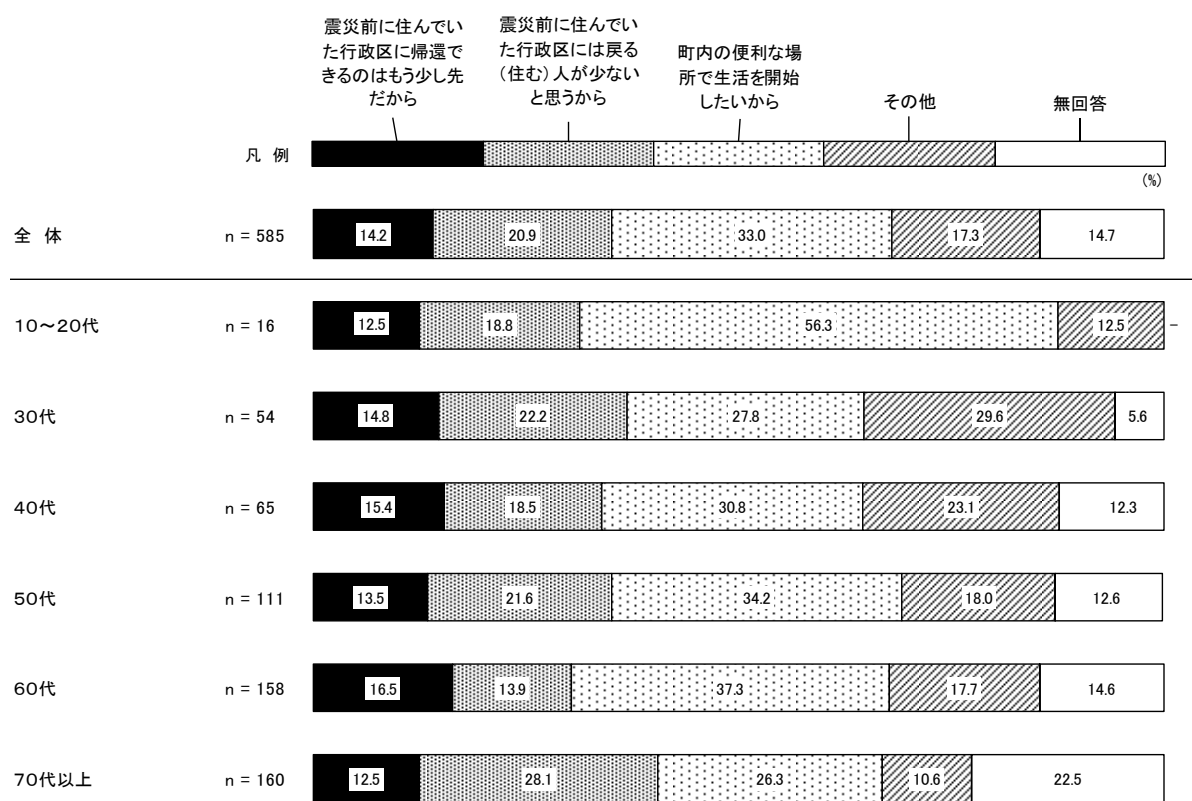
3-3-8 震災発生当時とは別の行政区に戻ってもよい理由

【問 11-5 で「2. 震災前に住んでいた行政区とは別な場所に戻ってもよい」と回答した方にうかがいます。】
 問 11-6 震災前に住んでいた場所とは別な場所に戻ってもよい理由を教えてください。（〇は1つ）

震災発生当時とは別の行政区に戻ってもよい理由については、「町内の便利な場所で生活を開始したいから」が33.0%と最も高く、次いで「震災前に住んでいた行政区には戻る（住む）人が少ないと思うから」が20.9%、「震災前に住んでいた行政区に帰還できるのはもう少し先だから」が14.2%となっている。

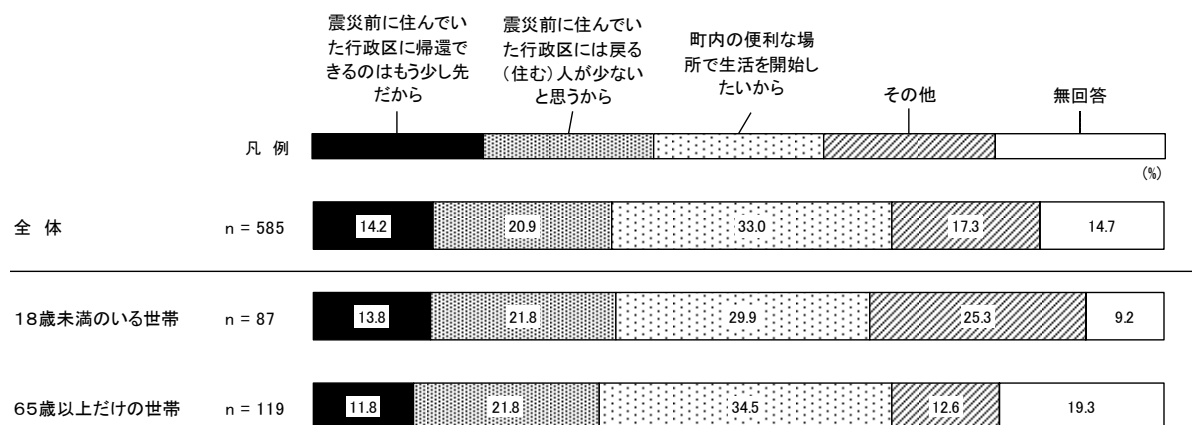
回答者の年齢別にみると、「町内の便利な場所で生活を開始したいから」は60代(37.3%)、50代(34.2%)が他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表3-3-8-1 震災発生当時とは別の行政区に戻ってもよい理由（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「町内の便利な場所で生活を開始したいから」は65歳以上だけの世帯で34.5%とやや高くなっている。

＜図表3-3-8-2 震災発生当時とは別の行政区に戻ってもよい理由（世帯構成別）＞



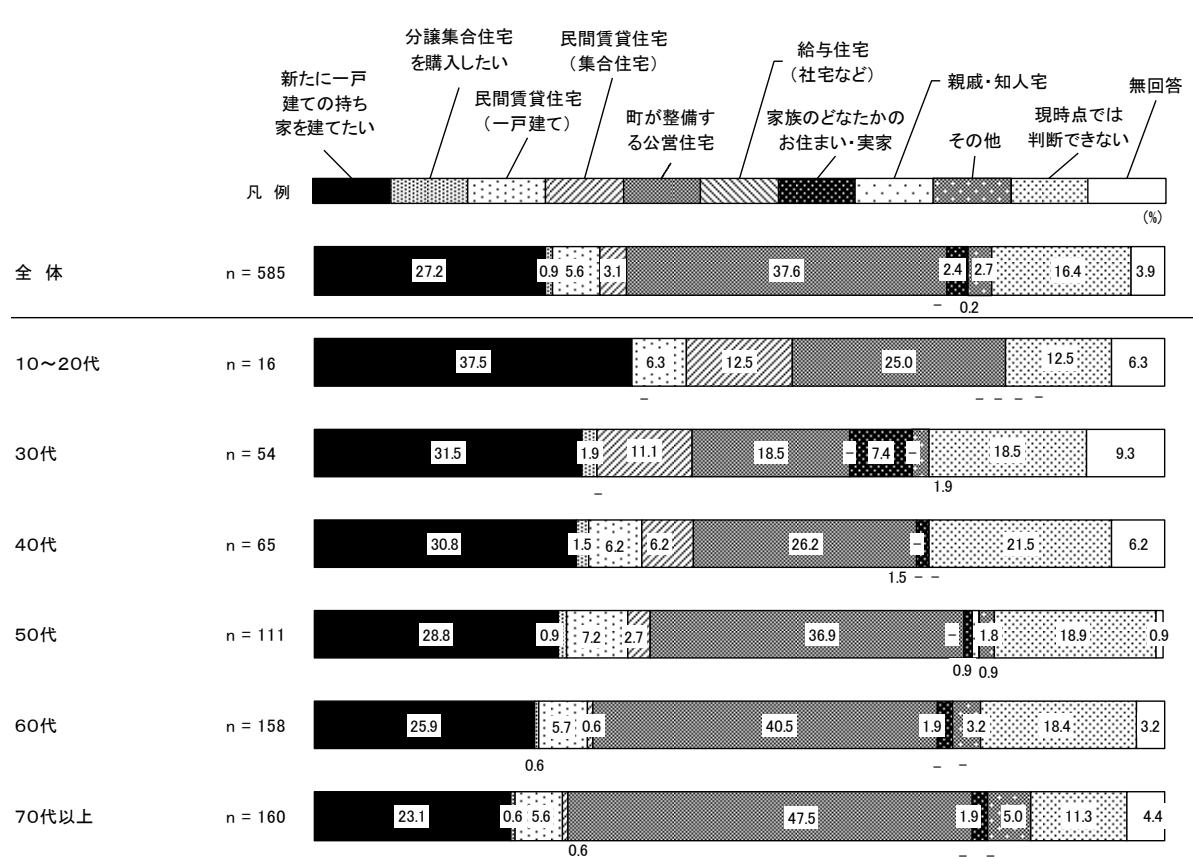
3-3-9 震災発生当時とは別の行政区へ帰還する場合に希望する住居形態

【問 11-5 で「2. 震災前に住んでいた行政区とは別な場所に戻ってもよい」と回答した方にうかがいます。】
 問 11-7 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

震災発生当時とは別の行政区へ帰還する場合に希望する住居形態については、「町が整備する公営住宅」が 37.6%と最も高く、次いで「新たに一戸建ての持ち家を建てたい」が 27.2%、「現時点では判断できない」が 16.4%となっている。

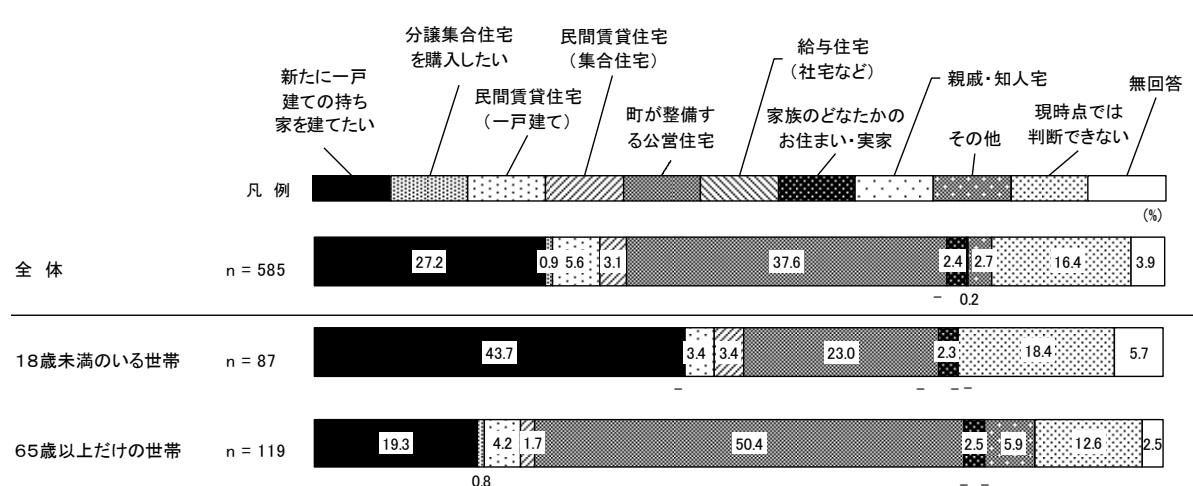
回答者の年齢別にみると、「町が整備する公営住宅」は、年齢が高くなるにつれ希望する割合が高くなり、70代以上で 47.5%となっている。

＜図表 3-3-9-1 震災発生当時とは別の行政区へ帰還する場合に希望する住居形態（年齢別）＞



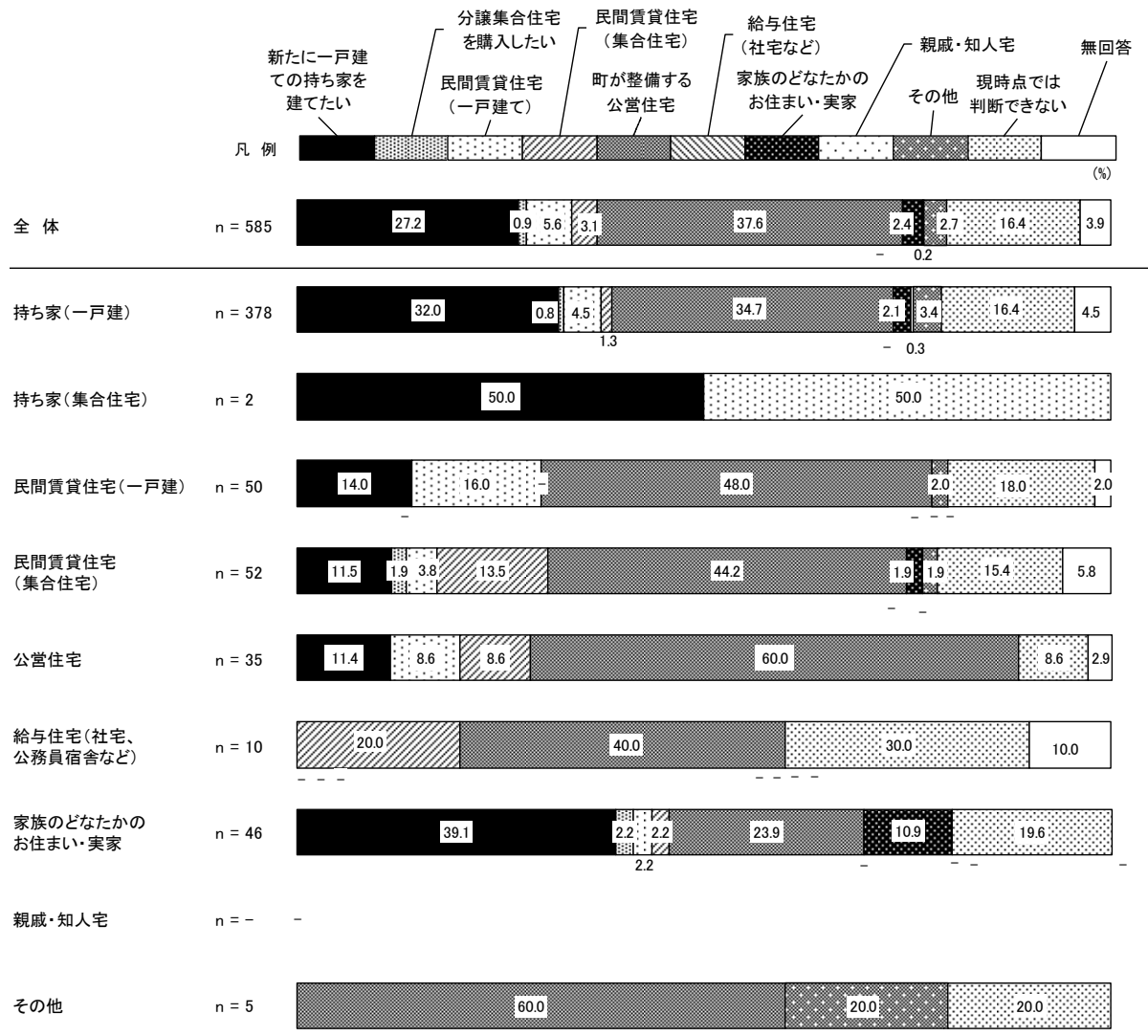
世帯構成別にみると、「町が整備する公営住宅」は 65 歳以上だけの世帯で 50.4%と、18 歳未満のいる世帯に比べ高くなっている。これに対し、18 歳未満のいる世帯では「新たに一戸建ての持ち家を建てたい」が 43.7%と高い。

＜図表 3-3-9-2 震災発生当時とは別の行政区へ帰還する場合に希望する住居形態（世帯構成別）＞



震災発生当時の住居形態別にみると、「町が整備する公営住宅」は震災発生時に公営住宅に居住していた人が60.0%と最も高くなっている。

＜図表3-3-9-3 震災発生当時とは別の行政区へ帰還する場合に希望する住居形態（震災発生当時の住居形態別）＞



3-3-10 希望する公営住宅の住居形態

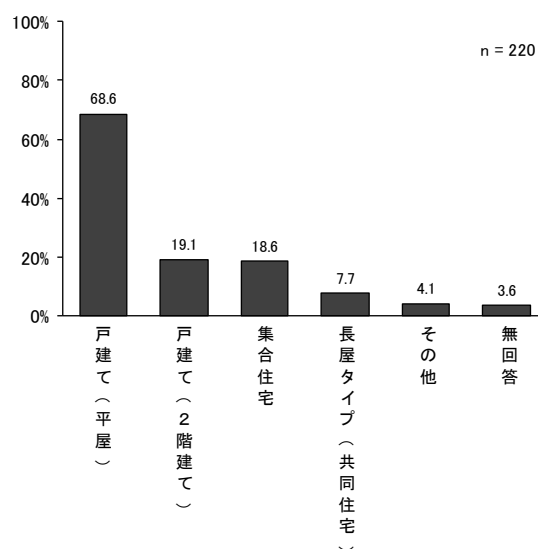
【問 11-7 で「5. 町が整備する公営住宅」と回答した方にうかがいます。】

問 11-8 町が整備する公営住宅では、どのような形態を希望されますか。(〇はいくつでも)

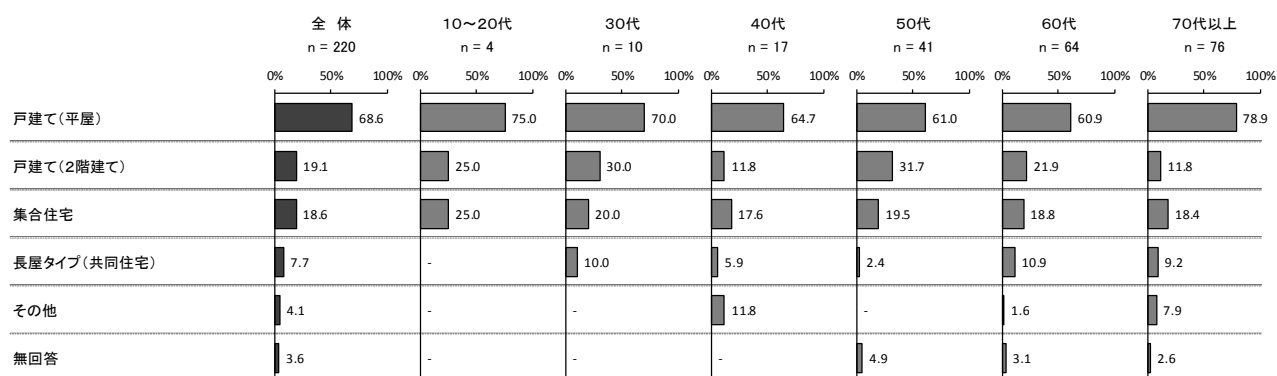
希望する公営住宅の住居形態については、「戸建て（平屋）」が68.6%と最も高く、次いで「戸建て（2階建て）」が19.1%、「集合住宅」が18.6%となっている。

回答者の年齢別にみても、すべての年齢で「戸建て（平屋）」が最も高くなっている。

＜図表3-3-10-1 希望する公営住宅の住居形態＞

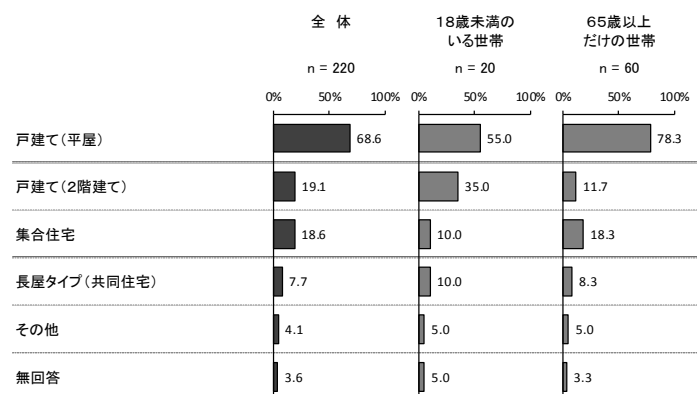


＜図表3-3-10-2 希望する公営住宅の住居形態（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「戸建て（平屋）」では 65 歳以上だけの世帯が 78.3%と、18 歳未満のいる世帯に比べ高くなっている。

＜図表 3－3－10－3 希望する公営住宅の住居形態（世帯構成別）＞



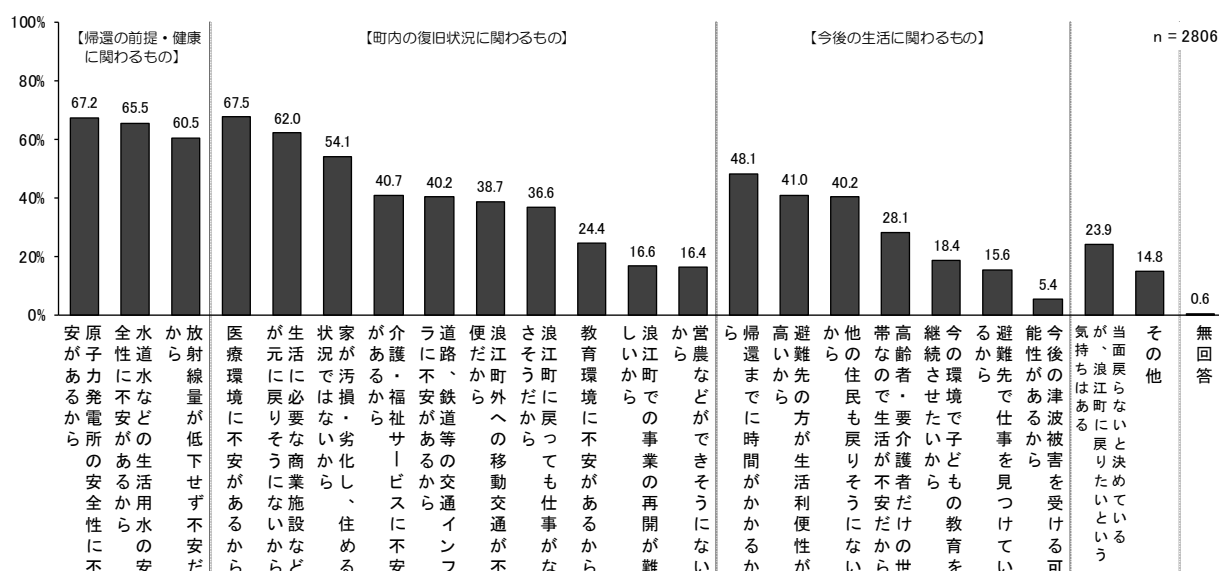
3-3-11 現時点で戻らないと決めている理由

【浪江町への帰還について、戻らないと決めている（問11で「3」と回答した方）にうかがいます。】

問11-4 戻らないと決めている理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）

現時点で戻らないと決めている理由については、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「原子力発電所の安全性に不安があるから」が67.2%と最も高く、次いで「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が65.5%、「放射線量が低下せず不安だから」が60.5%となっている。【町内の復旧状況に関わるもの】については、「医療環境に不安があるから」が67.5%と最も高く、次いで「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が62.0%、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が54.1%となっている。【今後の生活に関わるもの】については、「帰還までに時間がかかるから」が48.1%と最も高く、次いで「避難先の方が生活利便性が高いから」が41.0%、「他の住民も戻りそうにないから」が40.2%となっている。

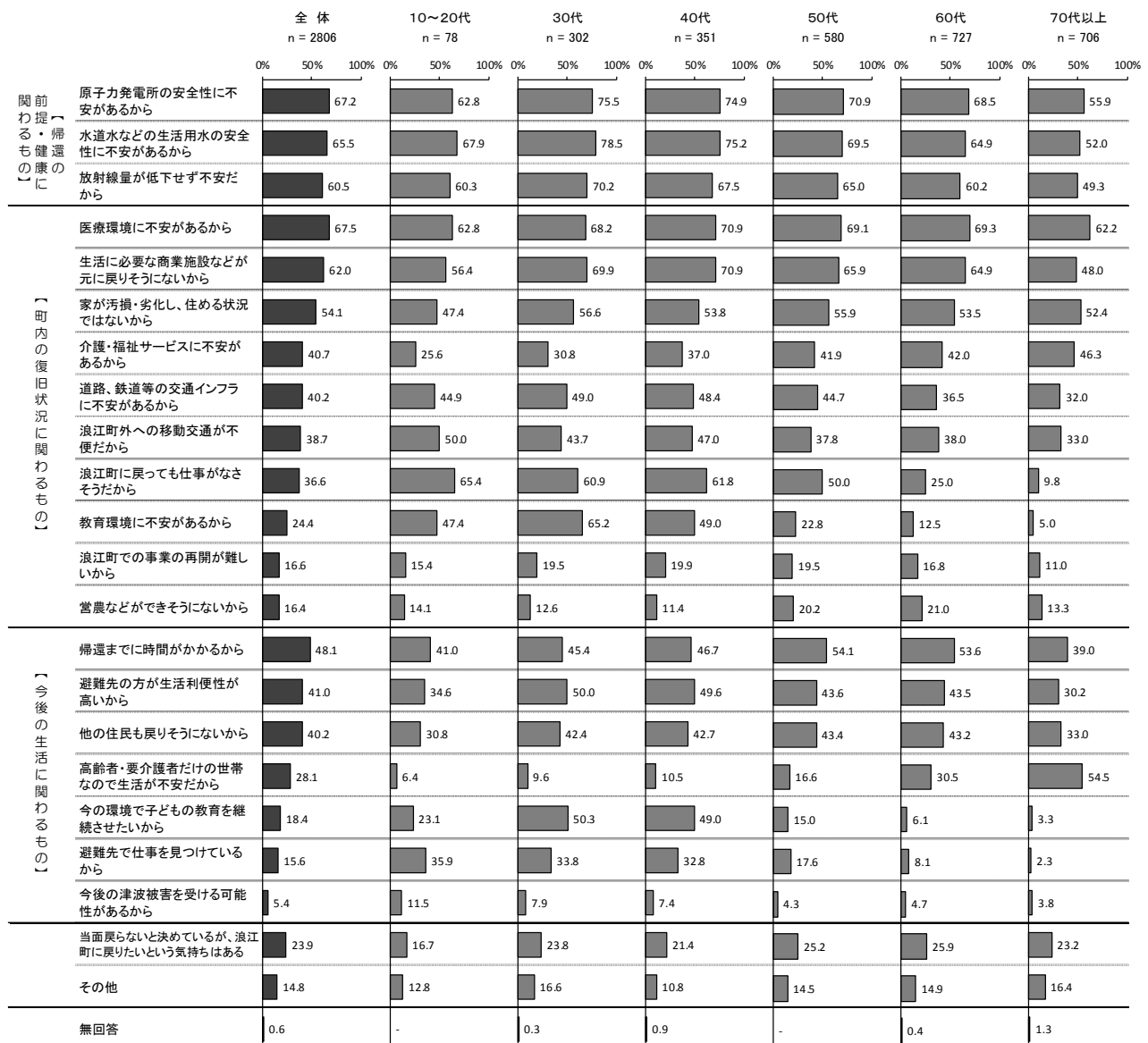
＜図表3-3-11-1 現時点で戻らないと決めている理由＞



Ⅲ 調査結果

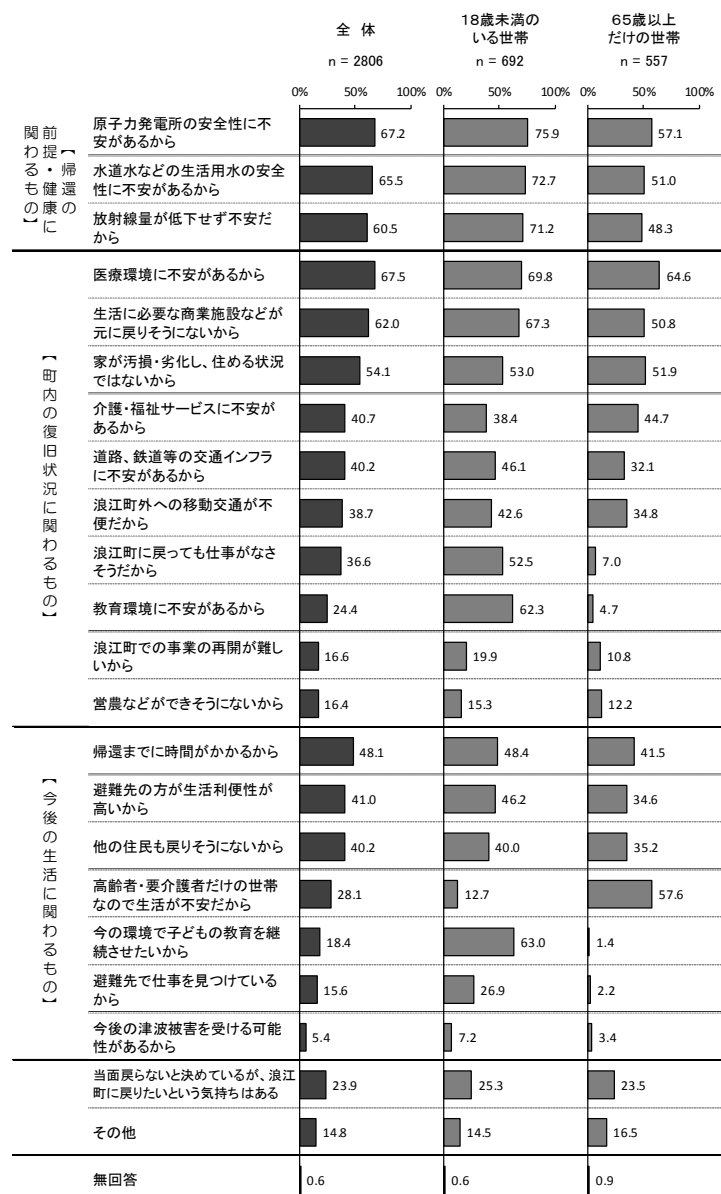
回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「原子力発電所の安全性に不安があるから」は、30代（75.5%）、40代（74.9%）、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は30代（78.5%）、40代（75.2%）、「放射線量が低下せず不安だから」は30代（70.2%）で7割を超えおり、他の年齢と比べ高くなっている。【浪江町内の復旧状況に関わるもの】については、「医療環境に不安があるから」は、40代（70.9%）、「浪江町に戻っても仕事になさそうだから」は、10～20代（65.4%）、「教育環境に不安があるから」は30代（65.2%）で他の年齢と比べ高くなっている。【今後の生活に関わるもの】については、「帰還までに時間がかかるから」は、50代（54.1%）、60代（53.6%）、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」は、70代以上（54.5%）、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は、30代（50.3%）、40代（49.0%）、「避難先で仕事を見つけているから」は、10～20代（35.9%）、20代（33.8%）、40代（32.8%）で他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表3－3－11－2 現時点で戻らないと決めている理由（年齢別）＞



世帯構成別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「原子力発電所の安全性に不安があるから」、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」、「放射線量が低下せず不安だから」について、18歳未満のいる世帯は7割を超えおり、65歳以上だけの世帯に比べ高くなっている。【浪江町内の復旧状況に関わるもの】については、18歳未満のいる世帯で「浪江町に戻っても仕事がなさそうだから」(52.5%)、「教育環境に不安があるから」(62.3%)が、65歳以上だけの世帯に比べ高くなっている。【今後の生活に関わるもの】については、「帰還までに時間がかかるから」、「他の住民も戻りそうにないから」は、世帯構成による違いはあまり見られない。「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」は、65歳以上だけの世帯(57.6%)、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は、18歳未満のいる世帯(63.0%)が高くなっている。

＜図表3-3-11-3 現時点で戻らないと決めている理由（世帯構成別）＞



3-3-12 帰還を判断するまでの間、または帰還しない場合に居住したい主な自治体

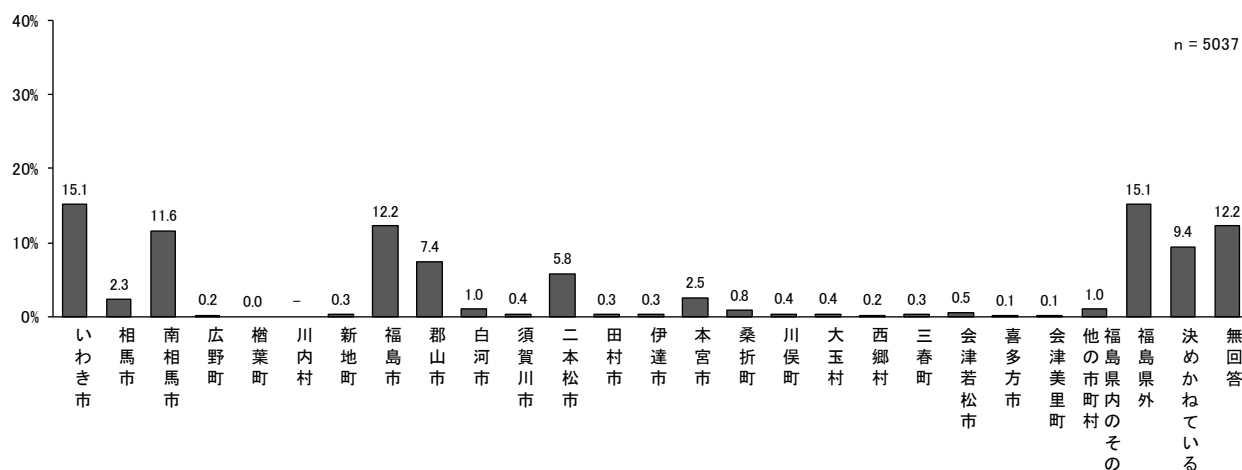
【問 11-1 で「2.いずれ戻りたい」または問 11 で「2.まだ判断がつかない」「3.戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-9 判断するまでの間、または帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。（○は1つ）

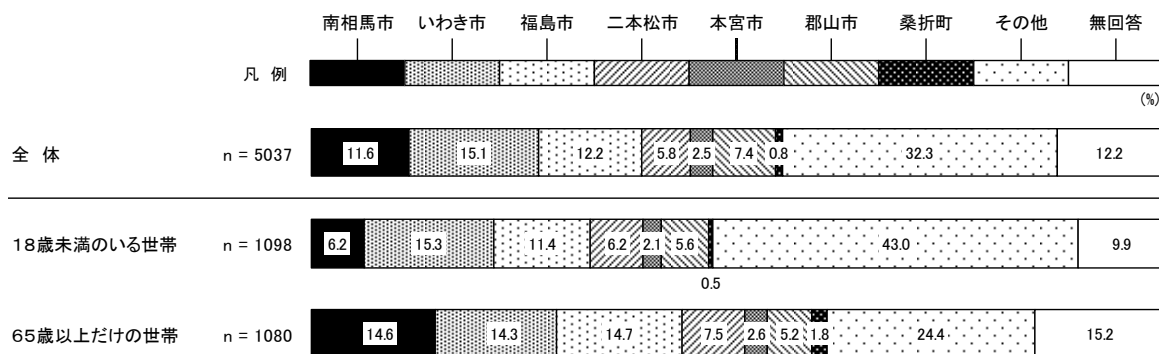
浪江町への帰還を判断するまでの間、または帰還しない場合に居住したい自治体については、「いわき市」、「福島県外」がともに 15.1%と最も高く、次いで「福島市」（12.2%）、「南相馬市」（11.6%）、「郡山市」（7.4%）、「二本松市」（5.8%）となっている。

世帯構成別にみると、18 歳未満のいる世帯では「いわき市」（15.3%）、65 歳以上だけの世帯では「福島市」（14.7%）が最も高くなっている。

＜図表3-3-12-1 帰還を判断するまでの間、または帰還しない場合に居住したい主な自治体＞

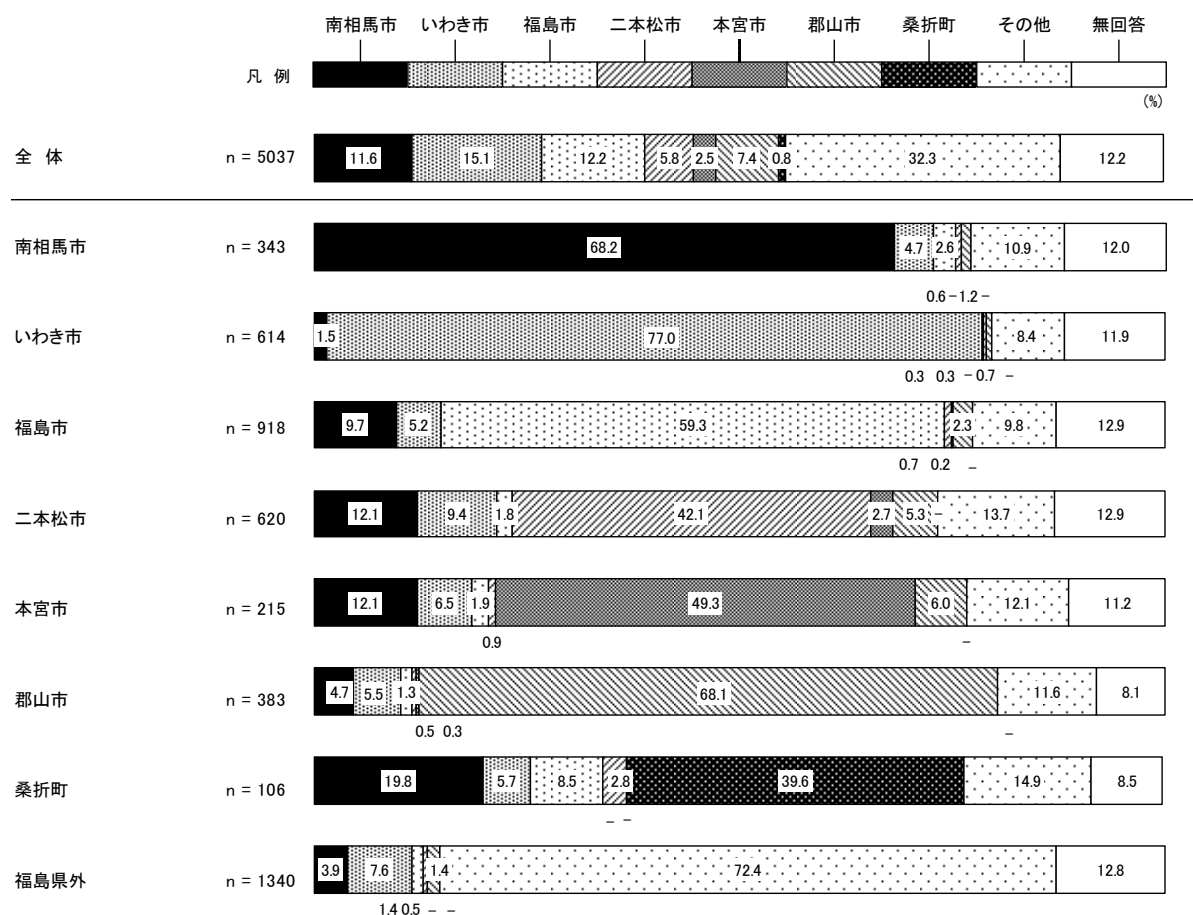


＜図表3-3-12-2 帰還を判断するまでの間、または帰還しない場合に居住したい主な自治体（世帯構成別）＞



現在の主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体も避難先での居住を希望する割合が最も高いが、いわき市に避難している世帯の77.0%が同じ「いわき市」での居住を希望しており、他の避難先自治体と比べ、避難先自治体に継続して居住を希望する割合が高い。

＜図表3-3-12-3 帰還を判断するまでの間、または帰還しない場合に居住したい主な自治体（主な避難先自治体別）＞



3-3-13 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

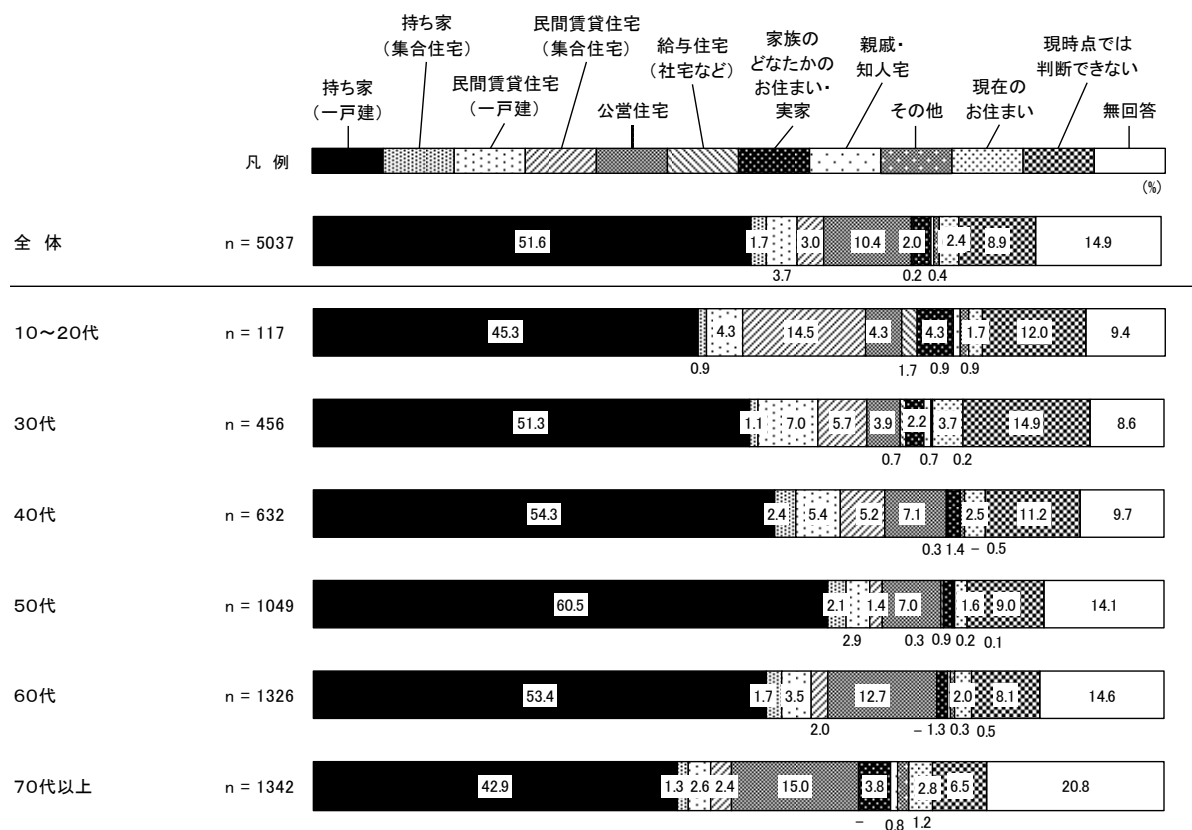
【問 11-1 で「2. いずれ戻りたい」または問 11 で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-10 今後のお住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

浪江町へ帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態については、「持ち家(一戸建)」が51.6%と最も高く、次いで「公営住宅」が10.4%、「現時点では判断できない」が8.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家(一戸建)」は、50代が60.5%、40代が54.3%となっている。「公営住宅」は、70代以上が15.0%、60代が12.7%となっている。

＜図表3-3-13-1 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態(年齢別)＞



3-3-14 浪江町へ戻らない場合の今後の生活において必要な支援

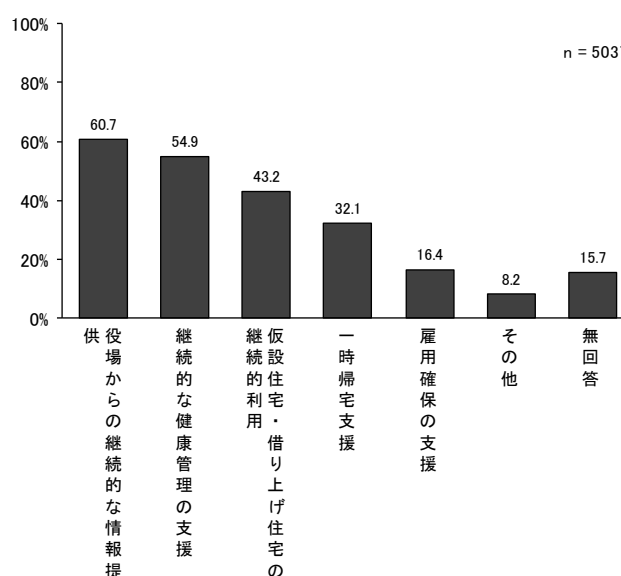
【問 11-1 で「2. いずれ戻りたい」または問 11 で「2. まだ判断がつかない」「3.戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-11 震災時に居住されていた浪江町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

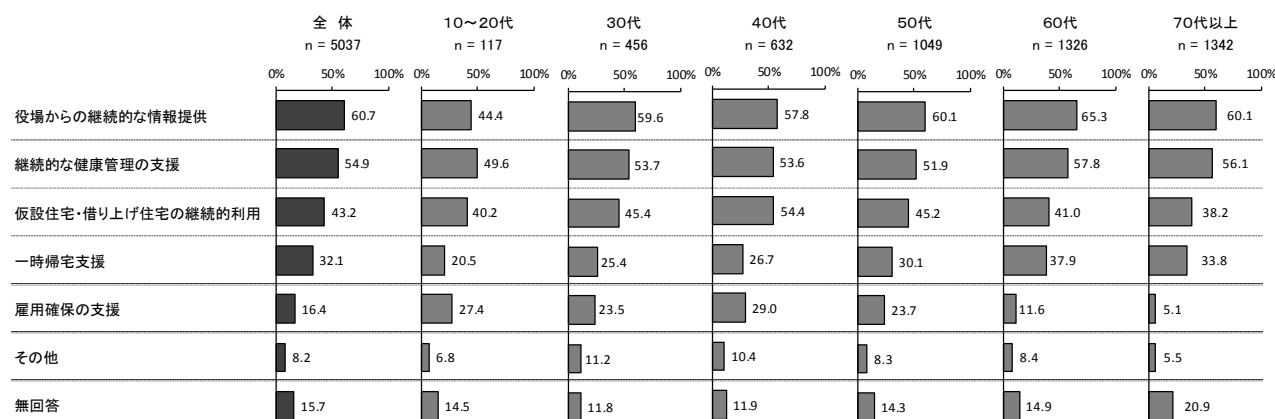
浪江町へ戻らない場合の今後の生活において必要な支援については、「役場からの継続的な情報提供」が 60.7%と最も高く、次いで「継続的な健康管理の支援」が 54.9%、「仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用」が 43.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、60代では、「役場からの継続的な情報提供」が 65.3%、「継続的な健康管理の支援」が 57.8%、「一時帰宅支援」が 37.9%と他の年齢に比べ高くなっている。「仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用」は、40代が 54.4%と他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表 3-3-14-1 浪江町へ戻らない場合の今後の生活において必要な支援＞

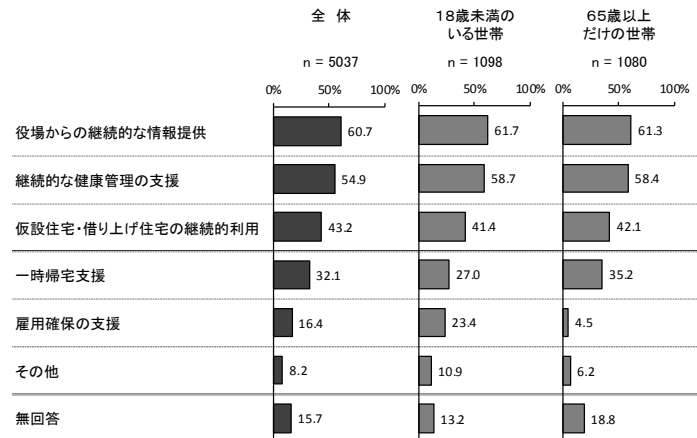


＜図表 3-3-14-2 浪江町へ戻らない場合の今後の生活において必要な支援（年齢別）＞



世帯構成別にみても、「役場からの継続的な情報提供」がすべての世帯構成で最も高くなっている。「雇用確保の支援」は18歳未満のいる世帯で23.4%と65歳以上だけの世帯に比べ高くなっている。

＜図表3－3－14－3 浪江町へ戻らない場合の今後の生活において必要な支援（世帯構成別）＞



3-4 情報の入手とコミュニケーション

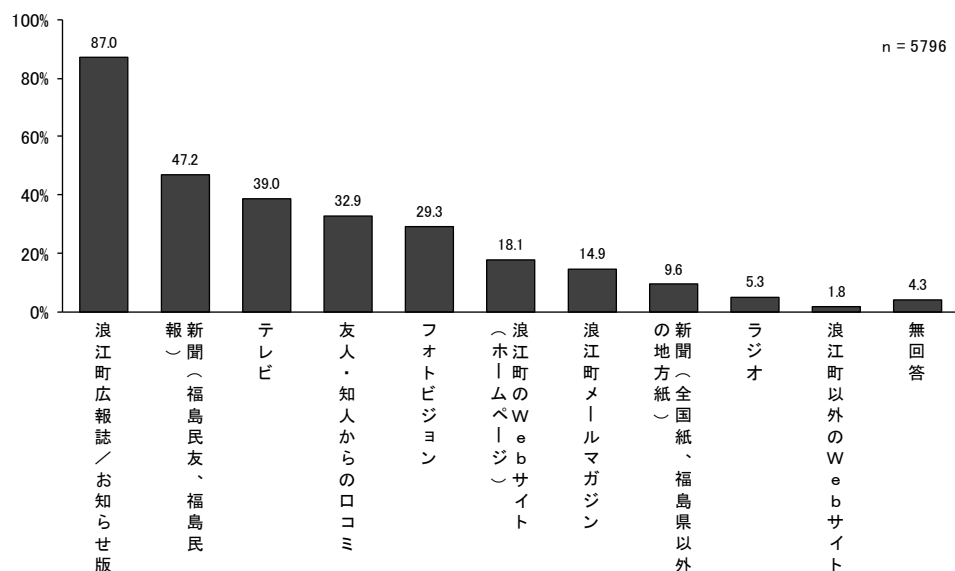
3-4-1 浪江町に関する情報の入手経路

問 12-1 普段、浪江町に関する情報を、どこでお知りになりますか。(〇はいくつでも)

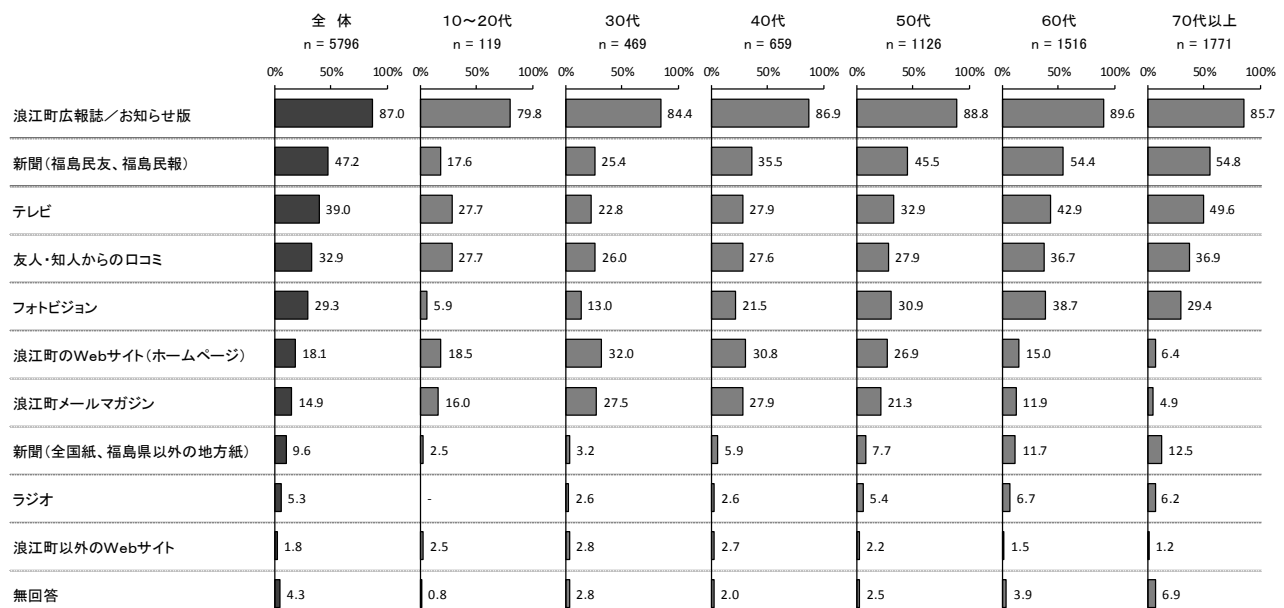
浪江町に関する情報の入手経路については、「浪江町広報誌/お知らせ版」が87.0%と最も高く、次いで「新聞（福島民友、福島民報）」が47.2%、「テレビ」が39.0%となっている。

回答者の年齢別にみても、「浪江町広報誌/お知らせ版」はすべての年齢で最も高くなっている。「新聞（福島民友、福島民報）」は60代（54.4%）、70代以上（54.8%）において過半数を占めている。また、「浪江町WEBサイト（ホームページ）」や「浪江町メールマガジン」は30代、40代で3割前後と他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-4-1-1 浪江町に関する情報の入手経路>

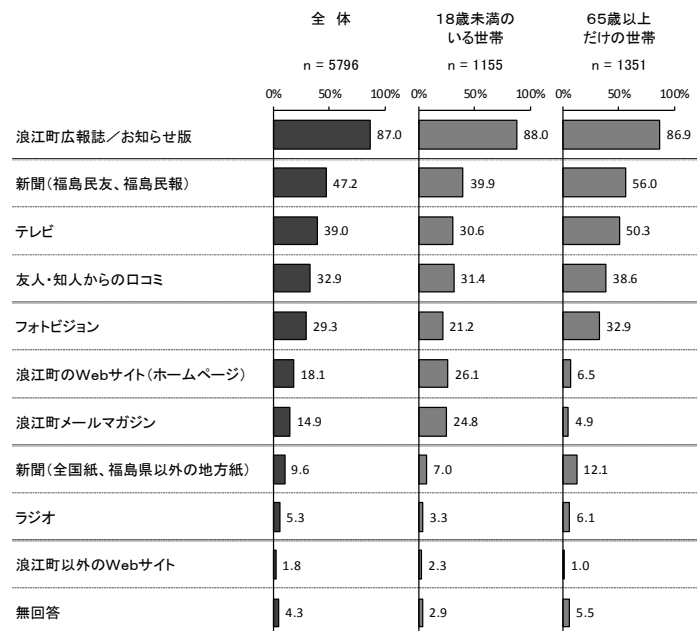


<図表3-4-1-2 浪江町に関する情報の入手経路（年齢別）>



世帯構成別にみると、65 歳以上の世帯では「新聞(福島民友、福島民報)」(56.0%)、「テレビ」(50.3%)、「友人・知人からの口コミ」(38.6%) が 18 歳未満のいる世帯に比べ高くなっている。一方、18 歳未満のいる世帯では、「浪江町の Web サイト(ホームページ)」(26.1%)、「浪江町メールマガジン」(24.8%) が 65 歳以上の世帯に比べ高くなっている。

＜図表 3-4-1-3 浪江町に関する情報の入手経路(世帯構成別)＞



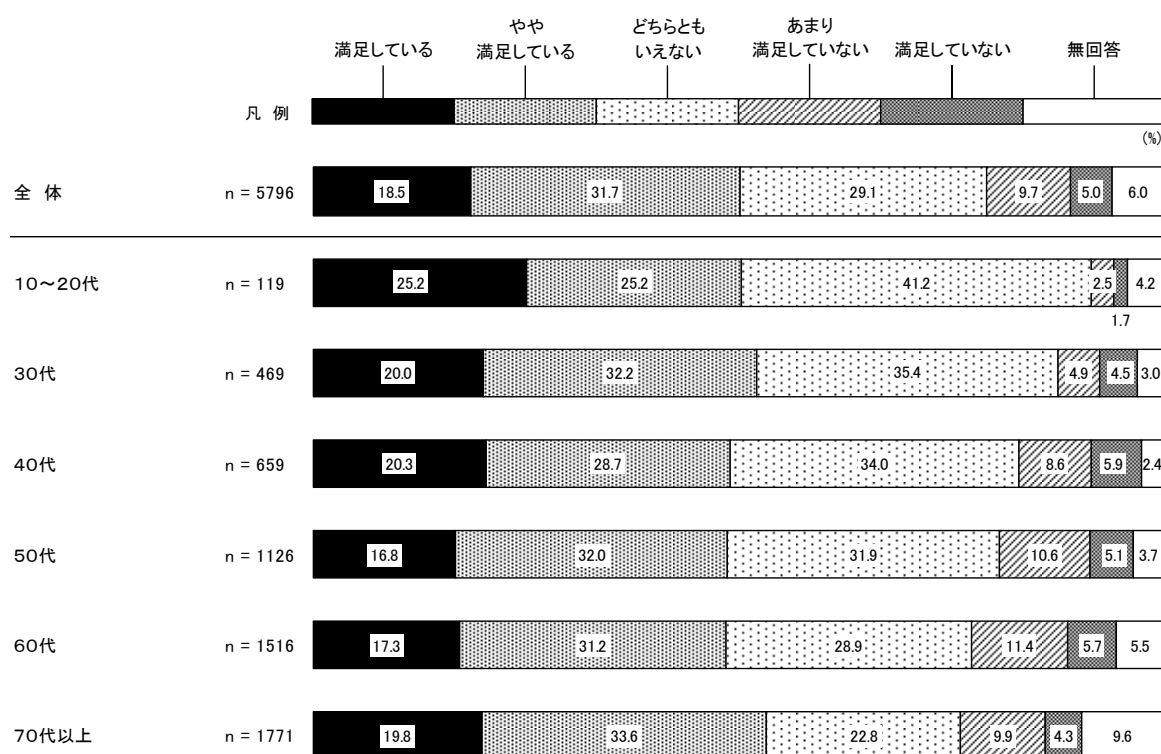
3-4-2 浪江町役場からの情報提供への満足度

問 12-2 浪江町役場からの情報提供にどの程度満足していますか。(〇は1つ)

浪江町役場からの情報提供への満足度については、「やや満足している」が31.7%と最も高く、「満足している」(18.5%)と合わせた『満足度』は50.2%と過半数を占める。

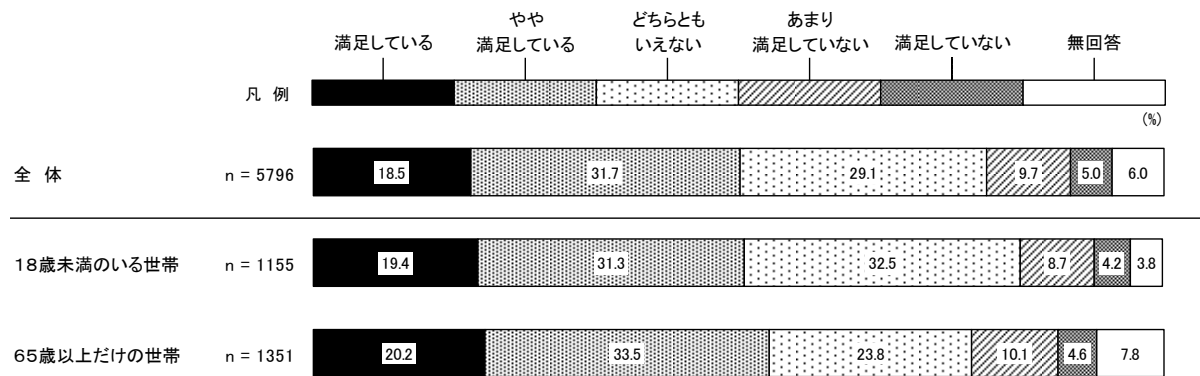
回答者の年齢別にみると、「満足している」は10～20代で25.2%と他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表3-4-2-1 浪江町役場からの情報提供への満足度（年齢別）＞



世帯構成別にみると、世帯構成による特徴的な違いはあまり見られない。

＜図表3－4－2－2 浪江町役場からの情報提供への満足度（世帯構成別）＞



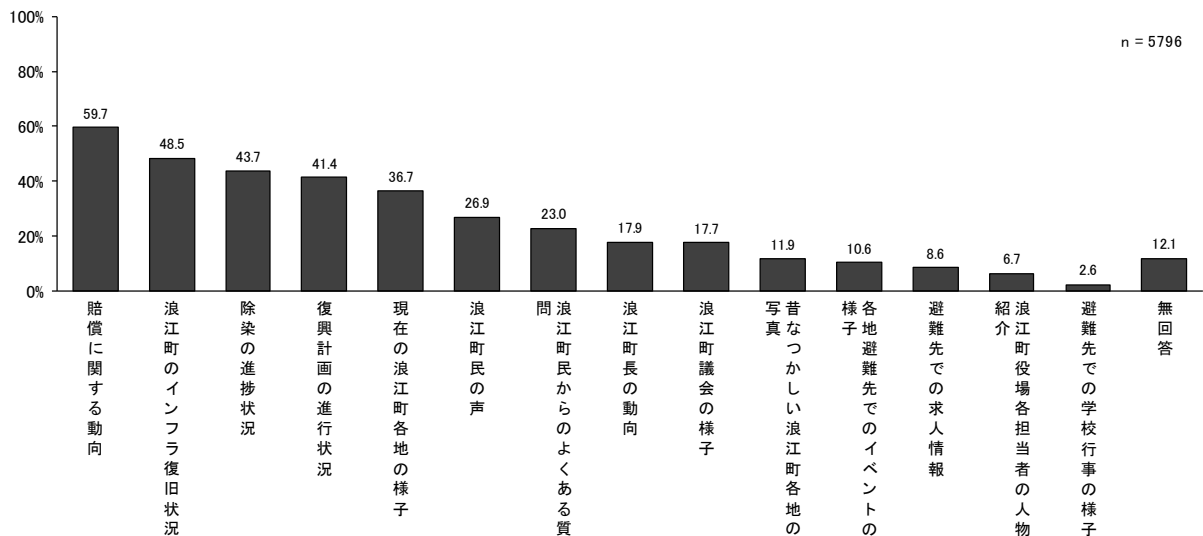
3-4-3 浪江町役場から提供してほしい情報

問 12-3 ホームページ、広報誌、フォトビジョンを介して、浪江町役場から提供してほしい情報はありますか。
(〇はいくつでも)

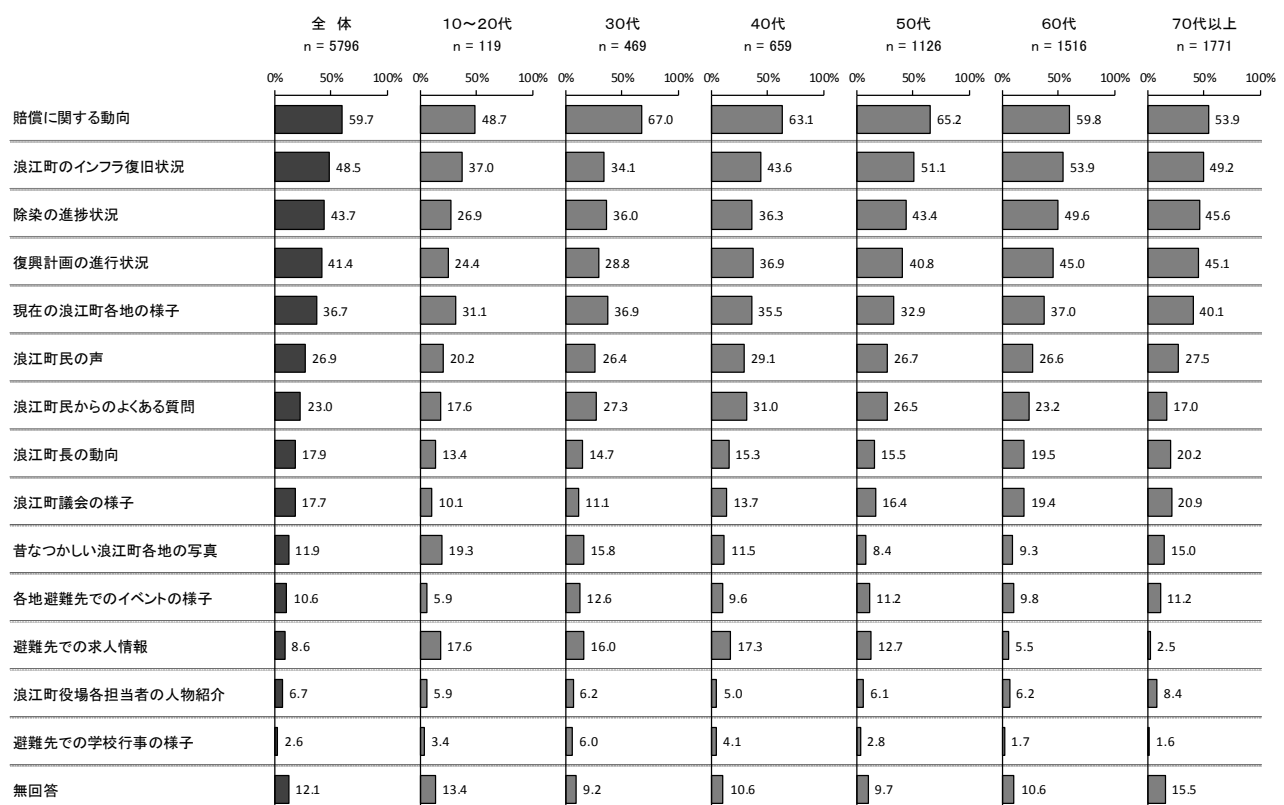
浪江町役場から提供してほしい情報については、「賠償に関する動向」が 59.7%と最も高く、次いで「浪江町のインフラ復旧状況」が 48.5%、「除染の進捗状況」が 43.7%、となっている。

回答者の年齢別にみると、「賠償に関する動向」は 30 代で 67.0%、40 代で 63.1%、50 代で 65.2%と 6 割以上を占めている。

＜図表 3-4-3-1 浪江町役場から提供してほしい情報＞

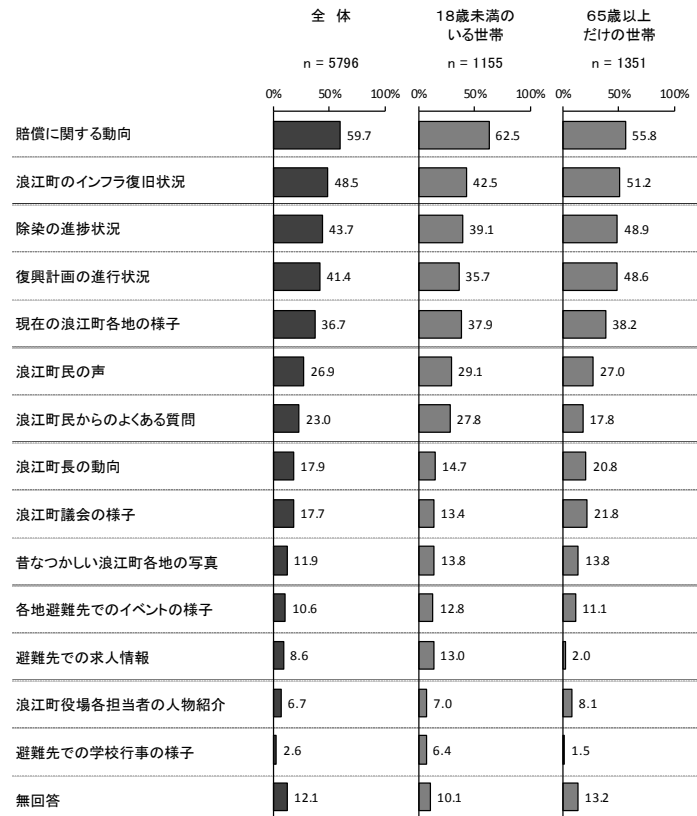


＜図表 3-4-3-2 浪江町役場から提供してほしい情報（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「復興計画の進行状況」は 65 歳以上だけの世帯が 48.6%と 18 歳未満のいる世帯に比べ高くなっているが、浪江町役場から提供してほしい主な情報について、世帯構成での大きな違いは見られない。

＜図表 3－4－3－3 浪江町役場から提供してほしい情報（世帯構成別）＞



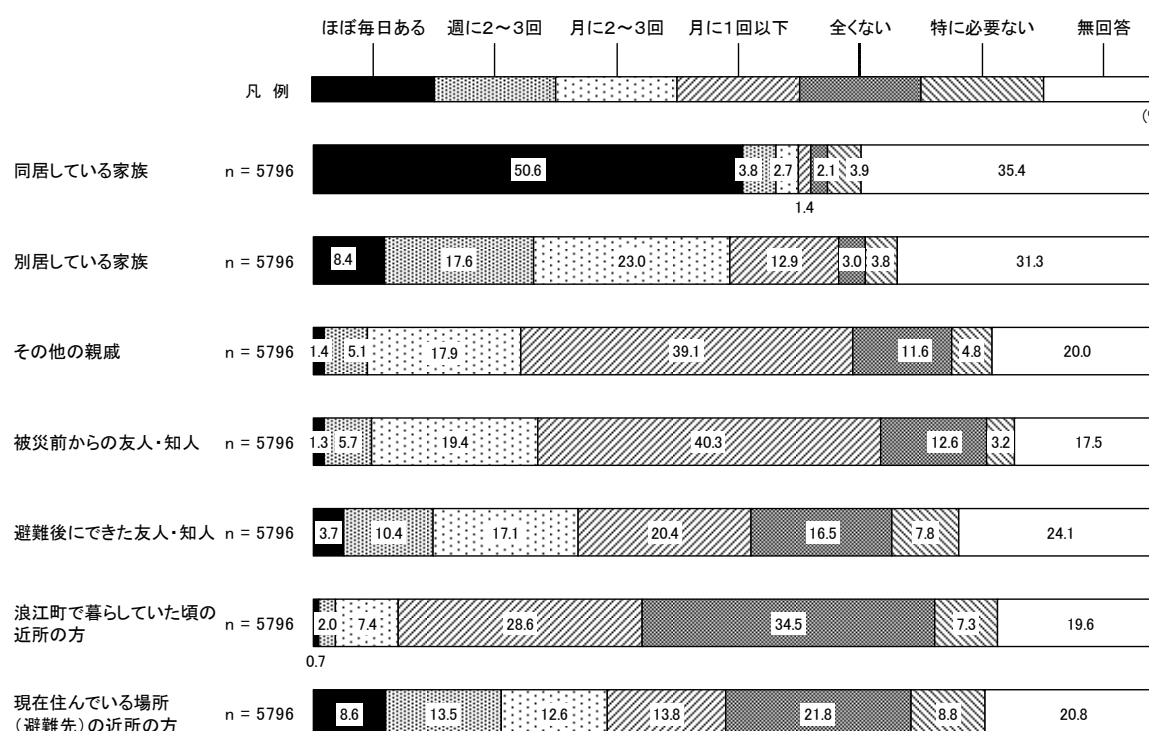
3-4-4 連絡を取り合う頻度

問 12-4 普段、以下にあげた方々（「1」～「7」）と、どの程度、連絡を取っていますか。（1つずつ○）

① 連絡を取り合う頻度

連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 50.6%と過半数となっているが、それ以外の方では 1 割未満と低い。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に」2～3回）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が 22.1%と高くなっている。また、「全くない」については、浪江町で暮らしていたころの近所の方が 34.5%、現在住んでいる場所（避難先）の近所の方が 21.8%と他の方に比べ高くなっている。

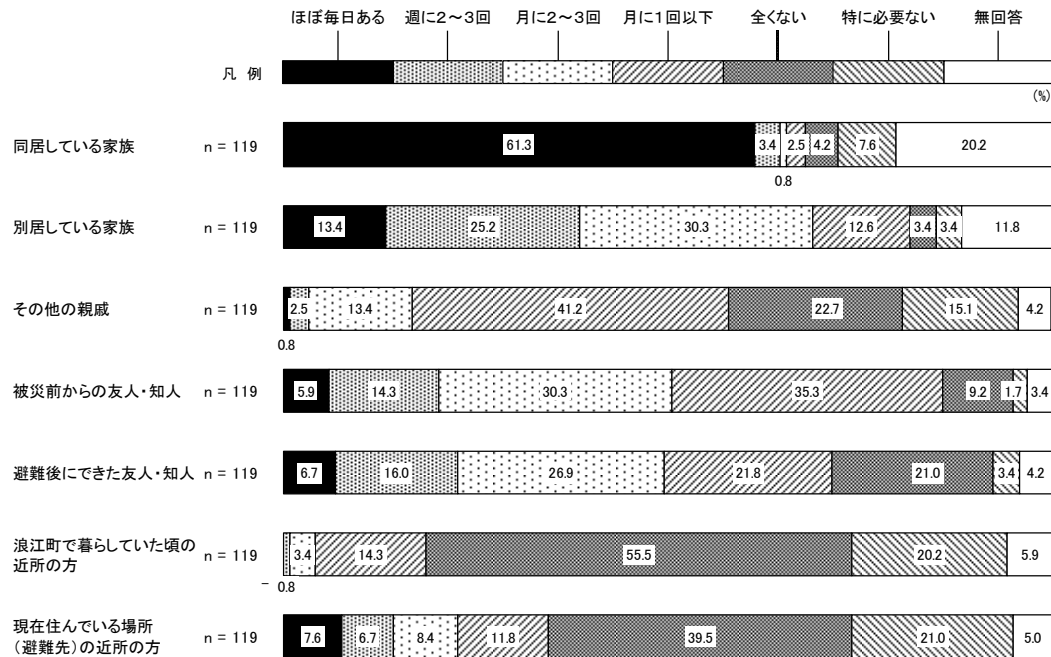
<図表 3-4-4-1 連絡を取り合う頻度>



② 連絡を取り合う頻度：回答者の年齢別

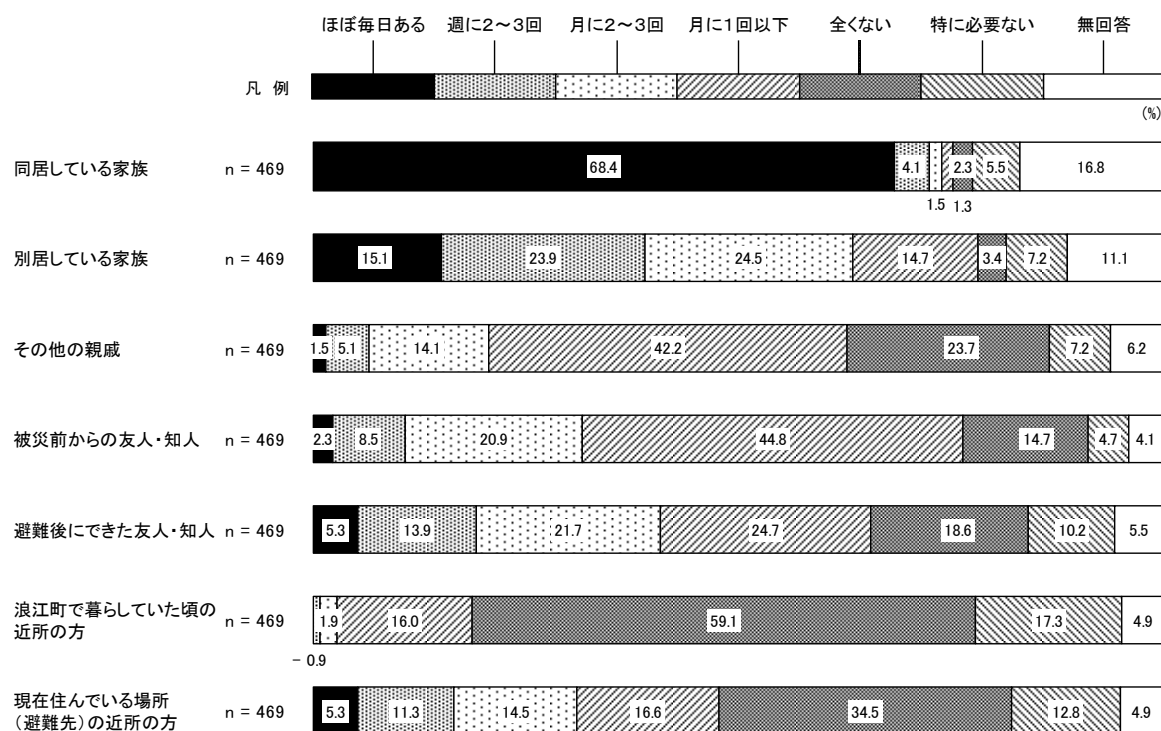
10～20 代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 61.3%と 6 割を占めるが、家族以外の方では 1 割未満と低い。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に 2～3 回」）は、家族以外では「避難後にできた友人・知人」が 22.7%、「被災前からの友人・知人」が 20.2%と高くなっている。

＜図表 3-4-4-2 連絡を取り合う頻度（10～20 代）＞



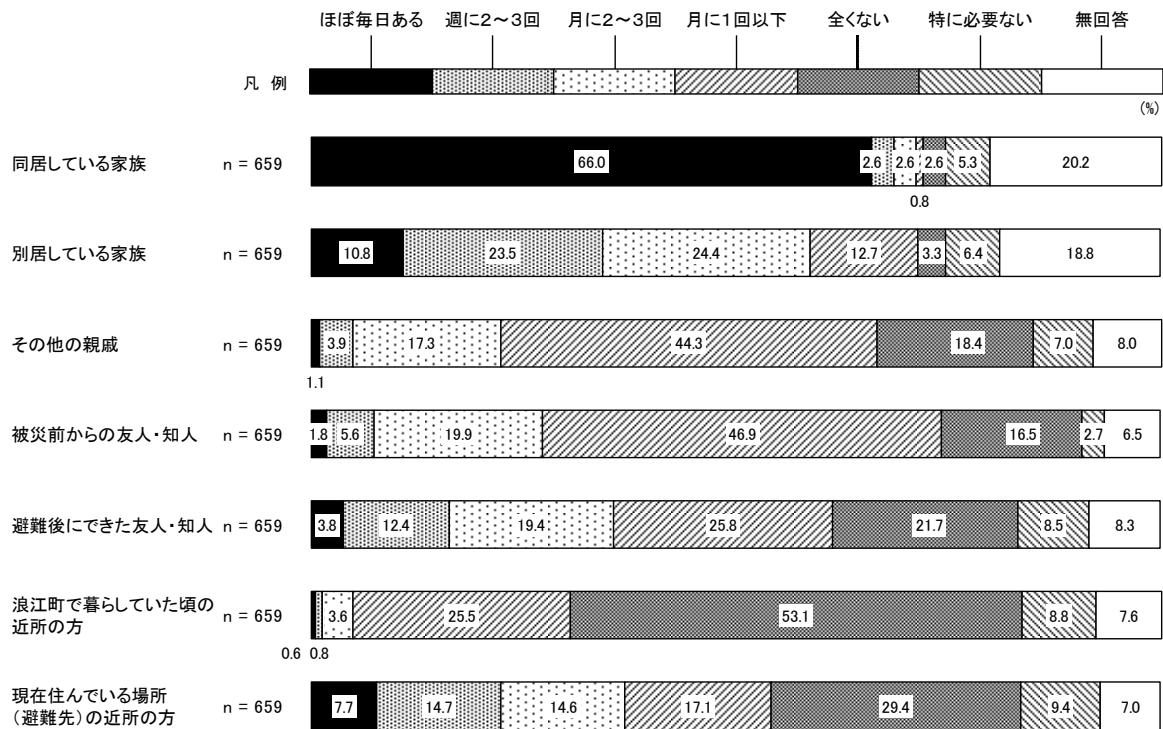
30代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で68.4%と7割弱を占めるが、家族以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「避難後にできた友人・知人」が19.2%、「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が16.6%と高くなっている。

＜図表3-4-4-3 連絡を取り合う頻度（30代）＞



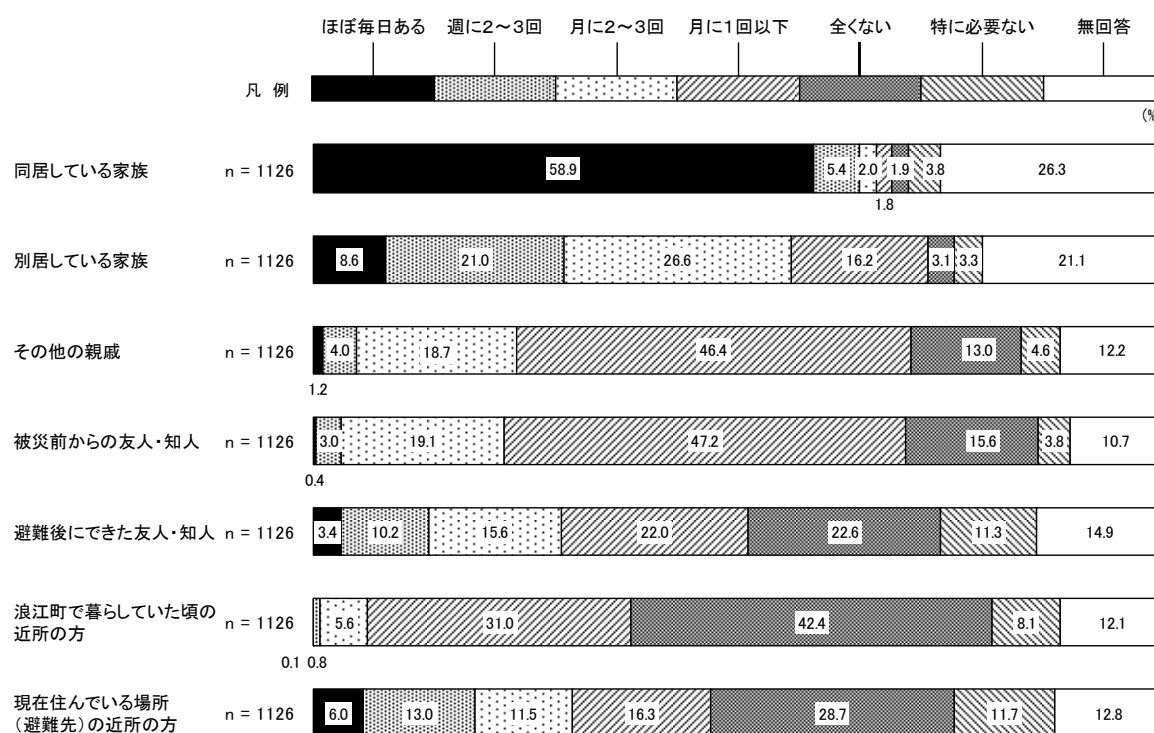
40代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で66.0%と7割弱を占めるが、家族以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が22.4%、「避難後にできた友人・知人」が16.2%と高くなっている。

＜図表3-4-4-4 連絡を取り合う頻度（40代）＞



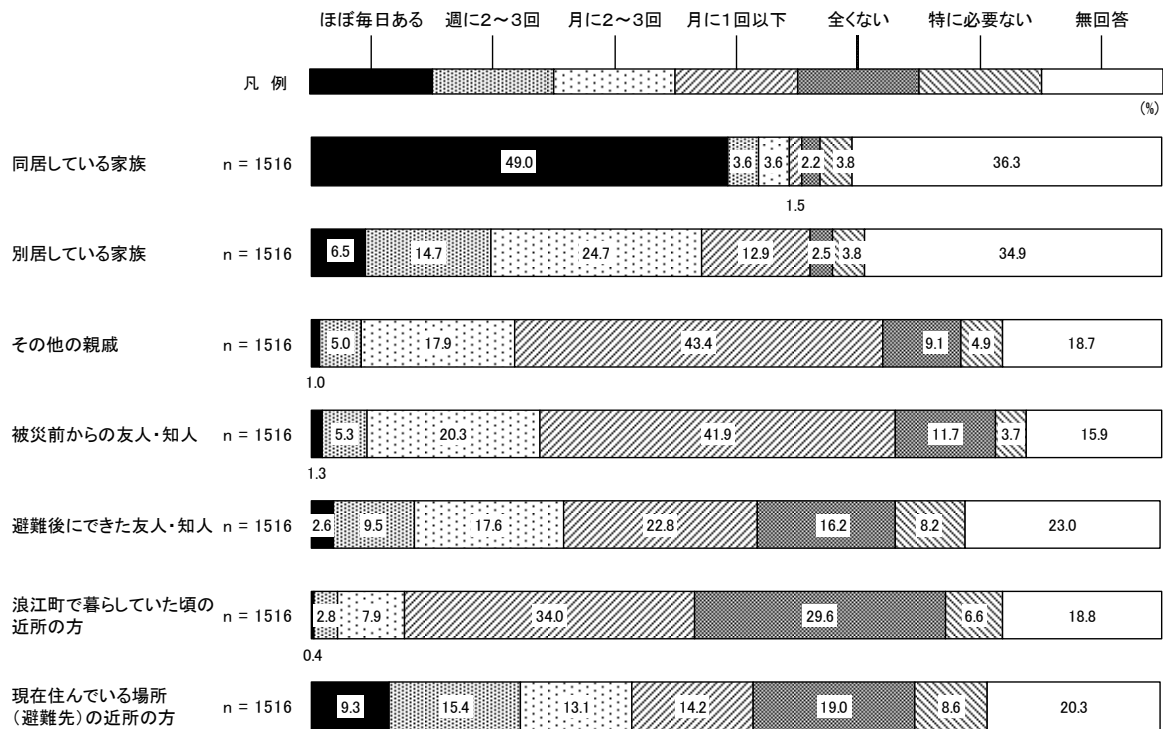
50代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で58.9%と6割弱を占めるが、それ以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が19.0%、「避難後にできた友人・知人」が13.6%と高くなっている。

＜図表3-4-4-5 連絡を取り合う頻度（50代）＞



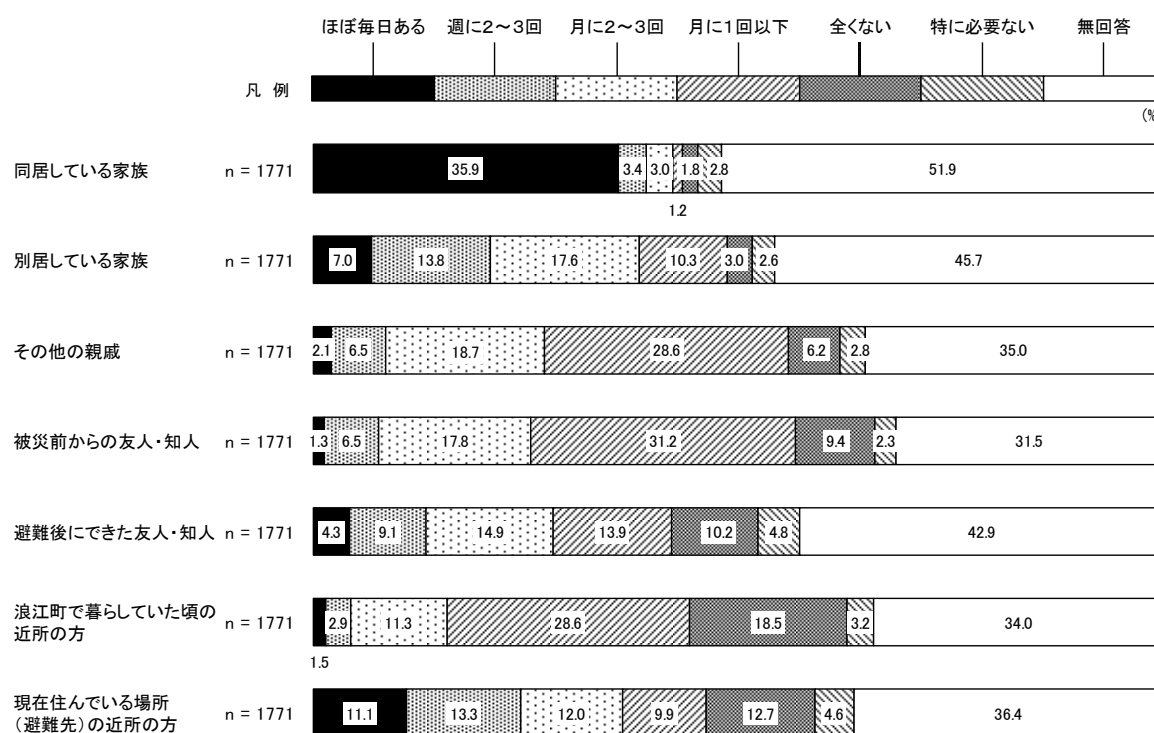
60 代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 49.0%と最も高いが、他の年齢に比べ割合が低い。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に 2～3 回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が 24.7%、「避難後にできた友人・知人」が 12.1%と高くなっている。

<図表 3-4-4-6 連絡を取り合う頻度（60 代）>



70 代以上の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 35.9%と最も高いが、他の年齢に比べ割合が低い。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に 2～3 回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先の近所の方）」が 24.4%、「避難後にできた友人・知人」が 13.4%と高くなっている。

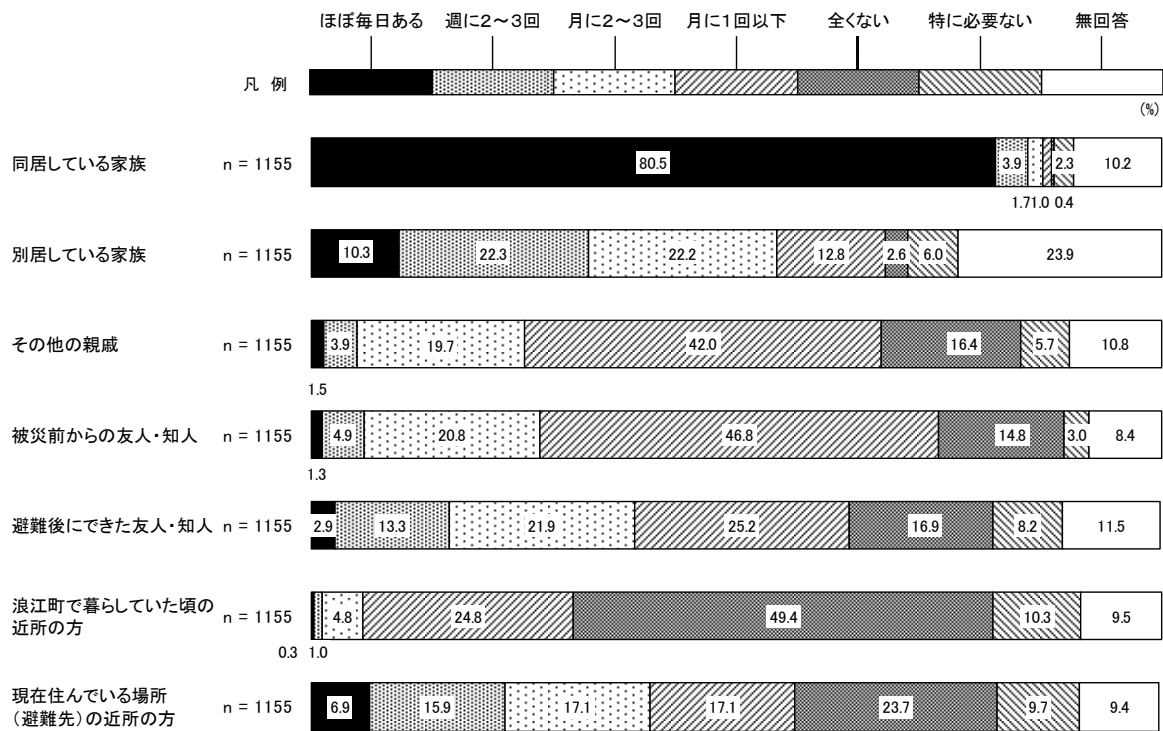
＜図表 3-4-4-7 連絡を取り合う頻度（70 代以上）＞



③ 連絡を取り合う頻度：世帯構成別

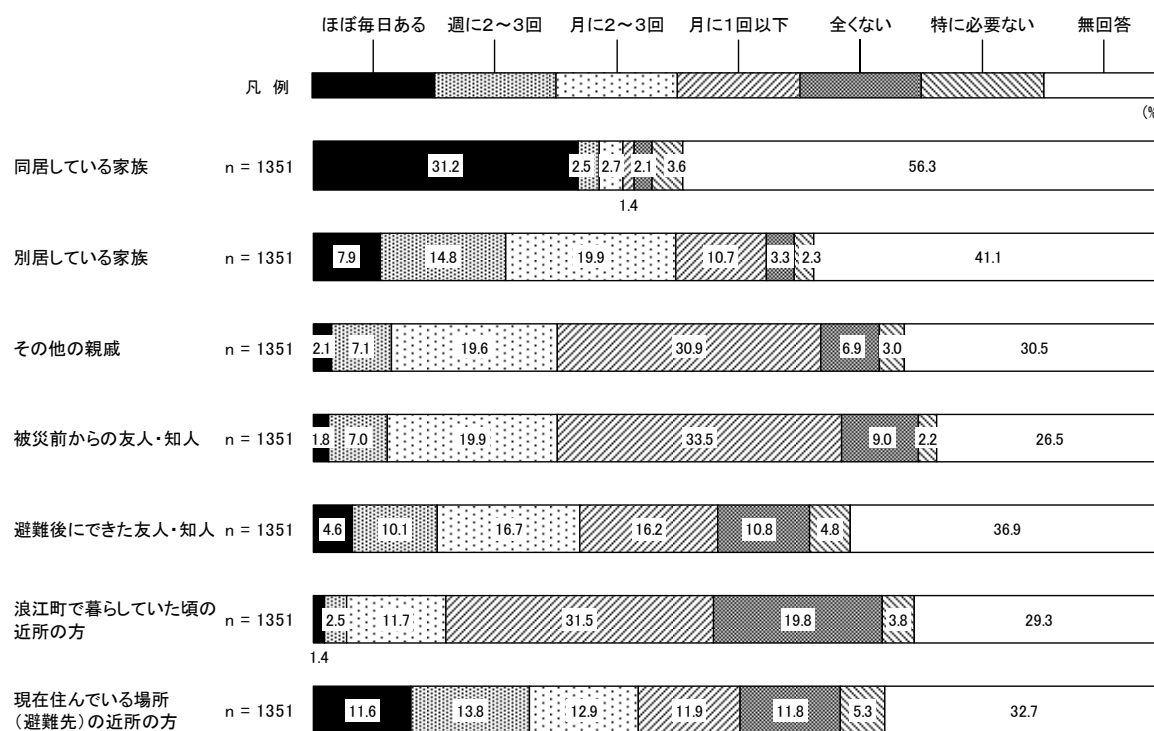
18 歳未満のいる世帯の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 80.5%と 8 割以上を占める。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に 2～3 回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先の近所の方）」が 22.8%、「避難後にできた友人・知人」が 16.2%と高くなっている。

<図表 3-4-4-8 連絡を取り合う頻度（18 歳未満のいる世帯）>



65 歳以上だけの世帯の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 31.2% と 3 割強を占めているが、18 歳未満のいる世帯に比べ低い。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に 2～3 回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先の近所の方）」が 25.4%、「避難後にできた友人・知人」が 14.7%と高くなっている。

＜図表 3-4-4-9 連絡を取り合う頻度（65 歳以上だけの世帯）＞



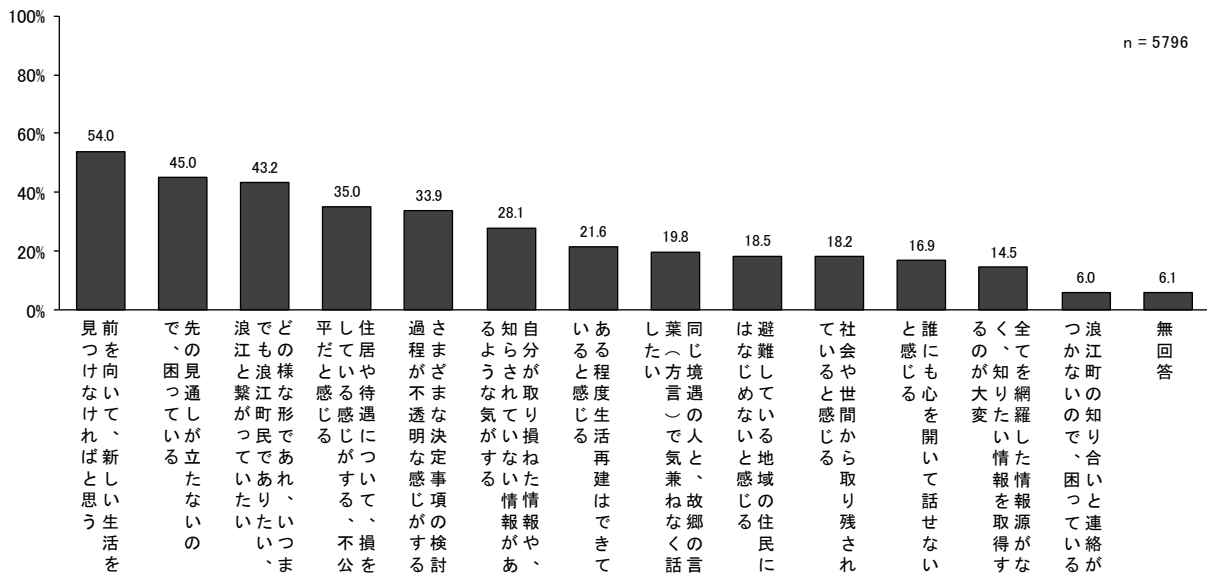
3-4-5 現在の気持ち

問 12-5 現在のあなたのお気持ちに近いと思われることについて教えてください。(〇はいくつでも)

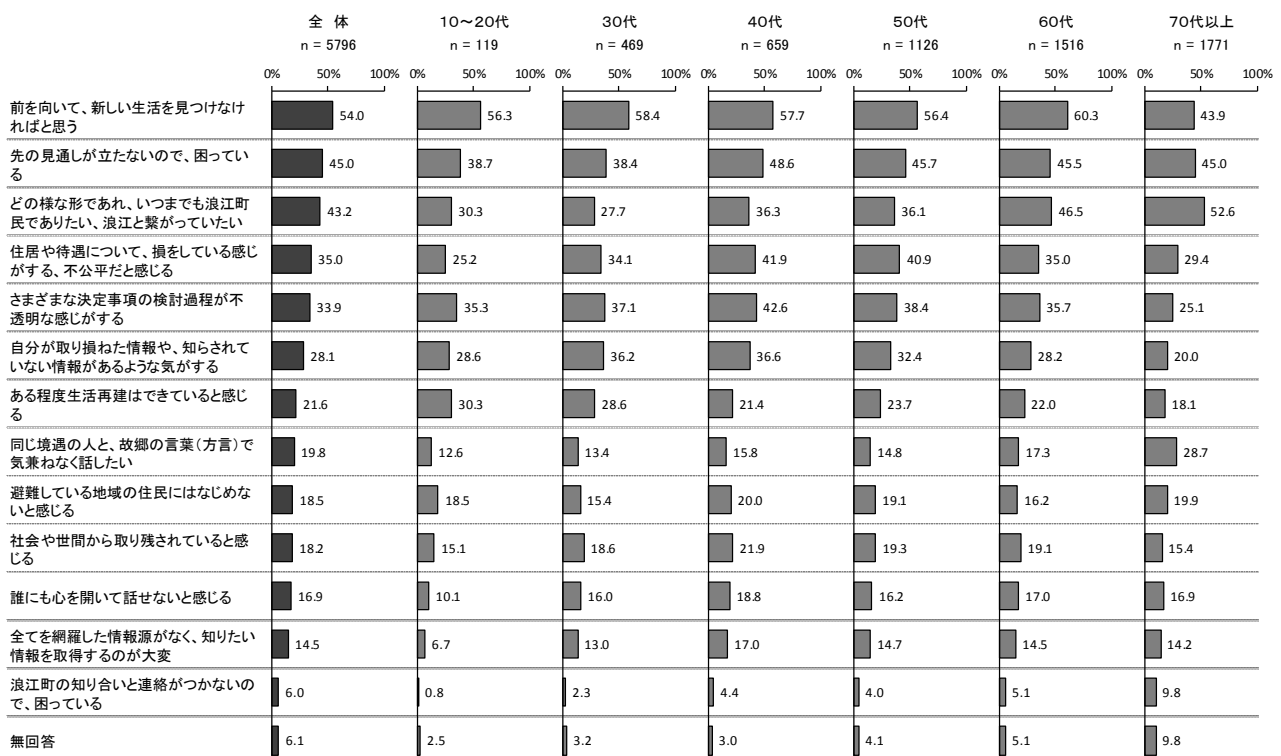
現在の気持ちについては、「前を向いて、新しい生活をみつければと思う」が 54.0%と最も高く、次いで「先の見通しが立たないので、困っている」が 45.0%、「どのような形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がっていたい」が 43.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「前を向いて、新しい生活をみつければと思う」は 60 代 (60.3%)、「どのような形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がっていたい」は 70 代以上 (52.6%) となっており、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表 3-4-5-1 現在の気持ち>

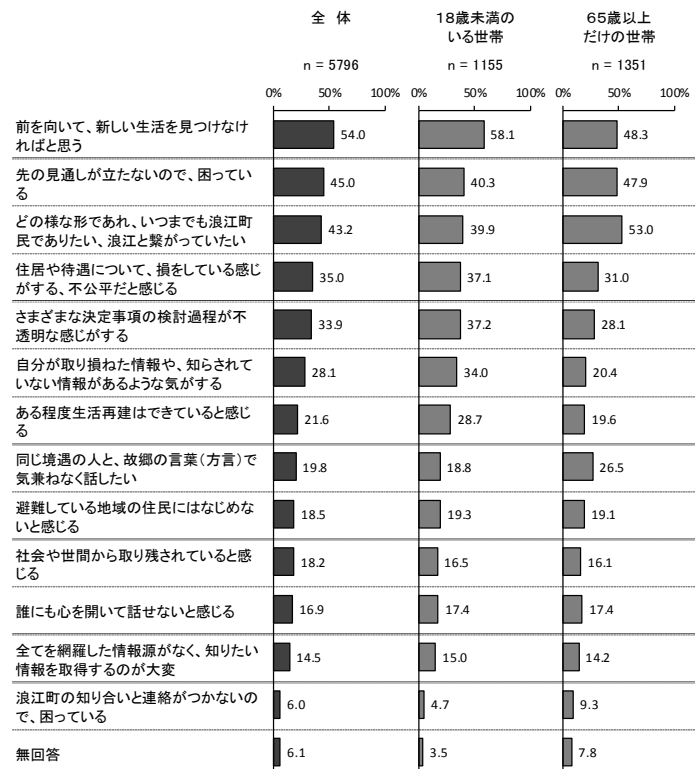


<図表 3-4-5-2 現在の気持ち(年齢別)>



世帯構成別にみると、65 歳以上だけの世帯では「どのような形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がっていたい」が 53.0%と最も高くなっている。一方、18 歳未満のいる世帯では、「前を向いて、新しい生活を見つけなければならないと思う」が 58.1%と最も高くなっている。

<図表 3-4-5-3 現在の気持ち（世帯構成別）>



3-5 意見・要望

問 13 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ち、また、避難期間中の住宅や居住環境や生活において困っていること、改善を求めることなど（医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど）をご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちなどについて、2,353 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

●生活について - 避難生活の長期化への不安 - 元の生活が取り戻せるかどうかの不安 - 元の生活、安定した生活の回復 - 元の生活に戻ることにしているのあきらめ - 現在の生活の経済的な不安について - 現在の生活の健康に関する不安について - 現在の生活の仕事・学業に関する不安について - 現在の生活全般の不安について - 将来の生活の経済的な不安について - 将来の生活の健康に関する不安について - 将来の生活の仕事・学業に関する不安について - 将来の生活全般の不安について - 生活（再建）支援について - その他	●除染について - 除染作業の意義について - 除染作業にかかる費用の他への活用について - 除染作業の効果などについて - 除染作業の実施箇所などについて - 除染作業の早期・迅速・的確な実施について - 除染作業スケジュールの明確化について - 中間貯蔵施設について - その他
●震災発生前の居住地について - 帰還困難区域への立入りについて - 帰還困難区域等の設定について - 所有する住まい・土地の買取りについて - 自宅の現状（被害状況）について - 自宅の再建・改築・解体について - 元の住居や土地などの管理・処分について - 元の住居や土地に対する税について - その他	●復旧・復興について - 復旧・復興の遅れ、長期化について - 復旧・復興のスケジュールについて - 復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について - 町村合併について - ライフライン・インフラの整備について - 社会福祉施設の整備について - 医療施設の復興・充実について - 学校の復興・充実について - 商業の復興・充実について - 住民の参加・自助努力について - 早期の原状回復・復興実現について - その他
●賠償について - 賠償内容・方法について - 賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について - その他所有する住まい・土地に対する賠償について - その他	●原発の安全性について - 廃炉作業の迅速な実施について - 廃炉作業全般について - その他
●帰還について - 帰還への不安 - 帰還可能時期の明確化について - 帰還したい - 帰還しない - 現時点では帰還の判断ができない - 帰還に関する施策について - 帰還を望まない人への対応について - その他	●原発事故に対する対応について - 行政や東電の対応について - 対応の長期化、遅れについて - 情報の開示・発信について - 中長期的スケジュールについて - その他
●避難期間中及び将来の住宅について - 復興公営住宅の早期・迅速な建設について - 復興公営住宅の建設地・形態等について - 復興公営住宅に係る経済的負担について - 復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安 - 復興公営住宅への入居について - 居住場所の確保について - 借上げ住宅について - 住宅の購入について - その他	●その他 - 今後のエネルギー政策について - 行政に対する謝意、励まし - その他

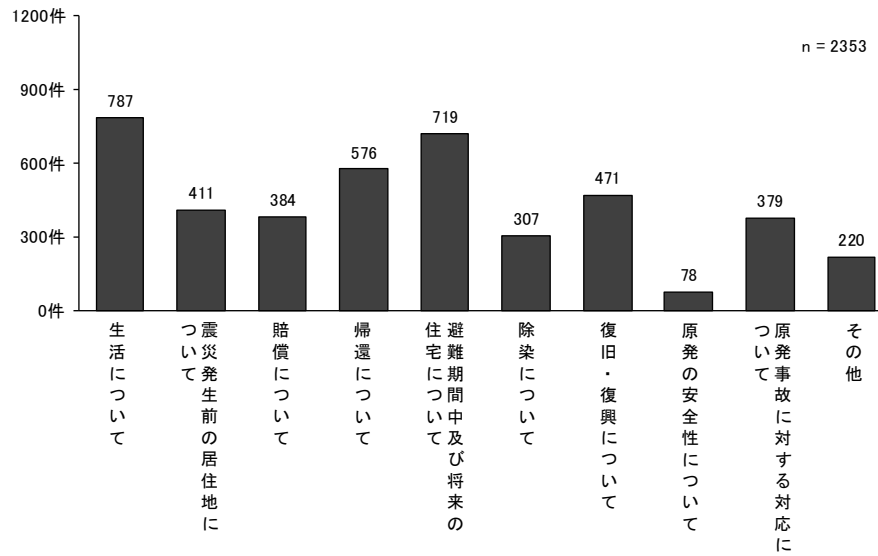
※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「生活について」が787件と最も多く、次いで「避難期間中及び将来の住宅について」が719件、「帰還について」が576件などとなっている。

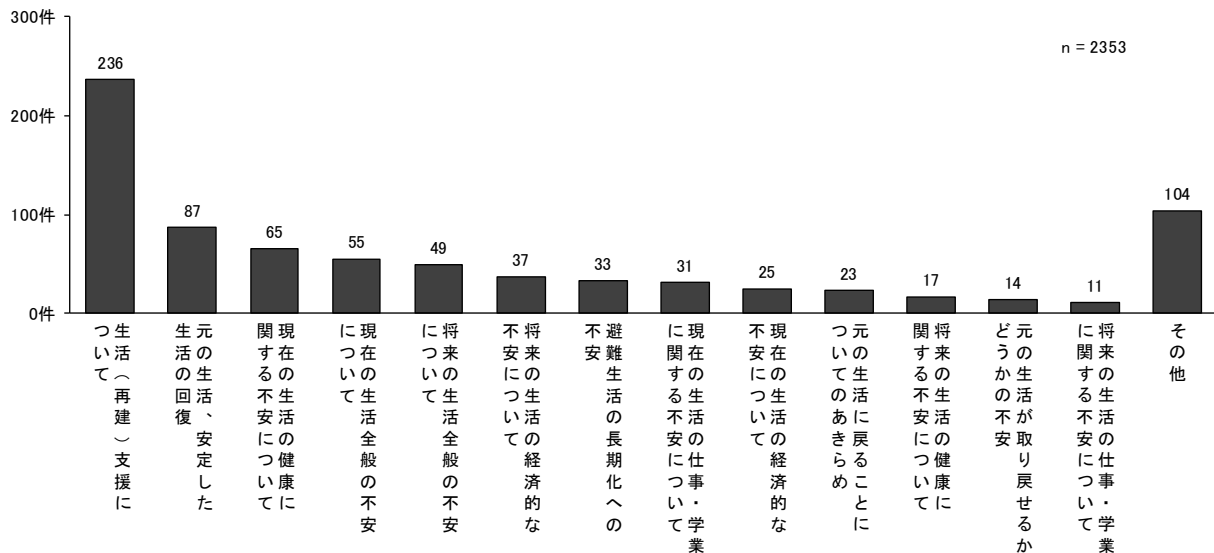
＜図表3－5－1 意見に係る記入内容の分類結果＞



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「生活（再建）支援について」が236件と最も多く、次いで「元の生活、安定した生活の回復」が87件、「現在の生活の健康に関する不安について」が65件などとなっている。

＜図表3-5-2 生活についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【生活（再建）支援について】

- ・福島県内に避難している知人・友人・親せきは色々物資が届いているらしいが、県外に避難している私達には2・3回目頃以降降荷もないのが不満です。（30代）
- ・高速道路や医療費が無料なので助かっています。収入がない状態なので今後も続けてほしい。（60代）
- ・避難していて何かと住民票、その他の証書を取りよせるので、もっと簡単にしてほしい。ムダが多すぎると思う。（40代）

【元の生活、安定した生活の回復】

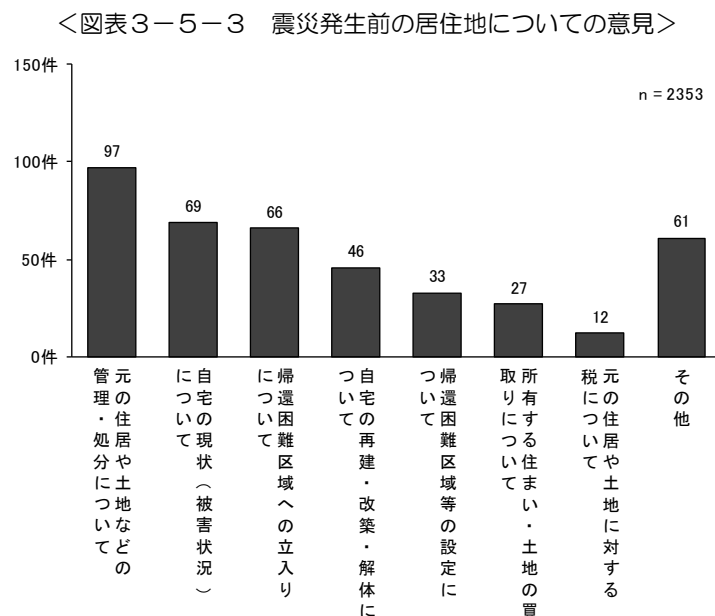
- ・歩く事や日常の買物が便利な所、また医療にも近い所で暮らしたい。（70代以上）
- ・家族全員で暮らしたい。子どもが安全で過ごしていける様になってほしい。（30代）
- ・難しいのはわかるが、早く見通しを立ててほしい。津波（被害）だけの人たちとは違うため、福島浪江の人達は余計不安感がある。心身ともに安定した生活を送りたい。（40代）
- ・早く元の生活がしたい。親類や友人など遠く、なかなか会えなく困っている。（60代）

【現在の生活の健康に関する不安について】

- ・被災から4年目に入り避難生活が長びいているため、精神的な苦痛が倍増している。うつ病になっている人が増加。帰りたくても帰れない！（70代以上）
- ・今の借り上げに住みはじめてから、家族のみんなの体調が思わしくなく、入院、手術が続いて不安ばかりです。浪江町で生活していた時に近い生活がしたいです。（70代以上）
- ・体調をくずし仕事を休んでいます。住居も定まらず健康も経済面も先の見えない不安な毎日です（60代）
- ・慣れない土地での避難生活はストレスがたまって夜が眠れなくて不安です。これからの健康管理が心配で難しい。（50代）

（２）震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「元の住居や土地などの管理・処分について」が 97 件と最も多く、次いで「自宅の現状（被害状況）について」が 69 件、「帰還困難区域への立入りについて」が 66 件などとなっている。



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【元の住居や土地などの管理・処分について】

- 被災地にある個人の不動産についての始末について（売却について）相談や指導を得たい。（70 代以上）
- 除染後の土地管理は自己管理ということであるが、高齢者や遠距離避難者には管理は困難なことであり、放置すれば除染前の荒れ放題の土地となる。管理面での組織づくり等、町として何か対策はあるか。（70 代以上）
- 震災前に住んでいた住宅が帰還困難区域のため、そのままの状態なので、一日も早く家の中をかたづけて、使えない家財を捨てることができるようにしてほしい。（60 代）
- お墓の修理、屋根の修理、線量が高すぎ民間業者は誰もやってくれない！！国・県・町から修理業者をぜひとも紹介してほしい！！（50 代）

【自宅の現状（被害状況）について】

- 「ネズミ」の被害が甚大で、浪江町への帰還については困難ではないかと考えている。ネズミの被害で家中が目茶苦茶である。（70 代以上）
- 浪江の家の屋根が壊れて、雨モリ、カビにより住めない状態になっている。（60 代）
- 家が帰還困難区域にあり、帰宅するたびに道路の草、家の中でのネズミ被害に絶望感でいっぱいになります。（60 代）

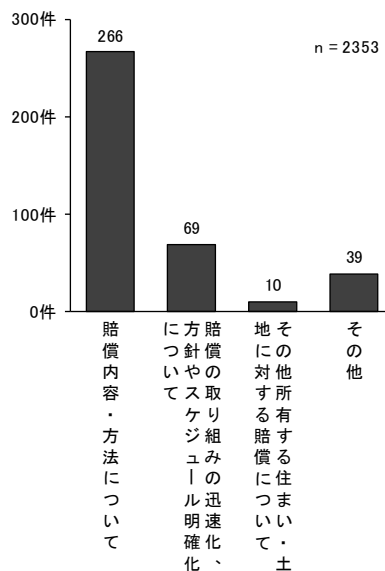
【帰還困難区域への立入りについて】

- 一時帰宅を簡単に入れる様にして欲しい！車を自由にするなど、今は指定のナンバーしか入れないので不便！また知人の車で行く時なども楽に！！（60 代）
- 一時帰宅した時に泊まれる施設があるようお願いしたいと思います。いこいの村を懐かしくとても残念に思っています。（70 代以上）
- 震災発生当時に浪江町外に住んでいた家族も「自宅に一時帰宅するため」の通行の自由化を強く望みます。（現在は「浪江町臨時通行証」の交付手続きが必要である。）（70 代以上）

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が266件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について」が69件、「その他所有する住まい・土地に対する賠償について」が13件などとなっている。

＜図表3-5-4 賠償についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【賠償内容・方法について】

- 家が残っている方々は補償（建物）されているが、流されて何も無いのに建物（土地など）から購入し、生活するのは大変です。同じ町民でも賠償が違うのはおかしいと思います。（30代）
- 賠償が不公平、帰還困難とすぐ隣合の地区なのに居住制限区域となったばかりに賠償に差がありすぎる。おかしい。（40代）
- 浪江町も、大熊町、双葉町のような扱いをしてもらえると良いと思う。賠償の面で、違いがありすぎると思う。（50代）
- 国の一存で線引きされ、同じ町民でも賠償面で差があり、帰れないのは同じなのですから同様に賠償して欲しいと思います。何か人間として扱われていない錯覚を感じます。もう忘れられた存在のようで悔しさで一杯です。（60代）

【賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について】

- 迅速に賠償請求（今後の）を進めてほしい。1つ1つの賠償請求が遅いと感じている。（30代）
- 東電からの賠償はいつまでなのかがはっきりすると、生活再建もプランを立て易い。（40代）
- 東電の賠償がスムーズに進むように要望します。借地の為なかなか進みません。（50代）

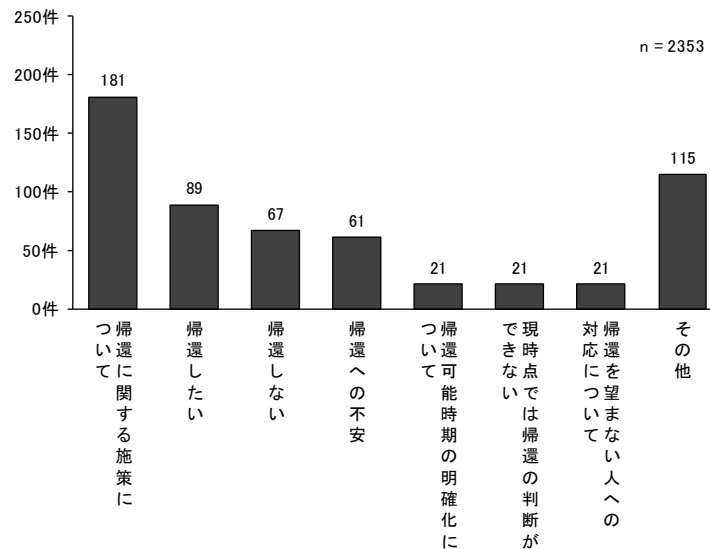
【その他所有する住まい・土地に対する賠償について】

- 避難していて、自分の家に住んでいないのに住宅のローンは払っている。いくら借上住宅で家賃がかからなくてもおかしいと思う。震災時からのローン分を東電に出してほしい。人が住まない住宅は傷みが激しくなる一方です。（40代）
- 動物、ネズミ、泥棒に壊された家は完全に補償してほしい。（70代以上）
- 自宅の賠償を納得のいくかたちで、早く行ってほしい。次へのステップの考えもまとまらず、いつも不安定なままです。（40代）

（４）帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が 181 件と最も多く、次いで「帰還したい」が 89 件、「帰還しない」が 67 件などとなっている。

＜図表３－５－５ 帰還についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還に関する施策について】

- ・若い世代はほとんどの人が「帰らない」という方向らしいですが、避難先で仕事や生活が根づいている人が多いと思います。無理に全町民帰還をすすめる事がはたして町のためになるのか疑問です。（30 代）
- ・町に戻ることが前提で話が進み、戻りたい住民や、役所にくっついて動いている住民がすべてが優先されているように感じる。すべてにおいて平等にしてほしい。（30 代）
- ・自分は仕事の関係で浪江に住んでいたが、やはり地元の人には帰りたいという気持ちが強いと感じます。帰還を希望する人達の要望は最大限尊重してあげてほしいと思います。（40 代）
- ・第一原発の放射線物質が安全に除去できる目処がつくまで帰還すべきでないと思います。（60 代）

【帰還したい】

- ・今までの様な浪江町になるのは、何年先かわかりませんが、元気でいたならば浪江町高瀬に戻りたいです。（70 代以上）
- ・本当に浪江に戻れるのなら、何年後でも戻りたいです。（40 代）
- ・あの日からもう 3 年半。娘の家で世話になり、何も不自由な事はないにしても、住みなれた我が家へ帰りたいと思う気持は変わりません。でも帰れないのが現実。なさけない、悲しい、生きているうちにもう一度あの家で、あの町で、普通の暮らしをして見たい。老婆の願いです。（70 代以上）
- ・年齢的にはあきらめているが自宅で最後の時をむかえられたらとの思いがあります。（70 代以上）

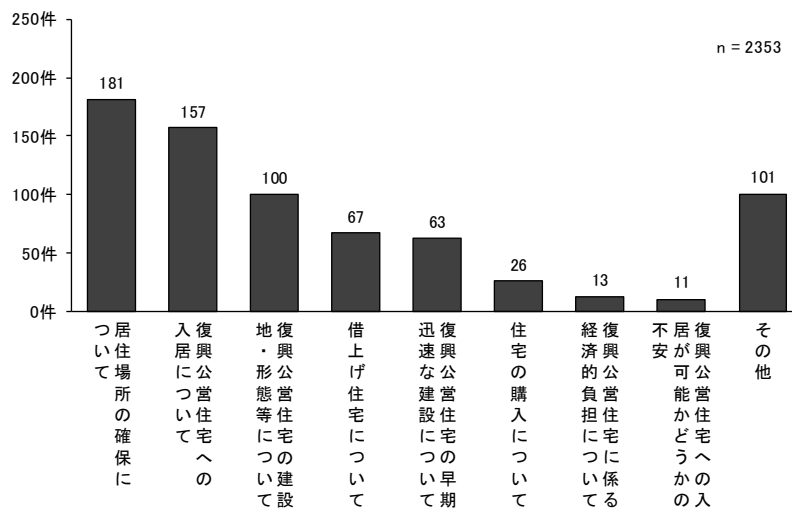
【帰還しない】

- ・浪江町に戻りたいのは山々ですが孫達のことを考えて、福島市内に住宅を新築しました。（60 代）
- ・浪江町の実家は、帰還困難区域にあり、帰還は絶望的であると考え。（50 代）
- ・原発があの状況では帰れないです。常に原発の状態を気にしながら生活するのは無理です。（70 代以上）

（５）避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が 181 件と最も多く、次いで「復興公営住宅への入居について」が 157 件、「復興公営住宅の建設地・形態等について」が 100 件などとなっている。

＜図表 3-5-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- できれば浪江町に近い所で住みたい。中通りの気候は自分達にはなかなかなじめないし身体がついていかない。年老いてからの集合住宅での暮らしはきつい。(70代以上)
- 住宅建設(新規)したいと考えていますが、適当な所が見つかりません。宅地の情報提供があると助かります。(60代)
- 国や自治体で居住をなんとかしてほしい。せまくて荷物も増え他の家族が来てもしるところがない。1人1人の要望を聞いて住む所をさがしてほしい。(50代)

【復興公営住宅への入居について】

- 自分で住宅を建てることなどできないので、公営住宅を希望しています。(60代)
- 復興住宅に入る場合、浪江に住んでいた近所の方と一緒に生活できればと思っています。残された人生を楽しく暮せる、住宅環境である事を希望します。(60代)
- ペットを飼っている人と入居は一緒にしないで下さい。居住環境が悪くなりますのでよろしくお願い致します。(70代以上)

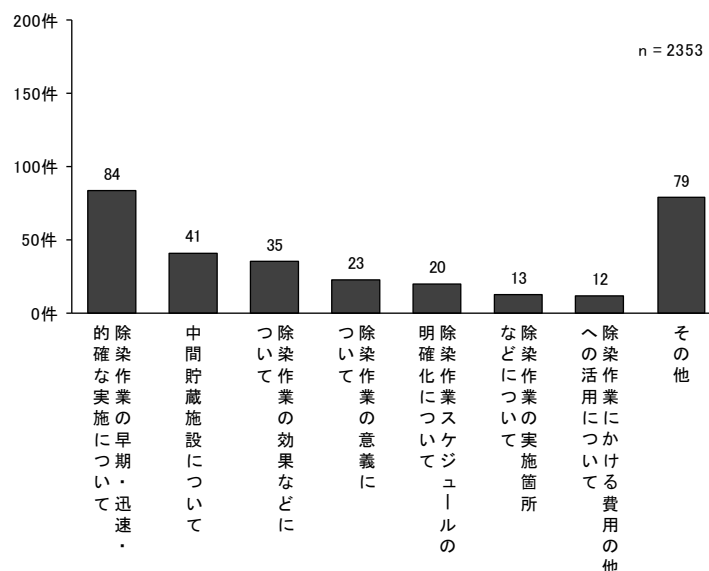
【復興公営住宅の建設地・形態等について】

- 福島市には多くの避難住民がいるのだから、復興住宅をもっと多く建設して頂きたい。(30代)
- 集合タイプを建設していますが、また、回りの人と付き合いをしたくない人もいます。戸建てタイプを建設したほうがいいと思う(30代)
- 浪江町の復興公営住宅の件で、普通の住民と高齢者だけの復興公営住宅も建設してほしいと思います。家内が身体が悪いのでバリアフリーの住宅を建設してほしいと思います。(70代以上)
- 5LDKなど、大人数で入れる公営住宅はできないでしょうか。(30代)

（６）除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が80件と最も多く、次いで「中間貯蔵施設について」が40件、「除染作業の効果などについて」が33件などとなっている。

＜図表3－5－7 除染についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- ・ 帰還困難区域だからと決めつけしないで早く除染してほしい。（60代）
- ・ 原子力発電所の事故による汚染はきれいに片付けてもらいたい。（50代）
- ・ 除染があまり進んでいないと聞く。もう少し早くできないものか、高齢者にとっては何年先になるのか、見通しができないので不安だけがつくる。（70代以上）
- ・ 復興の前提となる除染について、国として改善する点は早急に決定して実施してほしい。復興の進行の妨げとなっている。（40代）

【中間貯蔵施設について】

- ・ 中間貯蔵施設の現状説明会が、浪江町等の人間の参加ができないのが、おかしいのではないかと。（50代）
- ・ 中間貯蔵施設を浪江町に建設しても良いのでは。（10～20代）
- ・ 国も自治体も努力していると思うが、早く中間貯蔵施設を決め完成させてほしい。これが決まらなくては何事もできないと思う。車で走ると道路の近くに山と積まれた汚染土の入った布袋が目につく。決まれば汚染土の入った袋が目につかなくなり、次の仕事に入って行けると思う。（70代以上）

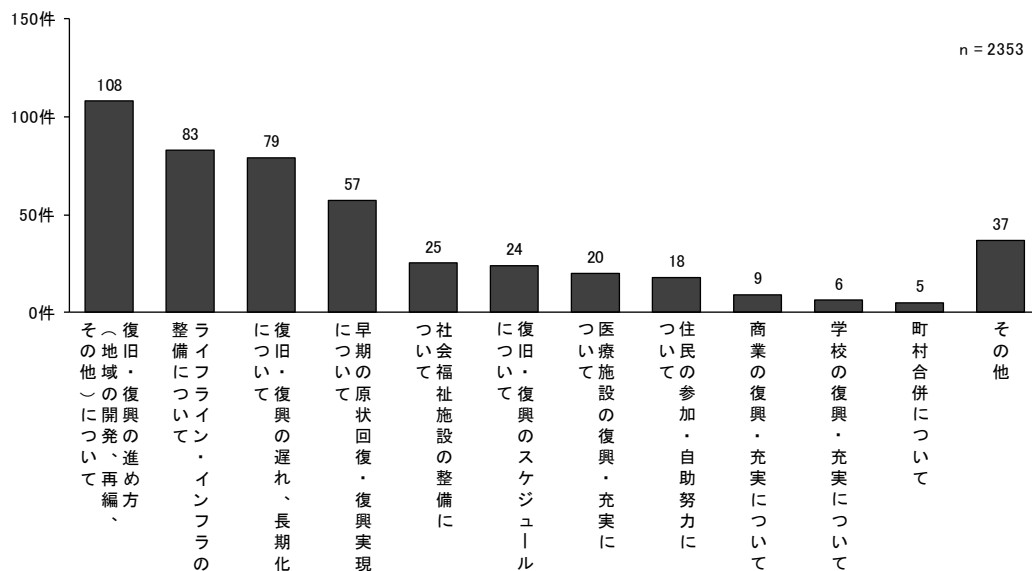
【除染作業の効果などについて】

- ・ 浪江町長は数年後には浪江町に戻り、町としての機能を昔の様にしていきたいという意向ですが、除染作業として果たして人間が生活できる線量にする事ができるのでしょうか。私は除染作業は無駄な様に考えております。（70代以上）
- ・ 除染をして帰そうとしているが実際除染の効果はあまり出ていないのは現状です。税金の無駄遣いの様な気がします。（50代）
- ・ 各地で除染が進行中であるようであるが、家の外側のみで、家の中の除染に関しては、誰がやるのか？（自分で行うという見解らしいが）自分で除染を行って、それできれいになっているかどうかを知る方法は？家の外側、敷地だけ除染をすれば、人が住めるというものではないと思う。（50代）

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）」についてが108件と最も多く、次いで「ライフライン・インフラの整備について」が83件、「復旧・復興の遅れ、長期化について」が79件などとなっている。

＜図表3-5-8 復旧・復興についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- ・ 広野町から双葉町にかけて、人の往来や施設建設などがあり、復興の兆しが見えるが、原発の北側にある浪江町は取り残されている感じがある。数年後「復興に失敗した町」として名前が上らないようにしてほしい。(40代)
- ・ 将来の見える復興を要望したい。ただ元に戻すのではなく、将来の子ども達に希望を与えられる様な町づくり、町民が喜んで住める町に希望します。(50代)
- ・ 若者がもどってくる町環境整備がなければ町の復興は、難しいと考えます。町で働ける場所、企業が入って来なければ若者、若い世帯はもどって来ない。インフラ整備、安全対策とともに、働ける企業導入がぜひとも必要です。浪江町民でなかった人々が浪江でくらししてみようかというような従来の浪江町という考えでない新しい浪江町民づくりをめざしていくような町づくりを期待しています。(50代)
- ・ 町に「帰還する」or「帰還しない」という意向にそって復興計画を考えるのではないと思います。町に土地や家屋がある人にとっては、またその町に深い思いのある人にとって何年かかってももどることが当たり前だと思います。復興計画は現実的に細かく、その都度修正しながら具体的に作成していくものだと思います。(50代)

【ライフライン・インフラの整備について】

- ・ 浪江町に帰る時に114号線を通ります。大型トラックとすれ違うことがあり、ヒヤヒヤします。114号線とは別に、工事車の専用道路を作りたいと思います。再び原発事故が起こった時に、それも避難道路として使用できます。(50代)
- ・ インフラ（上・下水道を）もっと積極的に進めてほしい。町は遅すぎる。ゼネコンに依頼すれば半年でできると専門家は言っています。ぜひ早く取りかかって下さい。(50代)
- ・ 車もないし、電車も通っていない。町に入るのも大変です。老人夫婦では何もできない。電車が通ってくれると時々浪江に行ってきたりできるのですが…。(70代以上)

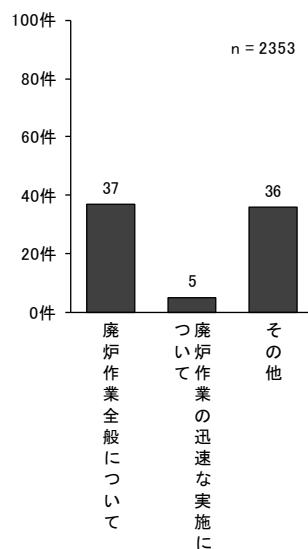
〔復旧・復興の遅れ、長期化について〕

- 復興の進み具合がわかりにくいのでぜんぜん復興しているような気がしない。(30代)
- 国では復興が再優先と言っていますが、現実はどうでしょうか、人材資材不足と言われる時、オリンピックの為に工事にむけられ、自力で再建をしてもなかなか工事が進まない状況。また、津波災害の地では住む事ができません。町の住民がよりそって生活ができる場所を一日も早く確定して浪江町として残れるよう願っています。(70代以上)
- 帰還困難区域の家に一時帰宅するのに通過する国道114号沿の建家、農地など見る限り、解除予定まで二年半となるが、除染家屋の修繕など復旧、復興の進捗はほとんど見えてこない。今後の生活再建判断にもスピードをもって行ってもらいたい。(60代)
- 復興を早めて欲しい。すべて後手後手になっている様に思う。まだ3年しか過ぎていないのではありません、もう3年が過ぎたのです。今頃になって住民意向調査はおそすぎだと思います。置き去りにされている気持ちです。(60代)

（８）原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業全般について」が 37 件と最も多く、次いで「廃炉作業の迅速な実施について」が 5 件などとなっている。

＜図表 3－5－9 原発の安全性についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔廃炉作業全般について〕

- 凍土壁のやり方は、素人が考えても無理がある。お金をかけても確実な方法を取れと県や国は東電にはたらきかけるべき。（40 代）
- 原発の廃炉作業にむけた建屋カバー等の撤去作業は 9 月頃より次年の 4 月頃の間にする様、申し入れてほしい。県、国等など。（70 代以上）
- 賠償に差をつけたり、いまだ汚染水すら管理できない東電に今後、何の事故も起こさず、安全に廃炉作業などできるのだろうか？（60 代）

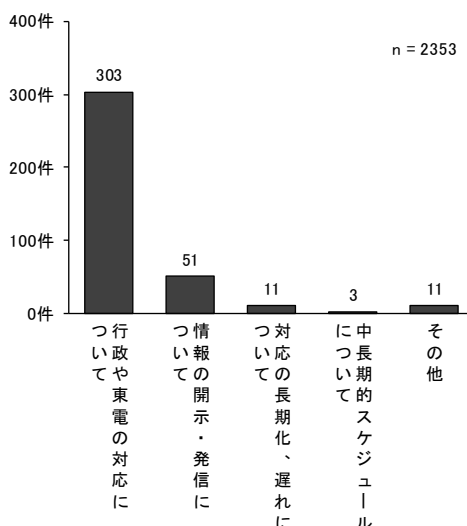
〔廃炉作業の迅速な実施について〕

- 居住環境として良い所（浪江町は）です。早く原発廃炉、町の復興を願います。（40 代）
- まだまだ 1 F は放射線物質を出し続けているのです。早くなんとかして下さい。（60 代）
- 早急に原発を安全なものにしてもらいたい。最近ニュースにとりあげられなくて、不透明すぎる。（70 代以上）

（９）原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が 303 件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が 51 件、「対応の長期化、遅れについて」が 11 件などとなっている。

＜図表 3－5－10 原発事故に対する対応についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 原発事故避難者への対応が遅すぎる。自然災害の方たちの方が公営住宅などの対応が早いのには納得がいかない。国と県には原発事故に対して責任を持って対策を進めて欲しい。事故前の「安全」「安心」といった安全神話を作った事に対して責任を自覚していない。東電を隠れ蓑にしているが、国と県が一番悪い。（60 代）
- 大熊、双葉、富岡に比べいろいろな面で浪江町は県及び国から見はなされている感じがする。原発の立地地域でないからなの？（60 代）
- 震災原発事故から 3 年 5 ヶ月が経ち、調査計画から計画実行の時期にきていると思う。行政、地元首長は調査だけではなく、具体的、実現性のある将来像を提示する番である。（40 代）
- 我が浪江町だけでなく被災町村すべてが今後の双葉地方のあり様について情報を共有し、話し合いをする事が大事だと思います。（年齢不明）

【情報の開示・発信について】

- 無理な事とはわかっているが、フォトビジョン等町民に配るといっても、県外に避難してから一度も情報を頂いてない。県内と県外で情報提供に明らかに知り得る情報に差がある。（30 代）
- 計画は発表されるが、結果について発表がない。アンケートばかりで本当に町民の心を分かっているのか。（60 代）
- 要望として現在空間線量は計っているが、各町村の土壌の線量がどの程度なのか知りたい。（50 代）

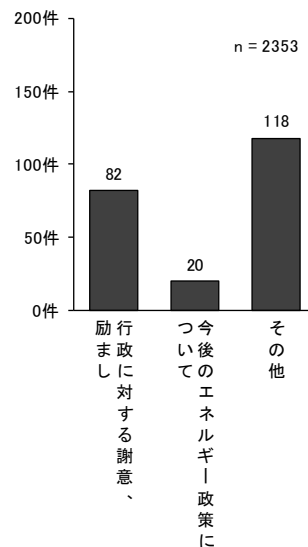
【対応の長期化、遅れについて】

- すべてが遅いと感じます。除染、除染後の廃棄物の処理、復興公営住宅も、すべて。いつまでも時を止めてはられないのです。（30 代）
- 行動が遅いから、やる事が後手後手となって何もできなくなってしまう。住民より一歩先の事を考えてほしい。こんな事をやっていたら住民は帰還しなくなってしまう。（60 代）

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が82件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が20件などとなっている。

＜図表3-5-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- 現在不自由と思うことはありません。一時帰宅や自宅訪問の時にお世話になる県や町の職員の方には大変感謝しております。(50代)
- 浪江町民、行政職員、議員さん、町長さんすべての人を応援しています。私も一緒に前を向いて頑張りたいと思います。(年齢不明)
- 子ども達のために私達もふんばっていかなければと節に思う。行政の方々も大変かと思うが、頑張ってほしい!!(70代以上)
- 浪江町の復興のために、町役場職員をはじめ、町内の商工会や各団体の方々が、大変頑張っておられ、心強く思います。県内の復興は、まだまだ、道半ばですが、どうか決してあきらめず、頑張ってほしいと思います。私も浪江町の復興のためにこれからも応援していきます。(40代)

【今後のエネルギー政策について】

- 原発の再稼働や他国への売り込み等、地震より島、原発列島の状態が続くことから将来日本の国が消滅する恐れが頭から離れられない。人間の力では制御不能な事から手を引いてほしい。(70代以上)
- 3年半たっても放射能漏れを止める事ができないのに原発を輸出するのは、未来の人類に対する犯罪です。せめて輸出は放射能を制御できるようになってからにしてほしいです。(70代以上)
- 原発の再稼働には断固反対！日本には不要。すぐに廃炉にすべき。有事の際に何もできないことは、今回の件で証明されている。(40代)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

浪江町住民意向調査

～今後の住宅・コミュニティのご希望などについて～

この調査について

●調査対象者：各世帯代表の方

※現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合は、それぞれの場所にお住まいの代表者の方

●実施主体：復興庁・福島県・浪江町

●提出期限：8月22日（金）まで

記入済の調査票を同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください。
（切手は不要です）

●ご回答について

記名式でお願いしています。

最初のページに「住所」、「氏名」、「連絡先(電話番号)」の記入をお願いします。

ご回答にあたっては

- ・当てはまる番号を選び、その番号に ○ を記入。
- ・その他に ○ をされた場合は、() 内に具体的な内容を記入。
- ・ 内には具体的な内容（地名、数など）を記入。

※この回答により、

- ・ 復興公営住宅への入居の申し込みや入居の確約となるわけではありません。
- ・ 町内に戻ることを求めるものではありません。

ので、現在のお考えをご記入ください。

ご回答は本調査の目的以外には使用しません。

【お問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-955-085

設置期間：8月11日（月）～8月22日（金）
平日 午前10時～午後5時（土・日・祝を除く）

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

本調査は、今後の復興公営住宅整備に向けて、住民のみなさまのご意見やご要望などをおうかがいすることを目的として実施するものです。

避難生活を安心して過ごしていただくためには、仮設住宅等から、早期に安定的な居住・生活環境にお移りいただくことが重要と考えております。特に復興公営住宅への入居を迷っている方などに、今後の住居についてご意向をお聞きする場合がありますので、現在のご住所とご連絡先のご記入をお願いいたします。

なお、当該欄にご記入いただくことによって、復興公営住宅への入居の申し込みや入居の確約となるわけではありません。

F1 現在のあなたの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F2 あなたの氏名(フリガナ)

フリガナ

F3 あなたの連絡先(電話番号)

【すべての方にうかがいます。】

問 1 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 ⇒問 3 へ |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) ⇒問 3 へ |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) ⇒問 3 へ |
| 5. 団体職員 | 11. その他 [具体的に] |
| 6. 公務員 | |

【仕事に就いている方(問 2 (1) で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 [具体的に] |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | |

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 3 震災発生当時にお住まいだった行政区を、以下から教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|-----------|---------|----------|
| 1. 1区 | 13. 樋渡・牛渡 | 25. 畑川 | 37. 荻宿 |
| 2. 2区 | 14. 高瀬 | 26. 井手 | 38. 加倉 |
| 3. 3区 | 15. 幾世橋 | 27. 田尻 | 39. 酒田 |
| 4. 4区 | 16. 北幾世橋北 | 28. 末ノ森 | 40. 西台 |
| 5. 5区 | 17. 北幾世橋南 | 29. 大堀 | 41. 藤橋 |
| 6. 6区 | 18. 北棚塩 | 30. 小野田 | 42. 羽附 |
| 7. 7区 | 19. 南棚塩 | 31. 谷津田 | 43. 津島 |
| 8. 8区 | 20. 請戸北 | 32. 酒井 | 44. 下津島 |
| 9. 佐屋前 | 21. 請戸南 | 33. 室原 | 45. 南津島上 |
| 10. 川添北 | 22. 中浜 | 34. 立野上 | 46. 南津島下 |
| 11. 川添南 | 23. 両竹 | 35. 立野中 | 47. 赤宇木 |
| 12. 上ノ原 | 24. 小丸 | 36. 立野下 | 48. 手七郎 |
| | | | 49. 大昼 |

【すべての方にうかがいます。】

問 4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 8. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 9. その他 (具体的に |
| 5. 公営住宅 |) |

【問 4 で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問 4-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(○は1つ)

- | |
|--|
| 1. 地震により解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる |
| 2. 地震では大きな被害がなかったが、避難中に解体せざるを得ない劣化等がみられる |
| 3. 修理すれば住める状況 |
| 4. 特に損傷はない |
| 5. 津波により、家が流失している |
| 6. わからない |

【問 4 で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問 4-2 震災発生当時にお住まいだった住宅について、今後の所有をどのようにお考えですか。
(「1. 建物」「2. 宅地」それぞれについて、表内の該当するところに○)

	継続所有する	貸し出す	解体する	売却する	判断できない
1. 建 物	1	2	3	4	5
2. 宅 地	1	2		4	5

避難状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 5 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 檜葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 中 通 り 】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【 会 津 】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【 福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外) 】

24. 福島県内のその他の市町村
→具体的にご記入ください

(市・町・村)

【 福島県外 】

25. 福島県外
→具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・町・村)

【すべての方にうかがいます。】

問 6 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

いずれについても、あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

(1) 現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 15 歳以上 18 歳未満 (中学生を除く)	人
イ) 小学生	人	オ) 18 歳以上 65 歳未満	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

(2) 震災発生当時に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 15 歳以上 18 歳未満 (中学生を除く)	人
イ) 小学生	人	オ) 18 歳以上 65 歳未満	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

Ⅳ 参考資料

【すべての方にうかがいます。】

問 7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 1. 借上住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償) | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 仮設住宅(プレハブ型。無償) | 7. 親戚・知人宅 |
| 3. 公営住宅(1.は除く。有償) | 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) |
| 4. 民間賃貸住宅(有償) | 9. その他 (具体的に) |
| 5. 給与住宅(社宅など) | |

【すべての方にうかがいます。】

問 8 現在、自動車は何台保有していますか。(○は1つ)

- | |
|------------|
| 1. 1台 |
| 2. 2台 |
| 3. 3台以上 |
| 4. 保有していない |

【すべての方にうかがいます。】

問 9 現在、ペットを飼っていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|--|
| 1. 屋内で犬を飼っている | |
| 2. 屋外で犬を飼っている | |
| 3. 猫を飼っている | |
| 4. 犬、猫以外のペットを飼っている(具体的に) | |
| 5. ペットは飼っていない | |

ここからの設問は、同封資料の「①町外の復興公営住宅（P 1～6）」をよくお読みになってからお答えください。

復興公営住宅など今後の避難期間中の居住意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 10 現在、福島県は同封資料のとおり、復興公営住宅の整備を進めています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。（○は1つ）

- | | |
|--------------------------|-------------|
| 1. 既に当選または入居が決定している | } ⇒問 10-1 へ |
| 2. 入居の申し込み中である | |
| 3. 今後、入居の申し込みをしたい | |
| 4. 現時点では判断できない ⇒問 10-2 へ | |
| 5. 入居を希望しない ⇒問 10-4 へ | |

【問 10 で「1. 既に当選または入居が決定している」「2. 入居の申し込み中である」「3. 今後、入居の申し込みをしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 10-1 入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

※家族が多い等の理由により、分散して入居される方（希望を含む）は、下表の＜1世帯目＞、＜2世帯目＞の行にそれぞれお答えください。

※分散入居がない（希望しない）場合は、下表の＜2世帯目＞の行では、「14. 分散して入居しない」を選択してください。

(1)自治体名を教えてください。

	1 福島市	2 会津若松市	3 郡山市	4 いわき市	5 二本松市	6 南相馬市	7 白河市	8 田村市	9 本宮市	10 川俣町	11 桑折町	12 広野町	13 その他の 市町村	14 分散して 入居しない
＜1世帯目＞ （○は1つ）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13 ()	
＜2世帯目＞ （○は1つ）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13 ()	14

※13. を選択した場合は、()内に具体的なご希望の市町村名を記入してください。

(2)入居する際の家族構成をご記入ください。（人数で回答）

※現在ご一緒にお住まいの家族について、ご記入ください。

	ア) 未就学児 (小学校入学前)	イ) 小学生	ウ) 中学生	エ) 15歳以上 18歳未満 (中学生を除く)	オ) 18歳以上 30歳未満	カ) 30歳以上 40歳未満	キ) 40歳以上 50歳未満	ク) 50歳以上 60歳未満	ケ) 60歳以上 65歳未満	コ) 65歳以上
＜1世帯目＞	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
＜2世帯目＞	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

IV 参考資料

【問 10 で「1. 既に当選または入居が決定している」「2. 入居の申し込み中である」「3. 今後、入居の申し込みをしたい」「4. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-2 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして仮にあった場合、必ず利用するものは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1. 避難住民同士の交流会等 | 9. 健康相談員の設置 |
| 2. 地元住民との交流会等 | 10. その他 |
| 3. 高齢者向けの見守り(巡回等) | 〔具体的に〕 |
| 4. 菜園や園芸などによる交流 | |
| 5. 食事の提供(有償) | |
| 6. デイサービスなどの介護支援 | |
| 7. 買い物支援 | |
| 8. 子どもの学習支援 | 11. 特になし |

【問 10 で「4. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-3 復興公営住宅への入居が、現時点で判断できない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 1. 集合住宅ではなく戸建て住宅に入居したいから | 5. 近所にどういう人が住むか分からないから |
| 2. 家賃を支払うこととなるから | 6. 自身の生活の見通しが立っていないから |
| 3. 希望する場所に復興公営住宅が整備されるかわからないから | 7. 賠償の状況が分からないから |
| 4. 高齢者が多くなり、負担が増えると思われるから | 8. 持ち家の購入を検討しているから |
| | 9. その他 |
| | 〔具体的に〕 |

【問 10 で「4. 現時点では判断できない」または「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-4 判断するまでの間、または入居を希望しない場合に、(現在、借上住宅や仮設住宅にお住まいの方は、いずれ制度が終了した場合)どのようなお住まいをお考えですか。(○は1つ)

- | |
|----------------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) |
| 2. 持ち家(集合住宅) |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) |
| 5. 公営住宅 |
| 6. 給与住宅(社宅など) |
| 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 8. 親戚・知人宅 |
| 9. その他(具体的に) |
| 10. 現在のお住まいから、直接、浪江町内に戻りたい |
| 11. 現時点では判断できない |

【問 10 で「4. 現時点では判断できない」または「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-5 判断するまでの間、または入居を希望しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 檜葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 中 通 り 】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【 会 津 】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【 福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外) 】

24. 福島県内のその他の市町村
→具体的にご記入ください

(市・町・村)

【 福島県外 】

25. 福島県外
→具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・町・村)

【 その他 】

26. 決めかねている

ここからの設問は、同封資料の「②浪江町内のまちづくり

将来に関するご意向に

【すべての方にうかがいます。】

問 11 将来、浪江町の避難指示が解除された後の浪江町への帰還について、現時点でどのようにお（現在一緒に住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでくだ

1. すぐに・いずれ戻りたいと考えている
2. まだ判断がつかない

問 11-1 浪江町へ戻る時期を教えてください。（○は1つ）

1. すぐに戻りたい
2. いずれ戻りたい

【問 11-1 で「2」と回答した方にうかがいます。】
戻る時期を判断する条件を教えてください。（○はいくつでも）

1. 就労（事業再開）ができるようになること
2. もとの家屋に住めるようになること
3. 鉄道やバスなどの公共交通が整うこと
4. 医療・介護などが整うこと
5. 商業や生活利便施設が整うこと
6. 教育環境が整うこと
7. 避難中の今の場所での子育てが終えるまで
8. 帰還がある程度進んでから
9. その他（具体的に

問 11-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。（○は1つ）

1. 家族全員での帰還を考えている
2. 家族一部での帰還を考えている
3. 現在検討しているところ
4. まだわからない

【問 11-2 で「1.家族全員での帰還を考えている」「2. 家族一部での帰還を考えている」と回答した方にうかがいます。】
戻る予定の家族の人数を教えてください。
あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数で
ご回答ください。（人数で回答）

ア) 未就学児（小学校入学前）	人
イ) 小学生	人
ウ) 中学生	人
エ) 高校生	人
オ) 15～64 歳（中学・高校生を除く）	人
カ) 65 歳以上の方	人

問 11-3 浪江町へ戻ることを
教えてください。（○

1. 避難解除となる時期の目
2. 道路、鉄道、学校、病院
の復旧時期の目途
3. どの程度の住民が戻る
4. 放射線量の低下の目途、
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性
（事故収束や廃炉の状況）
7. 放射線の人体への影響
8. 働く場の確保の目途
9. 受領する賠償額の確定
10. 住宅確保への支援に関
11. その他（具体的に
12. 現時点で家族間の意見
帰還意向について回答
13. 現時点ではどのような情
判断できるかわからない

上記「1」から「11」で重視し
教えてください。

選択肢番号	

(P 7～11)」をよくお読みになってからお答えください。

についてお聞かせください。

考えですか。「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。
さい)(○は1つ)

3. 戻らないと決めている



判断するために必要なことは
いくつでも)

安に関する情報
などの社会基盤(インフラ)

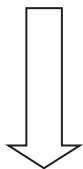
かの状況
除染成果の状況

に関する情報

に関する情報

する情報

が分かれており、
できない
報があれば



たいことを3つまで選び、その条件を

具体的な内容

問 11-5 へお進みください

問 11-4 戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

【帰還の前提・健康に関わるもの】

1. 放射線量が低下せず不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから
3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから

【町内の復旧状況に関わるもの】

4. 浪江町に戻っても仕事がなさそうだから
5. 浪江町での事業の再開が難しいから
6. 営農などができそうにないから
7. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
8. 浪江町外への移動交通が不便だから
9. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
10. 医療環境に不安があるから
11. 介護・福祉サービスに不安があるから
12. 教育環境に不安があるから
13. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

14. 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから
15. 他の住民も戻りそうにないから
16. 今後の津波被害を受ける可能性があるから
17. 帰還までに時間がかかるから
18. 避難先で仕事を見つけているから
19. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
20. 避難先の方が生活利便性が高いから
21. 当面戻らないと決めているが、浪江町に戻りたいという気持ちはある
22. その他

具体的に



問 11-9～問 11-11 へお進みください

IV 參考資料

【問11で「1. すぐに・いずれ戻りたいと考えている」「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。（「2. まだ判断がつかない」と回答した方は、町内に戻ると仮定して回答ください）】

問 11-5 戻りたい行政区への考えを教えてください(○は1つ)

1. 震災前に住んでいた行政区に戻りたい ⇒ 問 11-9 へ
⇒ 問 11-1 で「1. すぐに戻りたい」と回答した場合は問 12-1 へ
2. 震災前に住んでいた行政区とは別な場所に戻ってもよい ⇒ 問 11-6、問 11-7 へ

【問 11-5 で「2. 震災前に住んでいた行政区とは別な場所に戻ってもよい」と回答した方にうかがいます。】

問 11-6 震災前に住んでいた場所とは別な場所に戻ってもよい理由を教えてください。(○は1つ)

1. 震災前に住んでいた行政区に帰還できるのはもう少し先だから
2. 震災前に住んでいた行政区には戻る(住む)人が少ないと思うから
3. 町内の便利な場所で生活を開始したいから
4. その他()

【問 11-5 で「2. 震災前に住んでいた行政区とは別な場所に戻ってもよい」と回答した方にうかがいます。】

問 11-7 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

1. 新たに一戸建ての持ち家を建てたい
2. 分譲集合住宅を購入したい
3. 民間賃貸住宅(一戸建て)
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)
5. 町が整備する公営住宅 ⇒ 問 11-8 へ
6. 給与住宅(社宅など)
7. 家族のどなたかのお住まい・実家
8. 親戚・知人宅
9. その他 { 具体的に

⇒ 問 11-9 へ
⇒ 問 11-1 で「1. すぐに戻りたい」と回答した場合は問 12-1 へ

10. 現時点では判断できない

【問 11-7 で「5. 町が整備する公営住宅」と回答した方にうかがいます。】

問 11-8 町が整備する公営住宅では、どのような形態を希望されますか考えますか。

(○はいくつでも)

1. 戸建て(平屋)
2. 戸建て(2 階建て)
3. 長屋タイプ(共同住宅)
4. 集合住宅
5. その他 (具体的に
- ⇒ 問 11-9 へ
⇒ 問 11-1 で「1. すぐに戻りたい」と回答した場合は問 12-1 へ

【問 11-1 で「2. いずれ戻りたい」または問 11 で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-9 判断するまでの間、または帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 檜葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 中 通 り 】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【 会 津 】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【 福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外) 】

24. 福島県内のその他の市町村
→具体的にご記入ください

(市・町・村)

【 福島県外 】

25. 福島県外
→具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・町・村)

26. 決めかねている
(その理由

)

【問 11-1 で「2. いずれ戻りたい」または問 11 で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-10 今後のお住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他(具体的に |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 10. 現在のお住まい |
| 5. 公営住宅 | 11. 現時点では判断できない |
| 6. 給与住宅(社宅など) | |

)

【問 11-1 で「2. いずれ戻りたい」または問 11 で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 11-11 震災時に居住されていた浪江町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(○はいくつでも)

1. 継続的な健康管理の支援
2. 雇用確保の支援
3. 仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用
4. 役場からの継続的な情報提供
5. 一時帰宅支援
6. その他(具体的に

)

町からの情報入手と周囲とのコミュニケーションに関する状況についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 12-1 普段、浪江町に関する情報を、どこでお知りになりますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 浪江町広報誌／お知らせ版 | 6. 新聞(福島民友、福島民報) |
| 2. 浪江町メールマガジン | 7. 新聞(全国紙、福島県以外の地方紙) |
| 3. フォトビジョン | 8. テレビ |
| 4. 浪江町の Web サイト(ホームページ) | 9. ラジオ |
| 5. 浪江町以外の Web サイト | 10. 友人・知人からの口コミ |

【すべての方にうかがいます。】

問 12-2 浪江町役場からの情報提供にどの程度満足していますか。(○は1つ)

- | |
|---------------|
| 1. 満足している |
| 2. やや満足している |
| 3. どちらともいえない |
| 4. あまり満足していない |
| 5. 満足していない |

【すべての方にうかがいます。】

問 12-3 ホームページ、広報誌、フォトビジョンを介して、浪江町役場から提供してほしい情報はありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 浪江町のインフラ復旧状況 | 8. 各地避難先でのイベントの様子 |
| 2. 現在の浪江町各地の様子 | 9. 避難先での学校行事の様子 |
| 3. 復興計画の進行状況 | 10. 浪江町民の声 |
| 4. 避難先での求人情報 | 11. 除染の進捗状況 |
| 5. 浪江町民からのよくある質問 | 12. 浪江町長の動向 |
| 6. 浪江町役場各担当者の人物紹介 | 13. 浪江町議会の様子 |
| 7. 昔なつかしい浪江町各地の写真 | 14. 賠償に関する動向 |

【すべての方にうかがいます。】

問 12-4 普段、以下にあげた方々(「1」～「7」)と、どの程度、連絡を取っていますか。(1つずつ○)

※連絡には、「対面での会話」「電話」「メール」「手紙」「FAX」「SNS(Facebook/mixi/Twitter 等)」、「メッセージアプリ(LINE 等)」などを含みます。	ほぼ毎日ある	週に2～3回	月に2～3回	月に1回以下	全くない	特に必要ない
1. 同居している家族	1	2	3	4	5	6
2. 別居している家族	1	2	3	4	5	6
3. その他の親戚	1	2	3	4	5	6
4. 被災前からの友人・知人	1	2	3	4	5	6
5. 避難後にできた友人・知人	1	2	3	4	5	6
6. 浪江町で暮らしていた頃の近所の方	1	2	3	4	5	6
7. 現在住んでいる場所(避難先)の近所の方	1	2	3	4	5	6

【すべての方にうかがいます。】

問 12-5 現在のあなたのお気持ちに近いと思われることについて教えてください。

(○はいくつでも)

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 1. ある程度生活再建はできていると感じる | 8. 住居や待遇について、損をしている感じがする、不公平だと感じる |
| 2. 前を向いて、新しい生活を見つけなければと思う | 9. 自分を取り損ねた情報や、知らされていない情報があるような気がする |
| 3. 同じ境遇の人と、故郷の言葉(方言)で気兼ねなく話したい | 10. 浪江町の知り合いと連絡がつかないので、困っている |
| 4. どのような形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がっていたい | 11. 避難している地域の住民にはなじめないと感じる |
| 5. 全てを網羅した情報源がなく、知りたい情報を取得するのが大変 | 12. 誰にも心を開いて話せないと感じる |
| 6. 先の見通しが立たないので、困っている | 13. 社会や世間から取り残されていると感じる |
| 7. さまざまな決定事項の検討過程が不透明な感じがする | |

最後に、自由なご意見をお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 13 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ち、また、避難期間中の住宅や居住環境や生活において困っていること、改善を求めることなど(医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど)をご自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、

8月22日(金)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**浪江町 住民意向調査
報告書**

平成27年3月

復興庁 福島県 浪江町

調査機関：株式会社サーベイリサーチセンター

